

## 4 小原地区の植物

### (1) 小原地区の概要

小原地区は、三河高原の北西部にあたり、北部は岐阜県土岐市、瑞浪市、恵那市明知地区に、東南部は市内の旭地区、西南部は藤岡地区に接している市内最北端の山間地である。標高 300m 平均の中心部の平地とそれを取り巻く山地がある準高原の山間地で、矢作川から平坦地まで上には高低差が 200m と厳しいが、藤岡地区からは徐々に高度を上げるため、高低差はあまり感じられない。

矢作川は小原地区と対岸の旭地区の地形を 200m ほど削った厳しい渓谷を作っているが、景観がすこぶるよい。百月町、築平町、日面町、樽俣町等の山地には矢作川からの厳しい崖が多いが、築平町の盤照神社社叢林には市指定天然記念物スギ、カゴノキがある。特にカゴノキ（クスノキ科）は暖地性植物で、このような山地に入り込むというのは珍しい。向かいの旭地区市平町の津島神社のカゴノキも同指定木があるのは矢作川の影響であろう。また、日面町のスギ林下の林道沿いは、サジラン等のシダ類やイヌショウマ・サラシナショウマのキンポウゲ科植物等を始め植生が豊かである。また川下町から矢作川に流れる田代川は、矢作川へ流れる上流 1km の間は、川面が見えないほど巨岩が累々と重なる谷ができ一般に「地獄谷」といわれている。かつてはヒナラン等のラン類が見られたというが、現在では見当たらず、川下発電所のダムから下る左岸の林道は荒れ、アカラシが繁茂しているが中にはイイギリの大木が見られる。

最高地で、名がある山地は小原田代町の西山が標高 712.4m、大ケ蔵連国有林 (554m)、蚕霊山 (434.2m)、道慈山 (360m) であって、最低地は百月町の矢作川河畔の 100m である。大ケ蔵連国有林はスギ・ヒノキの植林が多い中、旧国道が通っていた道路沿いは、自然植生が戻り、市内ではあまり見られない低木のナンキンナナカマド（バラ科）や名前のはっきりしないオオナンカイワカガミ（イワウメ科）としているイワカガミがあるが少なくなっている。それに大木で赤い果実が冬場では見事であるイイギリ（イイギリ科）等植生が豊富である。

西山は入山しにくく、すぐ下のため池は大きく、上流部はハンノキの湿地がある。道慈山は観音寺の社叢林でツクバネガシ等常緑樹が多く、高い山に多いゴヨウマツ、コウヤマキがある等温帯と暖帯性の植物の混生が見られる。特にコウヤマキは刈萱町峰森神社の市指定天然記念物で、ほかには小原地区の高い峯にも見られる温帯性の植物である。

小原田代町から小原北町、大洞町、荷掛町、大平町の北西部の山頂近くを走る林道は長く、所々湿地（代表湿地は市指定天然記念物バイケイソウ自生地、タニヘゴ湿地）が見られる等、植物観察に適した場所になっている。大平町の湿地にシデコブシの大群落地が見つかった。今まで、スギ・ヒノキの伐採時に知らずに刈り取っていたということである。1960 年代の記録では大平口、北築平町の国道沿いの谷にあるということ、この調査中幼苗を見つけたがその後誰かが採掘してしまった。それで小原地区にはないと考えていたが、今回の発見で自生地が増えた。

それに、ハナノキ（カエデ科）の自生地が小原北町の山中、また、大ケ蔵連町国道沿い別荘地下、それに小原 CC 内にもあることが分かり、また、古い植栽のハナノキが沢田町八幡神社の鳥居横にある等新発見があった。

国有林は東北部の大ケ蔵連町の大ケ蔵連国有林、それに矢作川沿いの百月・舟ヶ沢国有林の 3 か所あるが百月国有林は 47 豪雨で谷抜けし植生が貧弱である。北部の水源山地内には小原ゴルフ場や松名ゴルフ場が設定されている。

愛知国定公園が百月町、築平町、日面町、平畑町等の矢作川筋に設定されている。

## (2) 国有林, 県有林等の植物

小原地区は山に囲まれた自然豊かな山間地である中, 名のある登山や観光地の山がない. そのような中で植栽地が中心であるが, 植生が残っている国有林が3か所, 大ケ蔵連と百月・舟ヶ沢国有林がある. 百月国有林では矢作川寄りの谷は47豪雨で谷抜けし, 植生地が流され, 植生が貧弱である. その他県有林が藤岡地区からの小原入口付近の大平町(万作), 北篠平町(七々山)付近に設定されていてここでは, 本来の植生が見られる.

### ア 大ケ蔵連国有林

北部山地の県境にある国有林は, 国道419号が通るトンネルの東に連なる大きな山塊である.

高い山頂は556mの標高があり, 低い谷間は400mほどで, 猿投山や三国山と比べると中腹地で目標になる観光的な頂上がなく, スギ・ヒノキの植林が多い林業中心の山である.

この国有林内の植物調査では許可をもらう必要があるが, トンネル東の谷を走る県道(20号)は自由に通ることはできる. この道はダンプカーが走るので気を付けたい.

### (ア) 旧国道沿い

国道はトンネルができる以前には, 右の山腹あたりをくねくね曲がりながら通っていた. トンネルができたために, その旧国道は倒木があって荒れているが本来の植生が戻ってきた.

アサクラザンショウ, イイギリ, ウリハダカエデ, カナクギノキ, クロソヨゴ(市配慮種), コウヤミズキ, コハウチワカエデ, ゴヨウマツ, コウヤミズキ, シラキ, タニウツギ, タムシバ, ツガ, ナンキンナナカマド, ニガキ, フサザクラ, マルバノキ, ヤマイバラ等温帯性の高木・亜高木層が見られる. ナンキンナナカマドもこのような山地でないと見られない種で, 紅葉や赤い実が美しい. イイギリ, コウヤミズキ, マルバノキは藤岡地区にも見られるが, 特にここではイイギリの大木が何本もあり, 冬場の房状の赤い果実は見事である.

草本層で注目したい種はオオナンカイイワカガミ(花色は桃色と白色があり, ヤマイワカガミとオオイワカガミの中間種で学名が確定していなく, ヤマイワカガミの変種で日本海系植物), コバノフユイチゴ, ニシキゴロモ, ヒメキンミズヒキ, ミヤマヨメナ等である. しかし, オオナンカイイワカガミは崖淵に生育するので, スギ・ヒノキの日陰のため育ちが悪くなり, また, 土砂崩れで落ち少なくなってしまった.

注目したいのは, 大ケ蔵連地区のような標高500mの山地に, 暖帯性の常緑広葉樹のカシ類が入り込んでいることである. 大きな群落を作るのではないが単木でアラカシ, ウラジロガシ, ツクバネガシが見られる.



写真V-70 イイギリ



写真V-71 オオナンカイイワカガミ



写真V-72 フサザクラ

(イ) 県道 20 号線沿い

国道東北下の谷には、大ケ蔵連川が流れ、県道（20 号線）がトンネル西口から恵那市へ通っている。この県道沿いも植生が豊かである。

アオキ、アサクラザンショウ、アワブキ、エンコウカエデ、オオカメノキ、オオツルウメモドキ、オオネズミガヤ、カナクギノキ、クロモジ、クロミノニシゴリ、コウヤミズキ、コナラ、ゴヨウマツ、コハウチワカエデ、ユズリハ、ヤブニッケイ、ヤマイバラ、ヤマボウシ等の多くの高木・亜高木層が見られ、アキチョウジ、シュウブソウ、ダイコンソウ、ツルニガクサ、ナガバヤブマオ、ニシキゴロモ、フシグロセンノウ、マツカゼソウ、ミヤマチドメ、モミジハグマ、ワタムキアザミ等の草本層がある。特に、水気のある川岸にはミヤマヨメナが一面に青紫色のきれいな花を咲かせているし、そのほかウワバミソウ、タニギキョウ、ミカワチャルメルソウ、ミヤマナルコユリが見られる。

道路沿いにはウリハダカエデ、オオバヤシャブシ、タニウツギ、タマアジサイ、フサザクラ、ヤマイバラの中低木、イイギリ、ミズキの大木が多い。シダ類ではイヌシダ、オオヒメワラビ、キヨスミヒメワラビ、ホソバシケシダ、ヤシャゼンマイ等で少ない。

(ウ) 西口から三叉谷林道

国有林の中には県道北上に林道が通っているが、自動車は通れない。

道沿いは明るく、アカマツ・コナラ林であり、イイギリ、ウワミズザクラ、エゴノキ、エンコウカエデ、オオバヤシャブシ、オニグルミ、カスミザクラ、クマノミズキ、クロマツ、ケケンポナシ、コウヤミズキ、コシアブラ、ゴヨウマツ、シラカシ、スギ、ソヨゴ、タムシバ、ツガ、ホオノキ、ハウチワカエデ、モミ、ミズキ、ヤマハンノキ、ヤマコウバシ、ヤマガキ、ヤマザクラ、ユズリハ等の落葉・常緑・針葉の高木層がある。アオキ、イヌガヤ、イヌツゲ、イワガラミ（多）、ウスギヨウラク、ウスノキ、ウツギ、ウラジロノキ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、オトコヨウゾメ、カナクギノキ、クマヤナギ、キブシ、クロモジ、コアジサイ、コバノミツバツツジ、サカキ、シロモジ、タニウツギ、ナガバモミジイチゴ、ニガイチゴ、ネジキ、バイカツツジ、ヒサカキ、ヒメヤシャブシ、マタタビ、マツブサ、マルバノキ、ミツバアケビ、ミヤマガマズミ、モチツツジ、ヤマイバラ、ヤブコウジ等亜高木、低木層の落葉・常緑広葉樹が見られる不思議な山地である。

草本層では、アキノキリンソウ、オトコブドウ、カキノハグサ、カキラン、キランソウ、クモキリソウ、クルマバハグマ、コバノフユイチゴ、サトヤマトンボソウ、シソバタツナミ、スルガテンナンショウ、タガネソウ、チゴユリ、ハナニガナ、ヒメハギ、マムシグサ、ミヤマナルコユリ、ヤブタバコ、ワタムキアザミ等がある。この中で特にコバノフユイチゴ（バラ科）は苗木花崗岩地帯にしかない種と言われ、市内でも稲武地区に、県内では東栄、豊根地区にし



写真 V-73 カキノハグサ



写真 V-74 タニウツギ

かない、フユイチゴに似た地上を這い、葉が小さく丸く茎に鋭い毛が多い特徴がある種である。マルバノキもこの種である。

#### (エ) 東からの三叉谷林道

西口から通じる林道に東口からでも入れる。危険な断崖が続く林道をよく作ったものであることを感心するが、許可なく入山することを禁じていることも分かる。高所に生育する針葉樹のゴヨウマツ、ツガ、モミ等がアカマツ・コナラ林に混入した森林で、イイギリ、ウリカエデ、エノキ、クマノミズキ、コウヤミズキ、マルバノキ、マンサク等の落葉広葉樹に、少ないがアラカシ、シラカシ等の常緑広葉樹が入り、低木層のアオキ、アセビ、イヌツゲ、シキミ、ヒサカキに、亜高木層のソヨゴ、ユズリハが入る森林である。マルバノキ（マンサク科）の紅葉と落葉後の秋に咲く小さい紅色星状の花は素敵である。外来種のヨモギキク（キク科）があるのは、林道工事で土砂が持ち込まれた時に紛れ込んだものであろう。ヨーロッパからシベリアにかけての原産で、観賞用に栽培され、逸出し野生化したもので、開花時に全草を乾燥して駆虫剤として利用された。



写真 V-75 マルバノキ

#### (オ) 旧国道の一つ南の谷

小原 CC 入り口の国道（419 号）東の谷には林道らしいものがあるが、歩きにくい。ゴヨウマツの幼苗があり、多分峯には大木がありそうである。タムシバ、ツリバナ、ナンキンナナカマド、マルバノキ、ミヤマウメモドキ、メギ等の木々に、アオスゲ、ナガバノスミレサイシン、オオナンカイイワカガミ、マツカゼソウ、ヤマトウバナ等が見られる。川沿いにはミヤマヨメナの大群落がある。

#### (カ) 大ヶ蔵連町柿木平林道

同じ大ヶ蔵連国有林の一部として、この林道に入る。ウツギ、コナラ、マルバノキ、シロモジがとても多い。秋のマルバノキやシロモジの黄葉は見事であろう。ウスギヨウラク、カキノハグサ、タンナサワフタギがこの地区では少ない種である。

湿地があり、アギナシ、アケボノソウ、オニスゲ、カザグルマ、キセルアザミ、クロウメモドキ、シカクイ、ノリウツギ、ミヤマシラスゲ、ミヤマウメモドキ等を含めた湿地植物がある。

#### (キ) 大ヶ蔵連町土地郷 南の谷

同じ大ヶ蔵連町の国有林に続く多分民有林であろうが、ついでに南の谷に入った。小川の中を進むと水際にはシシガシラ、ショウジョウバカマ、ミカワチャルメルソウ、サワオトギリ、テバコモミジガサ等多くの小型植物が見られる。奥地には湿気の高い広場がありアカメガシワ、アラカシ、イイギリ、シラカシ、ホオノキ、ヤマザクラ等の高木層があり、イワガラミとツルアジサイのつる性の木々が高木に登っている。この両方が見られる場所は少なく、市内ではツルアジサイが少ない。

亜高木層はなく、低木層はアサクラザンショウ、イヌウメモドキ、カナクギノキ、クロウメ

モドキ、コウヤミズキ、タニウツギ、ダンコウバイ、タンナサワフタギ、マルバノキ、メギ、ミヤマウメモドキ、ヤマアジサイ等あり、草本層ではイヌショウマ、イワネコノメソウ、ウマノミツバ、キツリフネ、クサアジサイ、チダケサシ、トリアシショウマ、ミゾホオズキ、ミヤマタニタデに、シダ類のジュウモンジシダ、タニヘゴ、ホソバシケシダ、リョウメンシダ等である。

## イ 百月国有林

百月発電所に流れる李川に沿う道を李方面へ登る。47 豪雨でほとんど砂地がなくなる谷抜けが起こり、緑地がなく植生もほとんどない谷になっている。川原の砂地にヤマヒョウタンボク、岩陰にタラヨウ（モチノキ科）が見られる。この木は暖地性の木であるから珍しく、この谷がやや暖かいことを示している。道沿いにはクロウメモドキが、川沿いの岩にはケイリュウタチツボスミレ、マキノスミレが見られた。

李川をしばらく登った右、百月橋を渡り林道に入る。川下町側の百月国有林内を通る林道である。林道にしては広いので空を見ると電線が走る、今は保線路であるが鉄塔建設工事用の道であったようだ。イトアオスゲ、オオウラジロノキ、オオイタドリ（保線路を作るときに土砂に混じってきた）、オトコヨウゾメ、カヤラン（ヤマハンノキに着生）、コショウノキ（常緑低木で山地に自生、猿投山、六所山、伊熊神社等限られた場所）、シライトソウの群落も見られ、ヤマヒョウタンボクも途中にあり、林道は頂上付近の鉄塔まで伸びている。頂上付近にはゴヨウマツ、イイギリがあり、ツクバネガシが多い。

途中に湿地があり、サクラバハンノキ林下の湿地（50m×15m）である。詳しくは湿地の項参照。

国有林内ではないが、李町に近い上記の保線路の反対側、西奥の谷には石材店の採石場がある。ウスノキ、ウラジロノキ、オオウラジロノキ、クマヤナギ、ケクロモジ、ツクバネガシ、ハリギリ、ヤマヒョウタンボク等の樹木にオヤマボクチ、ホクチアザミ、ペラペラヨメナ（外来種）が見られ、水気のある場所にはオタルスゲ、カサスゲ、ゴウソ、テキリスゲ等の湿地植物がある。シダ類ではコシダ、ウラジロ、ツヤナシイノデ等である。



写真 V-76 サクラバハンノキの湿地

## ウ 舟ヶ沢国有林

百月国有林の反対李川の西側、谷奥がこの国有林で、この谷は、石切場跡地があり林道脇の土手は石積みが多く、谷には切り石がごろごろしており、登った上は広場があり畑にされ、梅の木が植林されている。その奥が国有林であり入口は鎖で通行止めにしてある。

### (ア) 李川付近の植生

上川口浄水場に入る橋から舟ヶ沢国有林に入る橋までの李川沿いの道の植生を調べた。

アワブキ、イロハモミジ、ウツギ、ウラジロノキ、ウリカエデ、オオカメノキ、カザグルマ、ケヤマハンノキ、コアジサイ、コハウチワカエデ、サカキ、ヒサカキ、タニウツギ、ツルウメモドキ、ノリウツギ、ミヤマガマズミ等のこの地区の山道脇の植生と大体同じである。イロハモミジは植栽種であろう、注目したいのはカザグルマ、タニウツギである。カザグルマ（キン

ポウゲ科)は環境省準絶滅危惧 (NT), 愛知県絶滅危惧 II 類 (VU) である。タニウツギは北海道と日本海側に主に自生する種 (日本海系植物) で, 県内はもちろん市内にも生育していることに注目したい。

(イ) 舟ヶ沢国有林の入り口までの林道

小川の小湿地には, ミヤマヨメナの群落, 道横にはエンコウカエデ, オオカメノキ, コハウチワカエデ, タニウツギ, ハクウンボク, ヤマヒョウタンボク, ヤマボウシ等が見られる。国有林内はスギ・ヒノキの植林で, ツクバネが林床を覆っている。



写真 V-77 ヤマヒョウタンボク

エ 県有林の植物

何か所かに県有林があり, 47 豪雨以降砂防堤が構築され, その後自然植生が戻ってきている。

(ア) 大平町万作 中古屋川沿い

砂防ダムが幾つも構築されている谷であるが, 雑木林の山地であり, 自然植生がよく残っている。アカマツ, アベマキ, イイギリ, クロマツ, コウヤミズキ, コナラ, タカノツメ, タニウツギ, タムシバ, ハクウンボク, ヒサカキ, ヒメヤシャブシ, フモトミズナラ, ベニドウダン, マルバノキ, マンサク, ヤマザクラ等の樹木があるが, クロマツとヒメヤシャブシが存在することは, 過去裸山であり, 戦後砂防工事が施工されたことを示しており, その後生えてきた木々が現在見られる。コウヤミズキ, ハクウンボク, ベニドウダン, マルバノキ, マンサクは花木でもあるので, 盗伐を注意したい。

砂防堤の上流部は土砂で埋まり湿地ができ, 湿地植物が生えている。アブラガヤ, イトイヌノハナヒゲ, イヌコウジ, イヌノハナヒゲ, オカトラノオ, コイヌノハナヒゲ, サワヒヨドリ, センダングサ, ヌマガヤ, ノギラン, ヒメシダ, フトイ, ホザキノミミカキグサ, ホタルイ等があり, 岩にはミカワチャルメルソウがつく。

(イ) 北篠平町大平口付近

大平川の対岸 (右岸) には, クロモジ, コハウチワカエデ, コウヤミズキ, ダイセンミツバツツジ, マルバノキ, ミヤマウグイスカグラ, ヤマヒョウタンボク, ヤマボウシ等の落葉広葉樹が見られる。シラスゲ, ノカンゾウ, フモトスミレ, ヒメカンスゲ等が土手に, 多数のミヤマヨメナが岸を埋め尽くしている。川の中の岩にはナルコスゲが丸く覆っている。



写真 V-78 ナルコスゲ

少しぬまった場所には, サクラバハノキの林があり, 林床にカザグルマ, コハリスゲ, ショウジョウバカマ, チダケサシ, ナルコユリ, ハルリンドウ, ミヤマシラスゲ, ヤブコウジが見られる。

東北の保線路の谷の入口付近に以前, シデコブシがあったと記されている (1958)。47 豪雨以降この谷が改良され, 土砂で埋められているから絶滅したのであろうと付近を探中, 小苗が

見つかる。また少し山に入った保線路横の谷にも幼苗があったが、どちらも 1 年後この苗は消えていた。誰かが掘り取ったものと思われる。ホソバヒカゲスゲがヒノキ林の林下に、山麓にはニシキゴロモ、ヤマウグイスカグラ、ヤマヒョウタンボク、センボンヤリ等の草本・低木層が見られ、大木のタマミズキも空に枝を張っている。

#### (ウ) 大平町万作からの県有林内尾根への林道

国道 419 号の万作の東、カーブの北から県有林林道に入り、標高 240m の峠までの林道沿いの植生調査を行う。林道は尾根に沿っているので乾燥している。以前は裸山であったが砂防工事で、クロマツ、アカマツに肥料木としてオオバヤシャブシ、ヒメヤシャブシを植えたのが現在残っている。現在は復旧したアカマツ・コナラ林となり、付随のアセビ、ウツギ、コバノミツバツツジ、ニガイチゴ、ヌルデ、ヒメコウゾ、ヤマハギ、ヤマウルシの亜高木層や低木層の森林構成となっている。それにこの地区の特徴のフモトミズナラ（愛知県準絶滅危惧 (NT)）、マルバノキ、コウヤマキ（愛知県準絶滅危惧 (NT)）が見られる。

それに愛知県では初で、環境省絶滅危惧 II 類 (VU) のイワヨモギ（キク科）が発見できた。イワヨモギは北海道の一部の国定公園に自生とのこと、なぜこの林道にあるか疑問であるが、林道を造る際に土砂に混じり込んで来たと考えられる。キキョウも少なく環境省・愛知県絶滅危惧 II 類 (VU) の貴重な存在の花になった。マツムシソウも愛知県準絶滅危惧 (NT) であるが、ここの種はミカワマツムシソウといい花卉数が少ない種である。峯近くにはオケラ、カワラヨモギ、ホソバノヤマハハコ等乾燥に強い草本もある。

県有林入口の右手の谷に砂防堤があり、上流部は土砂で埋まり湿地植物が生育している。「万作県有林内林道入り口湿地」という長い仮名をつけた。湿地の項でなくここに記す。

アオコウガイゼキショウ、アゼガヤツリ、イトイヌノハナヒゲ、カキラン、カリマタガヤ、シカクイ、シロイヌノヒゲ、トウカイコモウセンゴケ、ハイヌメリ、ホザキノミミカキグサ、ヒメシロネ、ヒメホタルイ、ミズカヤツリ、ミミカキグサ、ヤマイ等を含めた多数の湿地植物があり、ヌマガヤが谷地坊主を作り、チゴザサが一面を覆う。周りの木々もマルバノキ、シロモジが多く、ノリウツギ、ケヤマハンノキ、ミヤコイバラが湿地に侵入している。堤の東に太いベニドウダンが見られる。



写真 V-79 ミカワマツムシソウ

### (3) 社叢林の植物

#### ア 小原田代町八幡神社の社叢林

小原地区では一番北にある神社で、鳥居横の 2 本の杉は門を思わせる大木で、市指定天然記念物「田代の二本スギ」で高さ 37m、二本目も同じ高さ、胸高周 5.6m と 5.1m の巨木である。

境内、特に背後地の社叢林は、アカマツ・コナラ林であり、鬱蒼とした常緑樹の森でなくウラジロガシがあるくらいである。高木層では、針葉樹のモミが、それにアカシデ、アベマキ、ホオノキくらいである。境内の土手はきれいに草刈りされているので草本層は少



写真 V-80 田代の二本スギ  
(小原田代町八幡神社) 市指定天然記念物

ない。

#### イ 小原北町神明神社の社叢林

道下に鎮座するので分かりづらいが、緑の森であり、ツクバネガシが多い。ツクバネガシの大きいのは高さ 25m、胸高周 2.4m の大木である。標高 500m までの高地に生育することが分かる。

#### ウ 雑敷町八柱神社の社叢林

雑敷町の氏神八柱神社の社叢林を調査する。東からの参道下の草地は、ミヤマフユイチゴが一面に覆って赤い果実が実っている。シロヨメナ、スルガテンナンショウ、ノコンギク、ミズヒキ、ヤブミョウガ、参道脇の土手にはこれも一面ワタムキアザミ（キク科）ばかりである。境内には大木のスギ（胸高周 4m、高さ 40m）を始め、幾本かのスギがある。背後の山地はツクバネガシの常緑樹社叢林である。これほど多くのツクバネガシがこの地区の北部にあることは珍しい。中はアラカシ、シラカシ、サカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ等の常緑紅葉樹も混生している。

この森の北側の山裾には、アカシデ、アベマキ、アワブキ、イイギリ、ウワミズザクラ、コナラ、ハリギリ、ツノハシバミ等の落葉広葉樹があるのは、北側はやはり、南側より気温が低いことを表す。林下にはオクモミジハグマ、シュンラン、スルガテンナンショウ、チゴユリ、ツルアリドオシ、ベニシダ等にキバナイカリソウの群落がある。

#### エ 大洞町白山神社の社叢林

大洞町の西山地に鎮座する白山神社には、常緑暖帯林のツクバネガシと高地の温帯性の針葉樹ツガやゴヨウマツが混生する。ツクバネガシはこのあたりから小原北町神明神社、雑敷町八幡神社、上仁木町諏訪神社までを結んだ線が北限と推測できる、市指定天然記念物「大洞のスギ（高さ 32m、胸高周 5.6m）」、同じく「大洞のツガ（高さ 23m、胸高周 3.65m）」に、市指定名木 No. 284 号ツクバネガシ（高さ 17m、胸高周 3.6m）があり、ゴヨウマツ（高さ 21m、胸高周 2.9m）も高木である。

#### オ 上仁木町諏訪神社の社叢林

上仁木町の交差点から東郷町への県道上にある神社で常緑樹の社叢林がある。市指定天然記念物「上仁木諏訪神社のアラカシ」（高さ 18m、胸高周 2.4m）が境内の西にあるが、種名はツクバネガシのようである。ツクバネガシが多く、社殿左には高さ 20.3m、胸高周 3.4m の木もある。ほかにモミ（高さ 36m、胸高周 3.1m）もあるが、西の住宅裏山に砂防壁が構築されたのに伴い何本かが伐採されたのは惜しまれる。左山上のスギ（高さ 32m、胸高周 3.4m）も大木、社殿の右には市指定名木 No. 286 号のヒノキ（高さ 31m、胸高周 3m）、ヤマザクラの 3 本立て（高さ 28m、胸高周 1.35m が最大）、それに正面からの石段の両脇にもツクバネガシ、スギ・ヒノキがある。



写真 V-81 諏訪神社の社叢  
(上仁木町)

#### カ 下仁木町白鳥神社の社叢林

スギ・ヒノキやツクバネガシの社叢林である。ヒノキは高さ 25m, 胸高周 2.8m の大木であり, エドヒガンは高さ 21m, 胸高周 2.45m のサクラで, ほかにもスギ, ツクバネガシの大木がある。それにモミの大木もある。神社へは正面鳥居から上る石段, 西北の坂道があるが, 草刈り前の時期に行くと植生が豊富である。高木層は上記以外に, アカシデ, アベマキ, アラカシ, イロハカエデ, カスミザクラ, クリ, コナラ, シロダモ, ハリギリ, ホオノキ, ムクノキ, ヤマザクラがある。西からの参道の脇には, カキノハグサ (ヒメハギ科, 市配慮種), キンラン (ラン科, 環境省絶滅危惧 II 類 (VU), 愛知県準絶滅危惧 (NT)) が偶然見つかる。

東の参道坂には, カキノハグサ, キバナイカリソウ (メギ科, 市配慮種), ホソバシュロソウ (シュロソウ科, 市配慮種), ホソバナライシダ (オシダ科, 市配慮種) 等市内では少ない種がある。ホソバシュロソウは伊吹山等高山に生えるシュロソウの中で葉が細い種である。この神社の東を降りた市道脇にも見られるし, 市内でも西広瀬町や保見地区篠原町にもあるが, やや特殊な存在であるから, 特にこの場所での草刈り時には注意したいものである。

市道脇にはホソバシュロソウのほかアワブキ, イヌウメモドキ, ナンテンハギが生育している。

#### キ 刈萱町峰森神社の社叢林

刈萱町の北山地頂上に鎮座する峰森神社には, スギ・ヒノキのほか市指定天然記念物「峰森神社のコウヤマキ」(胸高周囲が 2.9m, 高さ 22m) がある。コウヤマキ (コウヤマキ科, 愛知県準絶滅危惧 (NT)) は, 尾根や岩場に生えている常緑高木で, 樹肌が赤褐色のスギ状, 材には芳香がある。高野山に多く見られることから名付けられたという。市内で旭 (伊熊町), 稲武, 藤岡地区にあり, 県内では北設楽地区に見られる自生が少ない樹木である。当地区では刈萱町の北, 東郷町の西山地の峰や李町神明神社の裏山に見られるくらいである。ここにはほかにモミの大木 (胸高周 3.2m, 高さ 26m) があり, 林床はネザサが覆う。参道脇にはカキノハグサ, ササユリが見られた。



写真 V-82 コウヤマキ  
市指定天然記念物 愛知県 (NT)

#### ク 永太郎町神明神社の社叢林

永太郎町の氏神は静かな山奥に鎮座する神明神社である。社殿前の石垣には, シロバナイカリソウの花が見られたが, 翌年訪れた時には刈り取られていた。

東の谷奥には, アサダ (カバノキ科) の大木がある。アサダの存在は市内でも足助・稲武地区と猿投山くらいで, 小原地区では新発見である。県下でも三河山間地に見られるくらいでやや珍しい落葉広葉樹である。樹木ではこのほかアオハダ, コハウチワカエデ, ハウチワカエデ, ミツバウツギ等が見られる。



写真 V-83 永太郎神社 (永太郎町)  
の東の谷の湿地

草本層ではアオスゲ, アカショウマ, アマチャヅル, ウバユリ, ウワバミソウ, イヌショウマ, カキドオシ, カシワバハグマ, キソキバナアキギリ, キランソウ, シギンカラマツ, シロバナイナモリソウ, ダケゼリ, タチイヌノフグリ, タチガシワ, タニギキョウ, テバコモミジガサ, ト

チバニンジン、ナガバノスミレサイシン、ノブキ、ヒメウワバミソウ、フクオウソウ、ムラサキサギゴケ、ヤマハッカ、ヤマトウバナ等の中にはこの地にだけに自生の種が見られる。シギンカラマツ（キンポウゲ科）は愛知県準絶滅危惧（NT）で市内では足助・旭・稲武地区に、県下でも東栄・豊橋北部地区に見られるだけで少ない種である。

シダ類も多くアイアスカイノデ、イヌシダ、イヌワラビ、イノモトソウ、イワガネゼンマイ、オオベニシダ、オクマワラビ、キジノオシダ、キヨタキシダ、クジャクシダ、ジュウモンジシダ、ゼンマイ、タニヘゴ、トウゲシバ、ヌリワラビ、ヒメワラビ、ヒロハイヌワラビ、ベニシダ、ヘビノネコザ、ミゾシダ、ミヤマイタチシダ、ヤシャゼンマイ、ヤマソテツ、ヤワラシダ、リョウメンシダ等 25 種で小原地区では一番多いシダの谷である。ヤマソテツ（キジノオシダ科）は愛知県準絶滅危惧（NT）であり亜高山帯のシダ類で県内では珍しい。

#### ケ 大平町白山神社の社叢林

スギ・ヒノキが抜き出ている緑の素晴らしい社叢林である。境内入口の鳥居近くに大きいスギが 2 本あり、1 本は市指定名木 (No. 285 号、高さ 36m、胸高周 4.1m) で、次は高さ 31m、胸高周 4.3m である。市指定天然記念物「大平のヒノキ」は高さ 28m、胸高周 4.9m であり、モミ（高さ 35m、胸高周 3.1m）、サワラ（高さ 32m、胸高周 3.3m）等を筆頭に多くの巨木がある。市指定天然記念物「大平のサカキ」（高さ 20m、胸高周 1.4m）は参道脇にあり見事な大きさである。サカキは神前に供える玉串に使うのに切られるから、普通はこれほど大きくはならない。



写真 V-84 大平町白山神社

#### コ 道慈山の社叢林

千洗町の道慈小学校と東の道慈山観音寺を含めて道慈山といい、常緑樹の森である。境内を支える三方が山の斜面で、ヒノキ（高さ 23m、胸高周 2.9m）の植林が多い中、ツクバネガシ（胸高周 2.8m、高さ 17m）が最も多い。アラカシ、ウラジロガシ、シラカシのカシ類が大半を占め、アベマキ、コナラの広葉落葉樹、モミ、ゴヨウマツの針葉樹が混生する高木層を構成する。亜高木層ではツクバネガシ、サカキ、アラカシ、ヒサカキがあり、低木層ではアセビ、イヌツゲ、ウラジロガシ、シキミ、ミヤマシキミ、ヤダケ、ヤブニッケイ等が、草本層ではアラカシ、イヌツゲ、ゴヨウマツ、ソヨゴ、ツクバネガシ等常緑樹の幼苗が見られる。常緑樹の幼苗が林床に生えていることは、将来も常緑樹の森が維持されるということである。ほかに林床ではシュンラン、スズカカンアオイ、ツルアリドオシ等の草本層が見られる。



写真 V-85  
道慈山観音寺（千洗町）の山門

#### サ 沢田町八幡神社の社叢林

この神社の境内は小山の上に鎮座し、シラカシの森である。市指定天然記念物「沢田のシラカシ」（高さ 23m、胸高周 2.63m）があり、市指定名木 No. 330 号の「シラカシ群（高さ 21m、胸高周

2.9m) 」として群生している。シラカシの北限がこの地までであることが確認できた。

鳥居付近には古いハナノキがあるのは珍しく、古老からの話では昔から存在するという植栽種である。鳥居の下、土手に植栽のソメイヨシノは古く、枝にカヤランが吊り下がっている。



写真 V-86 シラカシ  
沢田町八幡神社 市指定天然記念物  
優良広葉樹母樹

#### シ 小原町賀茂原神社の社叢林

市小原支所の北西下の森に鎮座するのが賀茂原神社で、古くは八幡神社であったが、明治期、大坂・鍛冶屋敷・篠平の神社を合祀して賀茂原神社にしたという。スギ・ヒノキが多い中、特に大きい市指定天然記念物「賀茂原神社のスギ」(高さ 40m, 胸高周 4.5m)がある。

アラカシ, クロガネモチ, クロモジ, コウヨウザン (植栽種), コナラ, サカキ, シラカシ, ツクバネガシ, ネズミモチ, ホオノキ, マルバノキ, マンサク, ヤブツバキ, ヤブニッケイ, ヤマザクラ, ユズリハ等の高・亜高木がスギ・ヒノキとともに社叢林を構成している。

シダ類も多く、イヌワラビ, イノデ, イワガネゼンマイ, ゲジゲジシダ, コウヤワラビ, シシガシラ, トウゲシバ, ハリガネワラビ, ベニシダ, ヘビノネコザ, ヤマヤブソテツ, リョウメンシダ等 12 種である。

つる類も多く、アオツヅラフジ, アマチャヅル, イワガラミ, キヅタ, サネカズラ, タチシオデ, ツルグミ, テイカカズラ, ノブドウ, フジ, フユイチゴ, マツブサ, ミヤマフユイチゴ, ヤイトバナ等 14 種である。



写真 V-87  
賀茂原神社のスギ (小原町)  
市指定天然記念物

#### ス 西丹波町神明神社の社叢林

西丹波町の北の山地に鎮座する神明神社の境内背後は、ヒノキ林であり、常緑広葉樹の高木があるこんもりとした社叢林ではない。石段付近を調査する。

アラカシ, アカメガシラ, エノキ, カタバミ, カヤ, サカキ, シラカシ, チャノキ, ヌルデ, ハナイカダ, ヤブコウジ, ヤブツバキ, ヤマウルシ等の高木・亜高木・低木層の木々は少ない。

草本層はアオカラムシ, エノキグサ, オオキンケイギク (特定外来生物), オオバコ, キツネノマゴ, キランソウ, クサイチゴ, クサノオウ, ゲンノショウコ, コウゾリナ, コオニタビラコ, コナスビ, ジャノヒゲ, スズメノヤリ, スミレ, タチツボスミレ, チガヤ, チヂミザサ, ツユクサ, ドクダミ, ノカンゾウ, ノコンギク, ハルジ



写真 V-88 ムクロジ  
熊野神社 (市場町)

オン、フキ、フタリシズカ、ミズヒキ、ミヤマフユイチゴ、ムラサキエノコロ、ヤブタビラコ、ヤブミョウガ、ヤブラン、ヤマジノホトトギス、ヤマホタルブクロ、ヨモギ等がある。

これらの草木にアオツツラフジ、アカネ、アケビ、アマチャヅル、カニクサ、キツタ、キレハノブドウ、クズ、ゴヨウアケビ、サルトリイバラ、タチシオデ、テイカカズラ、フジ、ホドイモ、マタタビ、ヤマノイモ等のつる類が絡んでいる。

シダ類ではイノモトソウ、カニクサ、クジャクシダ、ゲジゲジシダ、チャセンシダ、トウゲシバ、ノキシノブ、ヘビノネコザ、ヤマイタチシダである。この中で外来種は2種と少なく、日本古来の植物が存在する典型的な場所である。

西側に小川が流れ草地になり、西からの参道がある。参道近くの樹木は、アカシデ、ウツギ、ウワミズザクラ、コナラ、ダンコウバイ、ナワシロイチゴ、ネムノキ、ノイバラ、モウソウチク、モミジイチゴ、ヤマウルシ、ヤマハゼ、ヤマブキ等普通に見られる樹木である。

#### セ 市場町熊野神社の社叢林

スギ・ヒノキの社叢林で、市指定名木 No. 281 号のスギ（高さ 35m、胸高周 4.2m）がある。

アベマキ、アラカシ、コウヤマキ（愛知県準絶滅危惧 (NT)）、シラカシ、ツガ、ツクバネガシ、ムクロジ、モミが高木層を形成している。境内の社殿周りにホドイモ、マムシグサ、ミヤマナルコユリ、ワタムキアザミ等が多く生えている、

#### ソ 平畑町神明神社付近

平畑町北部の山地に鎮座する神明神社にはアラカシ・シラカシの常緑広葉樹の森で、それにアベマキ、ウワミズザクラ、エノキ、ケヤキ、コナラ、ホオノキ、ミズキ、ヤマザクラの落葉広葉樹の高木が混生する。アオキ、カラタチバナ、サカキ、シキミ、シロダモ、チャノキ、ナンテン、ヒイラギ、マンリョウ、ヤブツバキ、ヤダケ等の常緑広葉樹の亜高木・低木層が見られる。アブラチャン、ウリカエデ、クマノミズキ、クロモジ、コシアブラ、シロモジ、ヒメコウゾ、ミズキ等の落葉亜高木・低木層がある。イナカギク、キランソウ、ギンラン、ササユリ、ジャノヒゲ、シラヤマギク、ノコンギク、フタリシズカ、マムシグサ、ミヤマキケマン、ヤブニンジン、ユキノシタ等を含め多くの草本層がある。シダ類ではリョウメンシダが多い。

#### タ 李町神明神社の社叢林

境内の広場の周りにはスギ・ヒノキが植栽されているが巨木はない。社殿裏山はヒノキ林で雑木は下草刈りでほとんどない。注目したいのは植林地内に真直な木が見られた。よく見るとコウヤマキ（愛知県準絶滅危惧 (NT)）であり、周囲には幼苗が多く生えている。荇萱町の峰森神社等にもある等小原地区には自生することが確認できた。



写真 V-89 コウヤマキ  
李町神明神社裏山 愛知県 (NT)

#### チ 川下町神明神社の社叢林

広場の周りは、花崗岩地帯の特徴である瘦悪なアカマツ・コナラ林で特別な植物はなく、ヒノ

キが植林されている社叢林である。

高木層にはアカマツ、アカシデ、アベマキ、アラカシ、ウワミズザクラ、クリ、コナラ、シラカシ、ソヨゴ、タカノツメ、コシアブラ、ネムノキ等があり、亜高木・低木層にはアセビ、ネジキ、コバノミツバツツジ、イヌツゲ、ヒサカキ、キハギ等アカマツ・コナラ林に付随している種があるこのあたりの植生である。

#### ツ 日面町蚕霊山の社叢林

蚕の神様ということで、養蚕が盛んな時期、昭和40年代までは賑わいを見せた蚕霊神社であった。山頂には社殿があり、神主も住んでおられる。

周りの植生は、アカマツ・コナラ林で特徴ある植生は見られないがゴヨウマツはやや高所(434.2m)ということで自生する。



写真 V-90 蚕霊山(日面町)の社殿  
山頂に建つが周りの木々は少ない

#### テ 築平町磐照神社の社叢林

市指定天然記念物の「築平のカゴノキ」、「親子スギ」がある。中でも、カゴノキ(クスノキ科)は暖地性の樹木で、このような山間地に自生することは珍しいが、築平町の上流、川下町からの峠の岩穴にもあり、矢作川の向かい旭地区市平町の津島神社にも市指定天然記念物「かごの木」の大木があることで、矢作川沿いが暖かいことを示している。猿投山、六所山の中腹にもあるが霧のかかるあたりは温かいことに起因することと同じであろう。

スギの植林が多い緑の社叢林で、スギ・ヒノキ、アラカシ以外の高木はなく、夏でも暗い。林下にはアオキ、アセビ、チャノキ、ナンテン、ハナイカダ、ヤブツバキ等の低木常緑樹、特にアオキ、アセビが多い。草本層ではノブキが多い。

### (4) 山路の植物

小原地区には、谷間に田畑が多く、また谷から谷へ向かう林道や市道が通じているので、道路沿いの植生が多く調査できた。国有林や県有林はその項で記述してあるので、一般の市道、林道例えば「樽俣町から旭地区上中町までの市道」等である。

#### ア 旧福原小学校と神明神社裏山から尾根への植生

旧福原小学校は校庭等が残り、テニスコートがあり時々使われているようだが、コート以外は雑草が生え、周りには、ユリノキ(モクレン科)、イチョウ(2株)の大木が残っている。西上には運動場の跡があり、ススキが繁茂し、北山麓にはモウソウチクが茂り、あまり見ないナンテンハギ(マメ科)が土手にある。

小学校裏には神社があり、上り道横にはワタムキアザミが多い。カスミザクラの幹にはカヤランが付く。境内の石垣の隙間からキバナイカリソウが生えている。湿り気が高い境内には、シダ類が多くイヌガンソク、イノデ、ゲジゲジシダ、シケシダ、ゼンマイ、トウゴクシダ、ノキシノブ、ハリガネワラビ、ベニシダ、ホソバシケシ



写真 V-91 ユズリハ  
雑敷町から東郷町へ続く  
尾根の頂上付近

ダ、マメヅタ、ミヤマノキシノブ、ヤマイタチシダ等 13 種があり、シケシダ、ホソバシケシダが多い。

ここから、強引に峯を目指し、東郷町西の山頂を歩き、西の大ケ蔵連国有林まで行く。頂上の三角点付近には、コウヤマキとユズリハの高木があり、コウヤマキが小原地区に自生している確認を得た。目的地までは遠く、幾筋かの谷や峯を上り下りする。湿地もありトウギボウシ、ミズギボウシ、ミゾホオズキがあり、尾根にはナンキンナナカマドがある。どうにか国有林内に進めた。

#### イ 大ケ蔵連町土地ノ郷東のヤマアジサイの谷の植生

林道はないが、峯から下りた場所が国有林内のスギ・ヒノキ林内である。間伐後、陽の差す林下に下草が生えてきた谷で、ヤマアジサイの大群落がある。アセビ、アワブキ、イヌガヤ、ハナイカダ、ミヤマシキミ、ヤマアジサイ等の低木に、高木のケヤキもあり、落ちたスギ枝にカヤランがついている。

イワネコノメソウ、キツリフネ、クサアジサイ、タニギキョウ、チダケサシ、ハエドクソウ、ヒメウワバミソウ、ヒロハコンロンソウ、フタリシズカ、ミカワチャルメルソウ、モミジガサ、ヤマジノホトトギス、ワタムキアザミ等の草本層があり、少し下がった斜面に白いキノコのようなキヨスミウツボ（ハマウツボ科）の大群落がある。

キヨスミウツボは県内でも自生地は少なく、ここを入れて 8 か所であると記録されているが、現在確認できる場所は少なく、市内でも稲武地区、藤岡地区、旧豊田地区では記録があるが、我々の調査では現在未確認である。愛知県絶滅危惧 II 類（VU）に入る種でカシ・ナラ類、アジサイ類の根に寄生する多年草本である。イワネコノメソウ（ユキノシタ科）も自生地が少ない種である。

シダ類もキヨスミヒメワラビ、ホソバナライシダ等含めて 18 種あり、ほかの場所よりも多い方である。



写真 V-92 ヤマアジサイ  
大ケ蔵連国有林内

#### ウ 川見町から小村峠

川見町の北東を登る道があるから、何か植物があろうとということで入って行く。いろいろな洞があり田畑があるが、ほとんど耕作していない休耕地である。北に入ったクリ畑の南、小川の流れのある山裾にはキバナイカリソウの群落がある。山裾はヤブマオが多く、道沿いはススキ、チガヤが多い。

ウバユリ、オオオナモミ、シュウブソウ、スズカアザミ、ノアザミ、ミズヒキ、リンドウ、ワレモコウ等を含め多数の草本層がある中イヌショウマ、ナギナタコウジュ、ヤマボクチ等この地区では見ることの少ない種がある。希少種のキキョウ、ワタムキアザミもある。



写真 V-93 サラシナショウマ  
川見町

途中休耕田があり、湿地になっている。アカバナ、アケボノソウ、ザクロソウ、ヒメシロネをはじめ湿地植物が 15～16 種生えている。また北の洞に県農林公社林のスギ林があり、アケボノソウ等の湿地植物があり、クロウメモドキ、ニシキゴロモ、ヤマラッキョウ、ワタムキアザミ等少ない種がある。峠を小村峠といい、上仁木町に出る。出た県道を少し下がった宮代町の入り口付近に、サラシナショウマの尾状の白い花が目についた。ツノハシバミの木もある。

#### エ 寺平町団地横の道沿い

道沿いの植生を調査する。草本層は、アキノタムラソウ、アマチャヅル、アマドコロ、オニタビラコ、キッコウハグマ、キツネノボタン、キランソウ、キンミズヒキ、ササユリ、ショウジョウバカマ、シライトソウ、セリ、ダイコンソウ、チゴユリ、ドクダミ、ネコノメソウ、ハルリンドウ、ミヤマナルコユリ、ムラサキニガナ、ヤマネコノメ等、少し日が差すことで多く確認できた。

#### オ 寺平町団地東の山地林道沿い

山地奥に林道が続く。アカマツ・コナラ林の山地で、木々や林床の植生は、この地区の山地とほぼ同じで、高木層はアカマツ、アカシデ、アベマキ、アラカシ、ホオノキ、ヤマザクラ等で、亜高木・低木層はイヌツゲ、オオカメノキ、コバノミツバツツジ、ヒイラギ、ヒサカキ等である。草本層はキッコウハグマ、キンミズヒキ、コウヤボウキ、ササユリ、シライトソウ、ミヤマナルコユリ等であり、草本層が少ないことは、林下で暗いことが起因である。

#### カ 千洗町・大平町からの峠・一軒家の市道沿い

大平町の途中から千洗町への林道を行くと、一軒家がある峠に出る。このあたりの森林はアカマツ・コナラ林で、この地区の普通の植生である。高木層はヤマザクラ、アベマキ、アラカシ、ソヨゴ、タカノツメ、リョウブ等で、この地区の普通の植生スミレ、ニガナ、ノアザミ等多くあるが、あまり見ないクチナシグサがあった。ほかにはセイヨウタンポポをはじめ外来生物が 8 種、中に特定外来生物のオオキンケイギクがある。

#### キ 北篠平町から大平町への道路沿い

「空き地の道路沿い」、「水野美容院前の道路沿い」、「道の公園のような場所」ということでデータ表には記録してあるが、ここでは表題のようにまとめて記す。

オオカメノキ、サクラバハンノキ、ヘビノボラズ、マンサク、ヤマウグイスカグラくらいが目立つ樹木である。

道路沿いのため、春の野草の花が目につく。イタドリ、ウシハコベ、オオキンケイギク（特定外来生物）、オランダミミナグサ、カキドオシ、クサイチゴ、キツネノボタン、サギゴケ、シロツメクサ、スズメノヤリ、タケニグサ、タネツケバナ、ツリガネニンジン、ノカンゾウ（市配慮種）、ノミノフスマ、ヒメジョオン、ヒメスイバ、ヘビイチゴ等の草本層がある。外来種は、約 4 割を占める。

#### ク 市場町から北大野町への市道沿い

市場町の鱸城橋からの田代川沿いの市道を上る。山はスギ・ヒノキの植林であるが、川沿いの

ため明るい場所も多く、植生も豊かである。イヌコウジ、シライトソウ、シロヨメナ、セキヤノアキチョウジ、セントウソウ、ナギナタコウジュ等特徴ある草本も見られる。セントウソウ（セリ科）は市の配慮種で、市内ではこの場所にしかなく、県下でも北設楽地区や尾張地区には見られるがそれほど多くない小型の多年草でヤブニンジンに似ている。川岸にはオニグルミの大木、ケヤキ、エノキ、ケケンボナシ、ムクノキ、ヤマザクラ、ヤブデマリも多い。コクサギ、タマアジサイ、ヤマアジサイ等も多い。



写真 V-94 セントウソウ  
市配慮種

#### ケ 北大野町鳥屋平の植生

鳥屋平は北大野町の東奥谷で、藤井達吉の疎開先で和紙工房を建て、弟子たちを指導したという場所である。スギ・ヒノキの林で、中にはケヤキの大木（高さ 20m, 胸高周 60cm）があり、暗い谷間であるからイヌガヤ、ウリカエデ、オカウコギ、コクサギ、コシアブラ、シロダモ、タカノツメ、チャノキ、ハナイカダ、ニガキ等の低木層しかない。ニガキの幼苗が 2~3 本あるが刈られることが心配である。



写真 V-95 マダイオウ  
市配慮種

草本層も少なく、ナガバノスミレサイシン、フジカンゾウ、ムラサキニガナ、サワギク等である。それは、最近この場所を史跡として手入れし散策路を設定し、草刈りで草本が刈られているからである。

史跡の看板の下には、休耕田があり、荒れ果てている。水路には大きなマダイオウの群落がある。マダイオウ（タデ科）は多年草で高さ 1.5m に達する大型のタデで、県下ではまれな分布である。

鳥屋平から道を少し下がった場所に小さな池がある。多分ため池で、中にはワサビとエンコウソウがある。エンコウソウといえば大きい植栽田が和紙の里の駐車場奥にある。ここのエンコウソウは小原地区に自生していたものを移植したという。その元が不明であったが、この池であるようだ。貴重な池である。ワサビは植栽種かもしれない。

エンコウソウ（キンポウゲ科、愛知県絶滅危惧 IB 類 (EN)）は、県下では 1~2 か所しかない貴重な存在の種である。尾瀬湿原にあるリュウキンカと同じようであるが、花後茎を伸ばすことが区別点で、その茎の伸びる様子が猿の手に似るからエンコウソウと名がつく。

近くに墓地があり。イロハカエデ、ネズの大木がある。

#### コ 日面町賽の神の下 高床農場の下 林道沿い

スギ林の林床は昼間でもやや暗いが、湿気が多いのか、岩場もあるということで植生が豊富である。アオキ、クサギ、クロモジ、コアジサイ、タマアジサイ、ナンテン、ハナイカダ、ヤブコウジ、ヤマアジサイ、ヤブツバキ、ヤブニッケイ、ヤブデマリ等の亜高木や低木層があり、シャガが大きい群落をつくり、アマチャヅル、ミヤマフユイチゴ、ユキノシタが這う。岩にはカンスゲが付き、サジラン、マメヅタも多く着生している。ショウマ類のイヌショウマ（キンポウゲ科）、

サラシナショウマ(キンポウゲ科)とトリアシショウマ(ユキノシタ科)の3種があるが、科名は違う。しかし、3種が揃っていることは素晴らしい。ウマノミツバ、オニドコロ、キツリフネ、クサアジサイ、クサイチゴ、トウギボウシ、フタリシズカ、ハウチャクソウ、ユキノシタ、ヤブミョウガ、ワタムキアザミ等湿り気が多い林床に生育する草本層の種が多い。

マメヅタやサジランはシダ類で、その他、イワガネゼンマイ、イワヘゴ、キヨスミヒメワラビ、クジャクシダ、リョウメンシダ等含めて13種のシダ類がある。



写真 V-96 サジラン  
市配慮種

#### サ 北篠平町小原橋からの保線路沿い

小原橋から保線路の梯子を登る等、急な坂道が続く。以前、薪炭用材を切り出し過ぎて裸山になった山地で、戦後、砂防林としてアカマツ、クロマツ、オオバヤシャブシやヒメヤシャブシを植えた。その名残がこれらの種であり裸山であったことが分かる。だから現在はアカマツ・コナラ林が復活し、この地区のほかの山地と同じような植生に戻っている。高木層はアラカシ、アカマツ、クロマツ、コナラ、ヤマザクラ等で、ゴヨウマツがあるのはこの地区が高い山であることを示している。低木層はコバノミツバツツジ、シャシャンボ等アカマツ・コナラ林の林床に付随する種である。ここで注目したいのはフモトミズナラ(ブナ科)であり、準東海丘陵要素植物の一つがこの山地にまで上っていることを示す。この奥の鉄塔下に山頂の湿地がある。

#### シ 李町から市場町への市道沿い

李町の北へ李西沢を上り、本城小学校までの市道を歩く。アベマキの大木が多く、スギ・ヒノキの植林で暗くなっている場所も多く、道沿いは草刈りで草本層は見られず、やや踏み込んだ中にはある。元はアカマツ・コナラ林で、峯にはモミが生え、アカメガシワ、アベマキ、イイギリ、エノキ、オオカメノキ、ケヤキ、シロダモ、ホオノキ、ムクノキ、ヤマザクラ、リョウブ等に、常緑樹のカシ類のアラカシ、シラカシ、ツクバネガシが混生した植生の森林が所々に見られる。キク科のイナカギク、シラヤマギク、タムラソウ(市配慮種)、ノコンギク、ヤマボクチ等の花が咲き、ツルニガクサ(シソ科、市配慮種)もある。

#### ス 李町への入口石材店東の洞・山麓(川下町)

李町に入る手前にある石材店東の洞は川下町に属する田畑があり、上部には変電所がある。北斜面であるから湿気が多いかということ赤土で予想外に乾いた斜面である。

アカショウマ、アキノタムラソウ、オカトラノオ、オヘビイチゴ、ササユリ、シラヤマギク、センブリ、ニガナ、ワタムキアザミ等を含んで多くの草本層がある中で、カキノハグサ(ヒメハギ科)の黄色い花はよく目立つ。変電所下の休耕地や林道を調べるが、普通のこの地区の植生と同じである。

#### セ 李町神明神社周辺の林道沿い

「李町神明神社から西へ、山越え裏へ」、「神社の東洞(川下町)石切り場、桑畑へ」、「神社の

東洞，農道と北谷の小湿地」，「神社の東洞，山北斜面と小湿地」，「李町の北の洞から神社へ」と神社を中心に1日調査を行う。神社の社叢林は「李神明神社の社叢林」と別項に記してある。東の洞奥の方は川下町に入るが，ここに入れた。

西山越えは，山地と草地でアカマツ・コナラ林に，草地にオオバコ，コウゾリナ，センボンヤリ，チガヤ，ノアザミ，ノコンギク，ミツバツチグリ等を代表に多数の草本層がある。木々ではイヌウメモドキ，オオカメノキ，ヤマヒョウタンボクにゴヨウマツを注目したい。

川下町の洞では，休耕田の畦にクララの大群落がある。農道だから草本層も多い。



写真 V-97 クララ

#### ソ 平畑町 北部山地 日本廻国塔付近

平畑町の神明神社から市道を登ると，日本廻国塔記念碑が建ててある。平畑町の地域住民が地域の名所を分かりやすく看板等を立てて目印にしている。日本廻国塔は全国にある弘法大師の史跡を全部廻った満願記念に建てたものである。

ここでは市道沿いの植物が観察できる。高木層はアカメガシワ，アベマキ，アラカシ，エノキ，コナラ，ホオノキ，ミズキを含み多数あり，アブラチャン，ウリカエデ，ウツギ，クサギ，サカキ，ゴンズイ，スイカズラ，タニウツギ，ダンコウバイ，ツリバナ，ムラサキシキブ，ヤマウグイスカグラを含めて多数の亜高木・低木層がある。草本層はアオイスマレ，アズマネザサ，イナカギク，オオバコ，カキドオシ，カラムシ，シライトソウ，スルガテンナンショウ，ノカンゾウ，ノコンギク，ムラサキサギゴケ，ヤブランを含めて多数ある中で，エビネ，ワタムキアザミ等の希少種があった。シダ類ではクジャクシダ，ヤマヤブソテツ，リョウメンシダが多い。



写真 V-98 リョウメンシダ  
普通のシダ  
湿気の多い谷に生育する

#### タ 築平町から日面町への市道沿い

築平町の東からの市道を日面町へと登る。植林地が続く上り連続の狭い道路の途中に住宅があり，廃屋も見られる。スギの植林が多いこの山地は元来アカマツ・コナラ林で，市道（自動車も通れる道）脇には多少その面影が残り，アオキ，アベマキ，アラカシ，イヌツゲ，エノキ，クリ，ケヤキ（大木），シラカシ，ソヨゴ，ヌルデ，ハナイカダ，ヤブツバキ等多数の高木・亜高木層を伴う。その中にタブノキ（クスノキ科）が入る。この木は沿岸に自生する暖帯性常緑広葉樹であるが，県内では山地に入り込んである。

クマノミズキ（ミズキ科）もあるが，この地区では見ることが少ない種で，県内でも山地にあり，数が少なく，ミズキに似るが葉が対生であることで区別できる。

中腹のスギ・ヒノキの林床の湿気の多い岩場にはイヌショウマ，サラシナショウマの群落があり，岩にはマメヅタがつく等シダ類が多い。クジャクシダ，サイゴクベニシダ，サジラン，ナンカイイタチシダ（愛知県準絶滅危惧 (NT)），ハカダシダ，ヤブソテツ，ヤマヤブソテツ等がある。

次項参照.

#### チ 日面町から築平町への林道沿い

今度は日面町から築平町に下る. 道は細く歩くだけの道, スギ林の上部では林下は湿気も多く暗いが, 下るに従い間伐がしてあり案外明るく築平町の上流部に出る. ここは「日面町賽の神下, 高床農場下林道沿い」と重複する場所でもあるので, 両方を参照したい.

上部は植生が豊富で, スギ林の下, カラタチバナ, ナンテン, マンリョウ, ヤブコウジ, ヤブニッケイ等の常緑低木層も多く, シダ類も多い. シダ類ではイヌシダ, サイゴクベニシダ, サジラン, ナツノハナワラビ, フモトシダ, ホソバヤブソテツを含めて 31 種と小原地区では一番多い. このような傾斜地の奥に住宅があり生活されているし, また廃屋もあり, その近くの林道にはミヤマヨメナの大群落がある.

草本層ではアカソ, イヌショウマ, キンミズヒキ, クサイチゴ, サラシナショウマ, シヤガ, ダイコンソウ, トウギボウシ, ヒトリシズカ, ホウチャクソウ, ヤブデマリ, ユキノシタ, ワタムキアザミ等を含め多数ある. 県道脇に外来種のアリタソウがある.



写真 V-99 ミヤマヨメナ  
湿気が多い山野に多い

#### ツ 市場町から川下町 田代川の市道沿い

清原小学校の東門の土手や山裾には, 素晴らしい植生が残っている.

イヌショウマ, ウバユリ, サラシナショウマ, ノダケが山裾に, 石垣の上の土手には大きなワタムキアザミが幾株か根を張っている.

学校下から田代川に沿って川下町に行く. 川岸はマダケの藪になっていて, カシ類が特にシラカシがアラカシよりも多く, 高木層はアカシデ, アカマツ, アカメガシロ, アズキナシ, アベマキ, エノキ, ウワミズザクラ, オニグルミ, カスミザクラ, ケヤキ, ヤマザクラ等. 亜高木・低木層はタニウツギ, タマアジサイ, ダンコウバイ, ヒサカキ, キブシを含め約 100 種ある. 草本層では, 小原地区の特徴のワタムキアザミが土手に多い. イナカギク, シラヤマギク, ノコンギク, リュウノウギク等のキクの仲間も多い. ウマノミツバ, ミズタマソウ, ヤブカンゾウ等約 35 種, シダ類はイワガネゼンマイ等約 10 種見られる. 特徴ある植生が見られないことは, 小原花崗岩地帯の特徴でもある.

#### テ 西丹波町 オミノゴ川砂防堤上流

西丹波町の北東の谷に入る. 砂防堤があり上流部は土砂で埋まり湿地状態になっている. イヌコリヤナギ, コゴメヤナギが多く, タニウツギ, ノリウツギ等の木々が侵入している. ハチク, メダケにクズが絡まり, 進入がままならない. ウツギ, タマアジサイ, ハシバミ, ケヤキの木々に, アカバナ, イ, コブナグサ, ミズタマソウ, ミズヒキ, ミゾソバ等の草本があり, 奥地にはヤブタバコ (キク科) がある. 越年性の普通山地に自生する種で, 三河の山地に



写真 V-100 ヤブタバコの果実

多く高さ 80cm になり枝を四方に水平に張る。このヤブタバコは枯れたもの、葉の出ているもの等がある。中には水平に四方に張った枯れたガサガサの瘦果が付いた枝があり、見事である。はじめは何かよく分からなかったがヤブタバコであった。

林道がないか探すが、川べりにはなく、いばらをかき分け山地に出ると林道があり上れば平岩町に出られるようだがこの林道を下がる。道の土手にはウメガサソウ、オオバジャノヒゲがあり、シダ類ではイワガネゼンマイ、オクマワラビ、クジャクシダ、テリハヤブソテツ、トウゴクシダ、マルバベニシダ等があった。



写真 V-101 ヤブタバコ 幼苗

ト 樽俣町から西丹波町涼堂への市道沿い

樽俣町の涼堂橋から丹波川沿いの市道を上る。47 豪雨時に谷が荒らされ、谷抜けし、植生が流されて現在少しずつ回復する状態であるから植物も特徴ある種は見られない。

アカマツ・コナラ林のアカマツのない状態で、アカシデ、ヤマザクラの仲間、カシ類のアラカシ、シラカシにアベマキ、エノキ、オニグルミ、ケヤキ、クリ、ホオノキ等が高木層を形成している、草本層はアオイスミレ、ウマノミツバ、シロヨメナ、トリアシショウマ等少し特徴ある植物が出てきている。

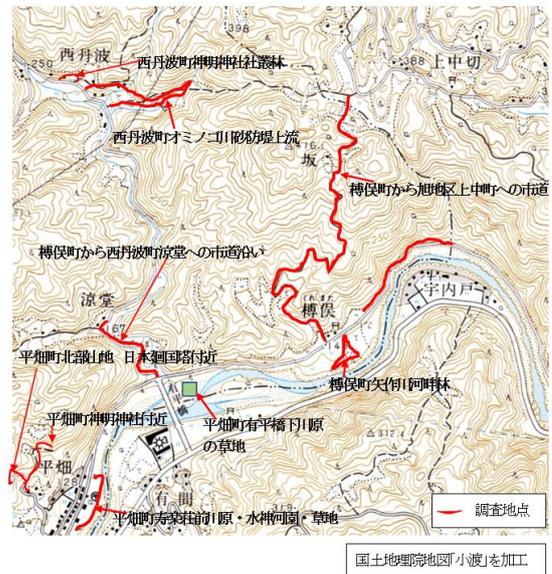


図 V-19 樽俣町付近の地図

ナ 樽俣町から旭地区上中町への市道

樽俣町から旭地区まで登る市道の途中までは数軒の住宅があるが、それ以上の山地(標高 400m)には住宅はない。その市道沿いの植生を調査する。

谷はスギの植林であるが、全体にアカマツの混成した雑木林であるが、所々オオバヤシャブシがあることから、以前は保安林であったようだ。

高木層はアカマツ、モミ、スギ、イヌシデ、エゴノキ、シロダモ、ソヨゴ、タブノキ、ミズキ等が、亜高木・低木層はアブラチャン、アワブキ、イヌツゲ、ガマズミ、カマツカ、キハギ、キブシ、タニウツギ、ダンコウバイ、ヌルデ、ヒサカキに、アオキ、ウスノキ、コバノミツバツジ、スノキ、タマアジサイ、チャノキ、ネコヤナギ、ヤマアジサイ、ヤマツツジ等多数ある。

草本層にはアオカラムシ、アキカラマツ、ウツボグサ、オカトラノオ、オニタビラコ、カラムシ、クサイチゴ、シロツメクサ、チガヤ、ムラサキニガナ、ヤブヘビイチゴ、ヤマトウバナ、ユキノシタ等が多く、やや少ない種はタムラソウ、ネジバナ、フジカンゾウ、フタリシズカ、ミズタマソウ、ミヤマナルコユリ、ヤマボクチ等である。

シダ類はアイノコクマワラビ、アスカイノデ、カタヒバ、サイゴクイノデ、ヒトツバ、ヤブソテツを含め 23 種がある。

## ニ 北篠平町下（犬伏川）から上への市道沿い

北篠平町の下犬伏川に注ぐ寺平川を遡る市道沿いを歩く。アカマツ・コナラ林の典型的な森林が残り、川沿いの湿気の多い場所として自然観察路には最適な場所である。アカシデ、アベマキ、ウワミズザクラ、クリ、ネムノキ、リョウブ等の高木層にオオカメノキ、キブシ、コウヤミズキ、タニウツギ、マルバノキ、ヤマヒョウタンボク等の低木層の春の花がきれいである。川沿いにはウメモドキ、メギ、シライトソウ、トリアシショウマ等があり、山裾にはヤマボクチの群落、道沿いにはワタムキアザミが一面に生える。

## (5) 河畔林

### ア 地獄谷の植生

川下町から矢作川に流れる田代川の下流 1km ほどは、大きな岩が累々とし、川面が見えなく、せせらぎが聞こえるだけの地獄谷を作っている。上流には川下発電所の取水ダムがあり、下流に向け右岸に林道がある。所々にスギ・ヒノキが植えられ、カシ類のアラカシ、シラカシが多く、イイギリの大木等が空を覆っているから暗い林道である。

谷間ということでシダ類も多い。イタチシダ、イノモトソウ、オニカナワラビ、カタヒバ、クマワラビ、テリハヤブソテツ、トウゴクシダ、ノキシノブ、ベニシダ、ホラシノブ、マメヅタ、マルバベニシダ、ヤマヤブソテツ等である。

峠の暖かい谷影にはカゴノキがあり、イタビカズラが岩を上り、石切り場にフユザンショウが見られる。篠平町の田の畦には、オカオグルマの黄色な花、山裾にはイチヤクソウ、道上には何本か株立ちのウワミズザクラが見事である。

### イ 百月町矢作川河畔林

百月町から小渡町までの矢作川河畔は愛知高原国定公園に指定されている区域が続いている。まず百月町の県道下の矢作川右岸の河畔林を調べる。

マダケの林が道下に多く、川岸の草地から岩にかけてツルヨシが広がる河畔林である。カワラハンノキ、ミツバウツギ、ヒメウワバミソウ等、やや希少な種がある。

道路からの入り口付近にハシバミ（カバノキ科）がある。落葉低木で、果実はヘーゼルナッツ状、県下でも北設楽東栄町に少しあるだけで、矢作川流域特に市内では稲武地区

に多く、石野地区石野町の矢作川岸にも大群落が見られる。多分上流からの浮遊物として流れ着いたものであろう。川岸にはイヌドクサの大群落がある。

アレチヌスビトハギ、アレチマツヨイグサ、キレハヒメオドリコソウ、ハリエンジュ、ヒメオドリコソウ、ベニバナボロギク、メルケンカルカヤ等の外来種も多い。



写真 V-102 イヌドクサ細い茎

### ウ 平畑町寿楽荘前河原・水神河園・草地

寿楽荘前の河原には区民広場の草原・植物園・岩場・砂地・水辺等が 500m ほどあり、河川敷の植物調査の適地である。

河原の区民広場は時々草刈りがあり、草本層が多い。オオバコ、カキドオシ、シロツメクサ、

スズメノエンドウ，スズメノカタビラ，スズメノヤリ，ナズナ，ハコベ，ヒロハタンポポ等を含め 34 種の小型の草本層があり，そのうちアレチヌスビトハギ，ウラジロチチコグサ，オオイヌノフグリ，オッタチカタバミ，オランダミミナグサ，コメツブツメクサ，シロツメクサ，セイタカアワダチソウ，タチイヌノフグリ，ハルジオン，ヒメオドリコソウ，ヒメジョオン，メマツヨイグサの 13 種が外来種で，4 割もあることになる．やはりこのような河川敷は外来種が入りやすいようである．

水気のある場所にはヨシ，ドクゼリ，オランダガラシ，ミゾソバが生え，岩場にはヤマハタザオ，ヤブジラミ，ヒメウツギが，砂場にはジャニンジンが生えている．ヒメウツギ，ジャニジンは山地の種である．ヒメウツギは湿った岩場や崖，溪岸に生える落葉低木で，ウツギ（葉の両面に星状毛が散生）に似るが葉裏が無毛であることで区別する．市内では矢作川，巴川の川岸に見られるが県内では三河山地に多い．

#### エ 平畑町有平橋下河原の草地

有平橋の下は岩だらけの川原で広く，川原の植物の調査には適している．ツルヨシが多くスキにメドハギ，ネコヤナギ，ヒメコウゾ等の低木が入り小さい林をつくる．

砂地には，外来種のアレチマツヨイグサ，オオニシキソウ，キキョウソウ，コメツブツメクサ，シナダレスズメガヤ，セイヨウタンポポ，セイヨウノコギリソウ，ツボミオオバコ，ニワゼキショウ，ハルジオン，ヒメジョオン，ムシトリナデシコ，フランスギク等が多い．ムシトリナデシコ，フランスギクは栽培種が流れ着いたものである．

#### オ 樽俣町矢作川河畔林

マダケの藪で，釣り人が川へ入る道があり，藪の中の植生である．竹藪の周りにはコアジサイ，コゴメウツギ，タマアジサイ，ハナイカダ，ヒメコウゾ，ミツバウツギ，ヤブウツギ，ノリウツギ等の低木があり，藪の道にはアオキ，イチヤクソウ，カテンソウ，タニギキョウ，ドクダミ，ムカゴイラクサ，フユイチゴ，ミズヒキ，ミツバ，ヤブカンゾウ，ヤブジラミ，ヤブミョウガ，ヤブラン等の草本層が一面に覆っている．川の岸には別荘があり，周りはアベマキ（高さ 25m），アラカシ，スギ，マダケ等の高木層の森になっている．その他，高木層にはクスノキ，クマノミズキ，ケケンポナシ，コシアブラ，コナラ，ホオノキ等がある．

竹藪の中に目立つ黄褐色な花のツチアケビ（ラン科）があった．ツチアケビは無葉の多年草で，地中には枝分かれの長い地下茎がある．6 月頃黄褐色の花をつけ，花後の果実は大きくて 6~10cm の赤いバナナ状でよく目立つ．

また道路際にはニガキ（ニガキ科，落葉高木）の大木であるが，道路のアスファルトに根が塞がれ，枝が枯れかかっている．キハダと同じく樹皮は苦く薬に使った．県内ではややまれに低山や山地に自生する．



写真 V-103 ツチアケビ  
果実が赤くバナナ状

## (6) 小原地区の湿地植物

### ア 小原田代町西山山麓の西山池湿地群

小原地区で最高峰は、標高 714.2m の西山で小原田代町の西部の山中に、北部浄水場から入った奥岐阜県境にある山である。その麓には大きな西山池があり上流が湿地になっている。このような奥地にため池をつくり農業用水を確保した先人の業績には頭が下がる。池にはヒルムシロが浮かぶ。

この池までの林道の植生は、スギ・ヒノキ林で、林道脇にクマイチゴ、タニウツギ、モミジイチゴ等の低木層にアキノキリンソウ、シラヤマギク、ヤクシソウ、ヤマシロギク等の秋の草本層、水たまりにはクロウメモドキ、ヒメシロネ等湿地植物が見られる。



写真 V-104 西山池  
(小原田代町) 西山の麓

### (ア) ハンノキ湿地

西山池の右横、登山口付近は水気が多く、ハンノキの湿地になっている。ハンノキが 10 本ほどある小さな湿地 (15m×50m) で、タニヘゴ、ヌマガヤ、ミヤマシラスゲくらいで、暗い。

### (イ) 西山池上流部湿地

次に西山池の上流部に入ると、入口のハンノキ湿地と同じく大木のハンノキが約 20 本生育する谷で湿地 (5m×150m) になっている。アケボノソウ、イヌウメモドキ、ショウジョウバカマ、チダケサシ、ノリウツギ、ヒメシロネ、ミヤマウメモドキ、ミヤマシラスゲ等が見られるくらいである。

### イ ハナノキの谷

小原北町の北西部山地で小原田代町から西に伸びる林道から北に入った谷に、小原地区自生のハナノキを発見したときは驚きであった。一株だけの独木で高さ 18m、胸高周 1.5m が 2 本、0.47m が 1 本、0.33m が 1 本の 4 本が立ち上がっている。付近に子株がないから子孫が継げられないこと、根元に洞があり、獣が入ることで腐りが入ることが懸念される。旭地区元気村のハナノキに次ぐ発見であるが、その後、大ヶ蔵連トンネル手前小原 CC 入口下の別荘地の下にも見つけ、また小原 CC にも存在することが分かり、小原地区のハナノキの存在が確定できた。別荘下のハナノキは一株から大木が 4 本 (胸高周 40cm)、小木一本の 5 本立てである大木である。



写真 V-105 ハナノキ  
愛知県 (CR)、環境省 (VU)

ここのハナノキの上流部に小川が流れ沼地を作っている。

湿地植物はアケボノソウ、アリノトウグサ、シソバタツナミ、ショウジョウバカマ、タツナミソウ、タニヘゴ、ノギラン、ツリフネソウ、ヒメジソ、ミカワチャルメルソウ、ミゾソバ、メギ、ヤマネコノメソウ等である。樹木はアベマキ、ウワミズザクラ、エノキ、エンコウカエデ、クリ、クロモジ、ケケンボナシ、コシアブラ、コナラ、サクラバハンノキ、タンナサワフタギ、ハンノキ、フモトミズナラ、ホオノキ、ムクノキ、ヤマザクラ等がある。しかも、タンナサワフタギ (ハ

イノキ科)は県内では東三河山地に多い低木で、足助・旭・稲武・下山地区にある。これらの樹木は落葉樹で、常緑樹のカシ・シイ類はほとんどないことが分かる。

#### ウ 市指定天然記念物小原北町「バイケイソウ」自生地

小原北町の北西を上った林道下の谷を流れる北川の上流あたり、小原地区北西部を走る林道に入る手前の谷にある。天然記念物表示の看板が自生地の谷に立ててあるから林道から見えないので分かりづらい。

下流部に砂防堤があり、上流部は土砂で埋まり、ハンノキ等樹木が侵入してあまり湿地らしくない湿地の横を流れ込む川縁に沿って上流に沿ってバイケイソウの自生が続いている。周りがスギの林で暗い中に、ミズゴケとともにバイケイソウ等の湿地植物が見られる。40年ほど前は砂防堤の下流にもバイケイソウが200株ほど生育していたと聞かすが現在はなく、上流部に200株ほど生育している。



写真 V-106 バイケイソウ  
市指定天然記念物「バイケイソウ」  
小原北町

バイケイソウはシュロソウ科の草本で、背丈が1mくらい5月初旬白緑色の小花を多く付けいやな匂いがする。それでハエの仲間で花粉媒介するという。葉はユリ状で大きく、花の落下後すぐ虫に食べ尽くされなくなる。草本類が天然記念物に指定されることはまれである。藤岡地区の湿地に自生する花が小さく白色であるミカワバイケイソウ(希少種であり、東海丘陵要素植物)とよく似ているが、足助地区、稲武区の山地にも見られ、希少種扱いにはされない種であるが、小原地区ではこの場所に大群落を作るので指定された。

バイケイソウの谷奥は、湿地でウバユリ、タニギキョウ、トウギボウシ、ネコノメソウ、ヒメカンスゲ、ヒロハコンロンソウ、ホソバシュロソウ、ミカワチャルメルソウ、ミヤマシラスゲ、ヤマトウバナ等の湿地植物があり、アワブキ、イヌウメモドキ、サクラバハンノキ、ザイフリボク、タノウツギ、フモトミズナラ等の樹木が湿地に入り込んでいる。

#### エ 小原地区北西部山地林道沿い湿地

小原田代町南西部山地から小原北町、大洞町、荷掛町の北西部の山地の山腹を通過して大平町の主要地方道土岐足助線まで走る林道(アジサイ道)荷掛線がある。日光いろは坂や箱根街道を思わせる長い林道である。別名アジサイ道路といい、アジサイが植栽されている。しかし、自然の植物が沢山あるのでアジサイを植える必要はない。途中大洞町の「タニヘゴ湿地と周辺湿地群」、 「広場と周辺湿地群」、 「大平町北部山地シデコブシ湿地群」等林道が通過した後に見つけられ、また新しくスギを伐採した後にできた湿地がある。「大平町北部山地シデコブシ湿地群」には、東海丘陵要素植物のシデコブシはあるが、シラタマホシクサはない。2014年偶然にも「広場と周辺湿地群」の一つ「地震計設置施設の西湿地」に、ミカワシオガマを発見したのは奇遇である。この二つの湿地は東海丘陵要素植物の自生する東海丘陵湧水湿地群の仲間入りである。

#### (ア) タニヘゴ湿地と湿地群

##### a タニヘゴ湿地

タニヘゴだけの生育であるから仮称「タニヘゴ湿地」と名付ける大洞町に所属する湿地である。下流部に砂防堤が設けられ、その上流部に土砂が堆積した長さ100m、幅13mの湿地で、タ

ニヘゴ以外には、少しミゾソバがあり、ヤマハンノキ、ケヤマハンノキの木々の下、単独種だけの珍しい湿地である。夏には鬱蒼とタニヘゴが繁茂する緑いっぱいの湿地になる。タニヘゴ（オシダ科）は湿地に生える高さ1mくらいになるシダで山間地の湿地に自生する。観察の森の管轄である京ヶ峰山中の休耕地にもある三河山間地の湿地にときどき見られるシダ類であるが、この場所ほど大きい群落を作る場所はほかにはない。

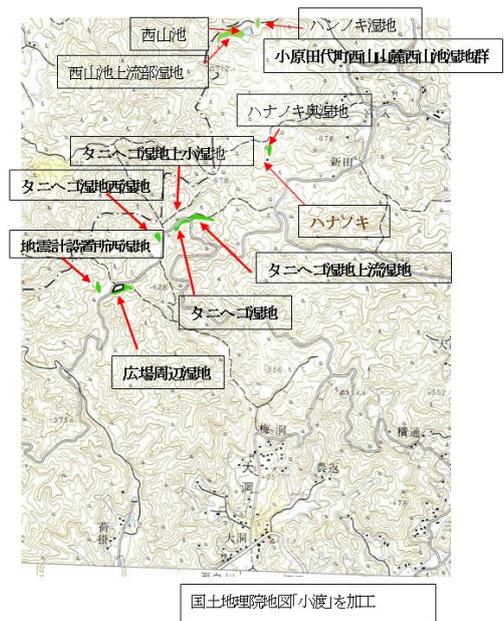


写真 V-107 タニヘゴ  
湿地全体がタニヘゴ。この湿地を含めた湿地群をタニヘゴ湿地群と称する。

b タニヘゴ湿地北小湿地

タニヘゴ湿地の上、道路を隔てた場所には小湿地（8m×8m）があり、クロウメモドキ（クロウメモドキ科）がある。クロウメモドキは山地の湿地に自生するが、小原地区でも百月国有林の道路沿いに見られ、市内では足助、稲武、旭、藤岡地区の湿地に、稲武地区では湿地侵入の主流低木である。県下では三河山間地に多い。コバノクロウメモドキも県下にはあるというが、葉の大きさの相違で区別するので、はっきりしないからクロウメモドキに統一されている。枝先が尖り針状で、果実が黒くなる。

図 V-20 タニヘゴ湿地群の地図



c タニヘゴ湿地上流部湿地

タニヘゴ湿地の道を隔てた上流にも湿地「タニヘゴ上流部湿地（150m×8m）」があるが、ぬかるみ、ミヤマシラスゲの谷地坊主を踏み台に踏み込むことでしか入れない。イヌウメモドキ、ノリウツギにハンノキ、ケヤマハンノキの大木が多いことでやや暗い湿地である。アケボノソウ、アブラガヤ、イヌコウジュ、キセルアザミ、ショウジョウバカマ、チゴザサ、ツリフネソウ、ドクゼリ、ヌマトラノオ、ヒメシロネ、ポントクタデ、ミゾソバ、ミヤコイバラ、ミヤマシラスゲ等この地区にあるほかの湿地と同じ湿地植物である。山裾にはシロモジが多く、ほかにアブラチャン、クロモジ、カナクギノキ、ダンコウバイとクスノキ科が多い。オクモミジハグマ（キク科、市配慮種）、クルマバハグマ、ツノハシバミ、シロヨメナ、ノダケ、フジカンゾウ等市内ではやや珍しい植物もある。

d タニヘゴ湿地下流湿地

タニヘゴ湿地下流には、スギを伐採した谷に新しく湿地「タニヘゴ下流湿地」ができ、周囲を散策できるように木道が整備されたが、木道が古くなり腐りがあるから歩くには注意したい。アキノウナギツカミ、ゴマナ、サワギキョウ、ツルヨシ、ドクゼリ等、特に明るくなったのでゴマナが多く生えてきた。低木のイヌウメモドキ等が侵入し、周囲にはキバナコツクバネ、ツノハシバミ、ナガバノコウヤボウキ、ヤマコウバシが見られる。

## (イ) 広場周辺湿地と地震計設置施設西湿地

### a 広場周辺湿地

タニヘゴ湿地から少し下った道路脇に整地した広場がある。周辺部は植栽の木々で公園化されハナノキ、コブシ、シキザクラ、イロハカエデが植栽されている。南側の山裾に植えてあるハナノキは、自生かと思間違ふ。広場の上流部はぬかるみの湿地状態である。谷川の水の流れにはドクゼリ（セリ科）が大きな株になり、アキノウナギツカミ、アケボノソウ、キセルアザミ、サワギキョウ、サワシロギク、ツリフネソウ、ミズギボウシがネザサの中に見られる。

### b 地震計設置施設西湿地

広場から西に入る踏み跡くらいの道奥に地震計の設置場所があり、その下に新しくスギ・ヒノキが伐採され整備された湿地がある。仮に「地震計設置施設西湿地」と名づけた。

アキノウナギツカミ、アケボノソウ、イヌウメモドキ、キセルアザミ、コアゼガヤツリ、コマツカサススキ、サワギキョウ、サワシロギク、サワヒヨドリ、スズカアザミ、チゴザサ、チダケザシ、ヒメジソ、ヒメシロネ、ヌマガヤ、ノハナショウブ、ミズギボウシ、ミゾソバ、ミヤマイボタ、ミヤマウメモドキ、ヤマラッキョウ等湿地植物が生育する、ミヤマウメモドキ（モチノキ科）は愛知県絶滅危惧 II 類（VU）で、ここ小原地区でも県境に近い場所に、また藤岡地区にも存在し、岐阜県側要素の植物と考えられるが、石野地区上高湿地にも近頃存在が確認された。

この地で、今回初めてミカワシオガマ（ハマウツボ科、愛知県、環境省絶滅危惧 IB 類（EN））が発見できた。ミカワシオガマは矢並湿地等のラムサール登録湿地に存在する県下でも貴重な東海丘陵湧水湿地群に生育する東海丘陵要素植物の代表であるが、岐阜県側にも存在するのでミヤマウメモドキと同様岐阜県から下がって来たとも見ても不思議ではない。赤い花びらで見つけることができた。

## (ウ) 大平町北部林道シデコブシ湿地群

大平町の北部山地には、大きなため池があることは地図上では確認していたが、いつか訪れたいという願望もあったが、機会がなかった。近年このため池の下流部にシデコブシが多数自生している湿地が見つかったという。今では林道（アジサイ）荷掛線のすぐ横からでもシデコブシが見られるのに数回林道を通るが、見過ごしている。地元の有志の方が見つけたという。今までスギ・ヒノキの下草刈りで伐採していたという。アキチョウジ、アケボノソウ、アブラガヤ、キセルアザミ、キンミズヒキ、サクラバハンノキ、シソバタツナミ、シマジタムラソウ、ショウジョウバカマ、スズカアザミ、チゴユリ、ノギラン、ヒメシロネ、ミズギボウシ、ミヤコイバラ、ミヤマウメモドキ、ミヤマシラスゲ、メギ等湿地植物の草本層が見られる。春にはまた違ったハルリンドウ等が見られる。

痛々しい切り株が数か所に見られるが株立ちするので、数年後には元に戻るし、花を大分つけている株もある。今後も継続して保護していくことが大切である。この林道の下流部にも湿地状の沼地があるが、ハンノキ林にほかの木々が入り込み草本層はほとんど見られない。



写真 V-108 柿の道池  
大平町北部林道沿い奥  
下流にシデコブシ群生が見られる。



写真 V-109 シデコブシ植林地横

(エ) 大平町北部山地・土岐市境の峠湿地

北部林道（アジサイ林道）が大平町に出たあたり主要地方道土岐足助線の両側に、ミヤマウメモドキ等の湿地植物が存在する湿地があったと聞き、調査した。ミヤマウメモドキが数本あり、中でも大木があり、道路に架かるということで幹の途中で伐採されていた。しかし、湿地はイヌツゲ、ノイバラ等樹木が多く入り込みミヤマシラスゲ以外には湿地植物は見つけ出せなかった。



写真 V-110 ミヤマウメモドキ  
愛知県（CR）

オ 北篠平町土橋東洞・砂防堤上流湿地群

長い名前の湿地になったが、大平口、北篠平町土橋から東に入った谷には、47 豪雨以降構築された砂防堤が幾か所もあり、最上流部に大きなため池がある。上流部は奥深く二股に分かれた谷間で、池からまっすぐ北には3か所の湿地が、途中の東に続く谷にも湿地が2か所ある。

アオコウガイゼキショウ、アカショウマ、アケボノソウ、アリノトウグサ、イ、イトイヌノハナヒゲ、イトイヌノヒゲ、ウメバチソウ、ウメモドキ、ウンヌケ、オカトラノオ、カキラン、コマツカサススキ、サギソウ、サルマメ、サワギキョウ、サワヒヨドリ、シカクイ、シソバタツナミ、ショウジョウバカマ、スズカアザミ、チゴザサ、ニッポンイヌノヒゲ、ヌマガヤ、ノギラン、ハイヌメリ、ホソバリンドウ、ホタルイ、ミヤコイバラ、ムラサキミミカキグサ、モウセンゴケ、ヤマイ等の湿地植物がある。ここのサワヒヨドリは毛深い種である。



写真 V-111 砂防堤の池  
北篠平町土橋北東奥の谷

ウンヌケ（イネ科）はススキに似ているが、葉が柔らかく少なく、花序の枝は少なくて開花中のもの以外は立っている。茎の基に毛が密集した古い葉鞘につつまれているし、冬になると花序が茎を残して首から切れて落ちることからも分かる。和名は「牛の毛」で尾張地方の方言からという。また、空に葉が突き出ているから「雲抜け」と付けたとも言われる。中国大陸、インドにかけて見られ、日本では、愛知県周辺から、まれに四国、九州に見られるという。市内では亀首湿地、挙母西部湿地群、下山地区のテストコース工事中の土手等限られた場所にある。

周囲はアカマツ・コナラ林で、コウヤミズキ、コバノミツバツツジ、フモトミズナラ、マルバノキ、マンサク、ヤマヒョウタンボク、ユズリハ等の樹木が混生し、オケラ、センブリ、カキノハグサ、ツルニガグサ、ナガバノコウヤボウキ、ミヤマウズラ、ミヤマナルコユリ等のやや少ない種が見られる。出口近くの北の保線路に入ったところにアズマスゲ（イネ科）がある。

#### カ 百月国有林内湿地

国有林内の東北に入る保線路横にある湿地（50m×15m、川下町）で、オオミズゴケが多く、ウメモドキ、コハリスゲ、サクラバハノキ、シラスゲ、ズミ、ヒメシロネ、モウセンゴケ、ヤチカワズスゲ、ミヤマシラスゲ等がある。

#### キ 北篠平町・こじま苑下の小湿地

コジマ工業の運動場がある南の道路沿いの小湿地で、周りの木々はアカマツ・コナラ林で湿地に侵入するサクラバハノキ、イヌウメモドキ、フモトミズナラ、ヘビノボラズ等準東海丘陵要素植物が見られる。湿地の草本層はショウジョウバカマをはじめ、イ、アギスミレ、コハリスゲ、シラスゲ、ノギラン、ヤチカワズスゲ等くらいで、特徴ある東海丘陵要素植物の植生ではない。

#### ク 北篠平町・須田・頂上の湿地

小原地区の湿地で一番南に位置する山頂の湿地である。小原橋からの保線路はきつい。

山頂で鉄塔を構築するとき、谷を土砂で埋めた湿地である。アブラガヤ、アリノトウグサ、イトイヌノハナヒゲ、ウメバチソウ、カキラン、キセルアザミ、コイヌノハナヒゲ、コマツカサススキ、サワギキョウ、サワシロギク、サワヒヨドリ、シカクイ、ショウジョウバカマ、シロイヌノヒゲ、ニッポンイヌノヒゲ、ノギラン、ヌマガヤ、ホタルイ、モウセンゴケ等ほとんどこの地区の湿地植物があるのは、大分時間が経過した湿地と思われる。低木層のノリウツギ、イボタノキ、イヌウメモドキ、ヘビノボラズが入り込み、湿地周辺では、タニウツギ、タムシバ、マンサク、ヤマボウシ、ユズリハ等があり、背後地はアカマツ・コナラ林である。



図 V-21 北篠平町湿地群

### (7) 提言

#### ア 小原地区北部湿地群の保護と管理

小原地区には湿地が少ないといわれていたが、調べると北部山地に多いことが分かる。小原田代町から小原北町、大洞町北部山地を通過して大平町の北部主要地方道土岐足助線に至る林道沿いの幾か所かに湿地があることが分かった。貴重な湿地植物が生育しているから保護管理したい。

(ア) 天然記念物の小原北町の「バイケイソウ」(シュロソウ科)の自生地の明確化

5月初めに嫌な臭いの白花を付け、すぐに虫食いでなくなり分かりにくい、生育地は谷間にあり、天然記念物の看板すら見えないので、見える場所に設置し直し、訪問者に分かるようにしたい。この自生地のPRをしたい。

(イ) 大洞町の「タニヘゴ湿地」等の保護と管理

大洞町北部に「タニヘゴ湿地」と名づけたタニヘゴ単独の湿地があるが、単独の生育地はバイケイソウ自生地と同じく貴重さがあるから、看板等で貴重さを強調したい。

また、このタニヘゴ湿地の上下流域にも幾つかの湿地があり、クロウメモドキ、ミヤマウメモドキ等の貴重種が自生している。これらの湿地は、近頃スギ・ヒノキをボランティアで伐採し散策路を作ったので、旧来の湿地植物が回復している場所ができた。ここで2013年にミカワシオガマが生育していることを発見できた。これで小原地区も東海丘陵湧水湿地群に仲間入りできる湿地があったことになる。

今後も、行政等からの必要な支援を受けながら、地元のボランティアを中心とした保護・管理が継続されることを願う。

(ウ) シデコブシ自生地の新発見と保護と管理

林道の終着、土岐市との境、主要地方道土岐足助線に出る1km手前の北側にシデコブシ自生地が発見され、整備されたことは湿地の項で記載のとおりである。長年小原地区には大平町の入り口付近に自生地ありとあったが、47豪雨で潰れてしまい一昨年幼苗が見つかるがこれも盗掘された。

このようなわけで、この発見は豊田市のシデコブシ自生地の北限が北に広がったことになる。

現在は、地元が主体となってわくわく事業等で活動されているが、今後も行政との共働による保護・管理活動の継続が望まれる。

イ 訪れたい自然観察場所の確保

小原地区には有名な山地があまりなく、観光地として有名な場所としてはシキザクラの咲く時期の川見町薬師寺やシキザクラ公園、それに和紙の里等が挙げられる。山深いこの地区にあって、訪れたい自然観察の場所や自然散策路が少ないため、何らかの対応が必要であろう。

例えば、国有林や県有林の開放と観察路の整備、市指定天然記念物、市指定名木の活用等が考えられる。また、希少な植物を保護するため、市道等の草刈りの時期について考慮する必要がある。

## 5 足助地区の植物

### (1) 足助地区の概要

足助地区（旧足助町）は、紅葉の景勝地である香嵐溪として全国的に知られており、東部にそびえる標高 1,120.6m の寧比曾岳から南西部下佐切町の標高 80m の巴川下流域までの高低差のある山間地である。この寧比曾岳が最高峰で、設楽町から続いてきた東海自然歩道がこの地点で分岐して一方は猿投山の方へ、もう一方は伊勢神峠から八幡高原へ抜ける恵那コースとして岐阜県へと続いている。寧比曾岳に続く山は筈ヶ岳(985.2m)であり、東部には1,000mの山々が稲武地区、設楽町や下山地区と接している。



写真 V-112 寧比曾岳  
中央が寧比曾岳 (1,120.6m)  
(金沢段戸国有林より見る)

その他、名が付いている山は足助地区中心街を囲む足助七城の一つがあった山々で市街地が見通せる位置にある。真弓山 (301m)、飯盛山 (254m)、城山 (353m)、黍生 (374m) が有名である。中央南には十明山 (571.8m)、西部には松平地区と接する炮烙山 (683.5m) が、北部には旭地区に接する茶臼山 (420m) がある。全体に東が高く、西に行くに連れて低くなる東高西低の地形である。このような地形から植物気候的には暖帯中部から暖帯上部をへて温帯下部に及んでいる。

大きな河川は矢作川であるが西北部の月原町、摺町、大河原町に接するだけで、全般的には、地形に沿い東部の山間部の谷間を流れる支流を集め西に流れた後、西南部へと流れる。一方下山地区から流れる矢作川の支流の巴川は、南から北に向け中心街へと流れ込む方向の変った川で、香嵐溪付近で足助川と合流する。だから中心部を流れる河川は、寧比曾岳から西流する足助川と巴川である。大きくなった巴川は西に下り南西部の下佐切町で松平地区に続く。

また最東部の寧比曾岳東の大多賀町を流れる段戸川は、設楽町の段戸裏谷から流れ込み、段戸溪谷を刻み、連谷町から稲武地区に入り矢作ダムに流れ矢作川に合流する。阿摺川は東部の伊勢神峠から流れ出て、足助地区の北部地区を流れ、いったん旭地区へ入り、再び北部を西に流れ、月原町で矢作川に合流する。

この地区は地形の起伏が大きく、深い谷が多いので植物相は極めて複雑で植生は単純ではない。

巴川中流域にはシイ林が各所にあり、上流部にかけてカシ林となり、寧比曾岳付近の高地にはモミ・ツガ林からブナ・ナラ林に移行している。

またこの地区は昔から林業が盛んで、スギの優れた人工林が多い。東部は森林地が多く、怒田沢町や川面町にまたがる広大な県有林があり、大多賀町北部には旧足助町有林（現県有林）、寧比曾岳西部は安城農林高校演習林、御内町には市有林（旧東加茂郡模範林）や金沢段戸国有林等がある。北西部にも森林地があり渡合町や月原町には本城山国有林と旧足助町有林（現市有林）があり、そのほとんどがスギ・ヒノキの植林地である。

森林が豊かであることから、寧比曾岳をはじめ東海自然歩道が通る山地や足助川上流部、香嵐溪を含め巴川筋、神越川筋、新盛町の大鷲院社叢林が愛知高原国定公園に指定されている。金沢段戸国有林や寧比曾岳の一部及び各地の社寺林にはわずかに天然林が残されている。

標高 1,000m 付近の高地には温帯下部特有の植生があり、ミズナラースズタケ群落が見られ、上部にはブナが混入しイヌブナ、イタヤカエデ、オオイタヤメイゲツ、コミネカエデ、ミズメ、ベニドウダン等も見られる。下部にはツガが多く混入しイヌブナ、イタヤカエデ、コハウチワカエデ、トチノキ、ミズメ、アカシデ、イヌシデ、クマシデ、サワシバ等が多い。

標高 100m から 700m にかけてはいわゆる暖帯上部の植生を示し、当地区では最も広い面積を示している。大部分はアラカシ、シラカシを主体としたカシ林とコナラーアベマキ林におおわれ、アカガシ、ツクバネガシも混入し、林の中層にはヤブツバキ、イヌシデ、アカシデ等が目立つ。下層にはアオキの群生が多く、シキミ、アセビ等を混入する。

南方から北上している暖地性要素も多くマツバラシ、アオネカズラ、タキミシダ、イヌガシ、タラヨウ、コショウノキ等が見られる。

御内町の田之士里湿原は愛知県自然環境保全地域に指定され、また群落レッドデータブックの群落複合では保護対策の 4 ランク内、「ランク 3: 対策必要」に入る。(ランク 4: 緊急に対策必要)

それに管理放棄されている伊勢神湿地も同ランク (ランク 3) に位置付けられているので、保護対策が必要な場所である。

足助地区の面積は 193.27km<sup>2</sup>である。

## (2) 香嵐溪とその周辺の植物

東海地方では数少ない紅葉の名所として知られている香嵐溪では飯盛山 (254m) の山腹から巴川沿いにかけてカエデ類が多くある。そのほとんどは植林のもので、イロハカエデが最も多くウラゲエンコウカエデ、コハウチワカエデがこれに続く。

林床に咲く植物を季節ごとに見ると春にはキクザキイチゲ、カタクリ、ナベワリ、トチバニンジン、チゴユリ、ヒトリシズカ、フタリシズカ、ナガバノスミレサイシン、ヤマルリソウ、ニリンソウ、マルバコンロンソウ、ウラシマソウ、スルガテンナンショウ、イチリンソウ、カテンソウ、チャルメルソウ、ホウチャクソウ、サワハコベ、ラショウモンカズラ、タニギキョウ、ミヤマヨメナ、ギンラン、エビネ、キンラン等があり、スギの老木にはカヤラン、ヨウラクラン、クモラン等の着生ランが見られる。



写真 V-113 春の香嵐溪

夏にはキツネノカミソリ、フシグロ、ハシカグサ、カノツメソウ、ウマノミツバ、ハグロソウ、ハエドクソウ、ツルアリドオシ、ヤブミョウガ、フジカンゾウ、ヤブラン、ムラサキニガナ、ヤマニガナ、ヤマホトトギス等の花が見られる。

秋にはカシワバハグマ、ヤマジノホトトギス、イヌショウマ、モミジガサ、アキチヨウジ、ヤマボクチ、イナカギク、サラシナショウマ、ハナタデ、シラヤマギク、ツルボ、ノブキ等の花が見られる。

冬にはヒメカンアオイ、タネツケバナ、ヤブツバキ等の花が見られる。

樹木としてはモミ、ツガ、アラカシ、シラカシ、シラキ、ウワミズザクラ、ヤマザクラ等が多く見られ、その中でも特徴的な樹木としてはアサダ、オオヤマザクラが見られる。

30 年以上前の飯盛山の林床はネザサとアオキ、ハナイカダ等の低木が繁茂した状態で、今あるカタクリやヤマルリソウ、ヒメカンアオイ等が細々と生きていた。大きくなったスギを切ったり枝打ちをしたりして、日が差し込むようにした。秋には毎年低木を切ったため、それらが勢いを吹き返し現在の姿になった。カタクリはそこで取れた種を蒔くことによって一面に広がってきた。

香嵐溪の吊り橋付近の河原にはネコヤナギの雌株雄株がそろって見られる。近くにはジロボウエンゴサクの群生も見られる。



3 出複葉．小葉は羽状に深裂する．落葉広葉樹林の半日陰になる林床や林縁に生育する．

ニリンソウやキクザキイチゲと同じく葉や茎を早春に地上部に出現し，初夏には枯れて見られなくなるのでスプリング・エフェメラル（春の妖精）と呼ばれる植物である．

ニリンソウと間違えられることもあるが，茎につく葉に柄があればイチリンソウ，なければニリンソウ．花の大きさはイチリンソウの方が大きい．またニリンソウは通常花を2つつけることから区別できる．

飯盛山にもこのイチリンソウがあるが，西町第一駐車場付近の斜面にあり中に入ることができないので見ることはできない．そこにはニリンソウの群落もあり混生している．



写真 V-114 イチリンソウ

ヒトリシズカ（センリョウ科チャラン属）（一人静）

飯盛山ではカタクリが咲き始める前，ヤマドリソウとほぼ一緒に咲き始める．紫褐色の4枚の葉は立っていて，その囲まれた間からまっすぐに穂状花序をのぼしてくる．この時がこの花の一番美しく見える時で，写真にぴったりの時である．白く見えるのは花弁ではなく花糸である．

仲間（同属）にフタリシズカがあり，草丈，花，葉の表面のツヤ等，見た目だけでも大きく異なる．北海道，本州，四国，九州に分布し，山地の林内，林縁に生える多年草．



写真 V-115 ヒトリシズカ

カタクリ（ユリ科カタクリ属）（片栗）

香嵐溪を代表する植物である．開花した様子が新聞にのると訪れる人が急に増えてくる．発芽の1年目の葉は針のように細い．それがだんだんと大きな葉になり7，8年ほどかかり2枚の葉をつけるようになると花を咲かせるようになる．下向きで淡紫色の花を1個つける．咲き始めの頃は日が当たってくると開き，夕方には閉じてしまう．花が終わりに近づくと開きっぱなしになる．花が終わる頃からモミジの葉が開き始め，カタクリのある場所は日陰になってくる．5月に入ると葉が枯れはじめるが，実が大きくなるまでは花柱は立ったままである．実が熟してくるにつれて花柱は倒れてきて中旬には種が散る．



写真 V-116 カタクリ

次の春まで地中で過ごす．地下に鱗茎があり，毎年鱗茎の下に新しい鱗茎が作られるために毎年地下深くに潜ることになり開花時には20～30cmにもなる．カタクリも「スプリング・エフェメラル」とよばれる植物の一群である．

北海道から九州の各地に分布し，山地の林内に生育する多年生草本．

### ナベワリ (ビャクブ科ナベワリ属) (舐割)

花は上から見ると葉に隠れていて見えないことが多い。飯盛山では登山道のわきに生えているので気をつけていれば花を見ることができる。その花の4個の花被片のうち1個が大きいのが特徴である。葯は黄赤色をしていて鮮やかに見える。

日本固有種で本州(関東以西)、四国、九州の山地の林内に生える多年草である。



写真 V-117 ナベワリ

### チャルメルソウ(ユキノシタ科チャルメルソウ属) (哨唎草)

足助地区にはこのチャルメルソウのほかにコチャルメルソウ、ミカワチャルメルソウがある。コチャルメルソウは段戸川沿い、神越川沿いに生え比較的標高の高い所に多い。そして群生している。ミカワチャルメルソウは点々と分布していて、標高による違いはないようだ。そしてチャルメルソウは香嵐溪とこもでの滝付近で見られる。この間を探せばもっと見つかるだろう。

この3種の区別仕方は、チャルメルソウの花弁は羽状に3~5裂し赤紫褐色。萼裂片は直立。コチャルメルソウの花弁は羽状に7~9裂し赤紫褐色~淡黄緑色。萼裂片は片平開~反転。ミカワチャルメルソウの花弁は羽状に7~11裂し赤紫褐色。萼裂片は直立。

福井県、三重県~九州の溪流沿いの湿り気のあるところに生える多年草。

飯盛山にはラン科の植物が幾つかある。あげてみるとキンラン、ギンラン、エビネ、サイハイラン、カヤラン、クモラン、ヨウラクラン、シュンラン、ツチアケビの9種類があり、セッコクとマメヅタランもあるといわれている。

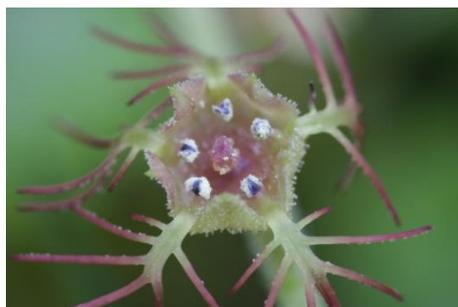


写真 V-118 チャルメルソウ-1



写真 V-119  
チャルメルソウ-2

### キンラン (ラン科キンラン属) (金蘭)

キンランも見つめられると採取されることが多いようだが、菌類と共生しているようで採取して育てようとしても不可能である。

茎を直立させて茎頂に数個の黄色の花を総状につける。大きな株になると10個ほどの花をつけるようになり、みごとな姿を見ることができる。直径1cm程度の明るく鮮やかな黄色の花は全開せず、半開き状態のままである。ギンランも同じ時期に見られるが、花は白色で全体が小柄であることから区別は容易である。

北海道，本州，四国，九州に分布する．

環境省：絶滅危惧 II 類 (VU) 愛知県：準絶滅危惧 (NT)

#### ギンラン (ラン科キンラン属) (銀蘭)

キンランと比べるととても地味で，背も低い．飯盛山は落ち葉が掃かれたり，草刈りをされて周りの植物が邪魔をしなくなったような場所で見られるが，道ばたに生えることもあり，観光客に踏まれた姿を見ることがある．

草丈はキンランと比べて背が低く 10cm ほど，まれに 30cm ほどになる．茎を直立させて茎頂に数個の白色の花をつけるが花冠はほとんど開かないのも特徴の一つである．

北海道，本州，四国，九州に分布し，山地の樹林下に自生する多年草．

#### エビネ (ラン科エビネ属) (海老根)

昭和 30 年代には業者によって採集されたため激減し，それまであちこちでよく見られていたのがほとんど見られなくなった．現在でも減少の一途をたどっている．株によって花の色が微妙に違うことも好まれる一因であろうか．

いろいろな種類のエビネを集めて育てているところがあるが，何年もするとだんだん弱ってきて絶えてしまうことがあるようだ．エビネ自体がいろいろな雑菌を持っているようで，他地域から持ち込むと耐性がないために菌に負けてしまうようだ．

分布は日本全土．

環境省，愛知県とも準絶滅危惧 (NT)



写真 V-120 キンラン



写真 V-121 ギンラン



写真 V-122 エビネ

#### アサダ (カバノキ科アサダ属)

香嵐溪にあり樹齢は 100 年を超えているのではないだろうか．高さは 20m はありそうだ．これほどだから豊田市の名木に指定されてもよいだろう．どこにでもありそうなのだがなかなか見あたらないのがこの木の特徴の一つでもある．足助中学校の校門坂の東側の杉林の中に 1 本ある．見上げないとその姿が見られないが，樹皮に特徴があるので見分けることができる．リョウブやカゴノキの樹皮ははがれ落ちるが，アサダの樹皮は暗灰褐色で浅く縦裂し小薄片となって下から反り

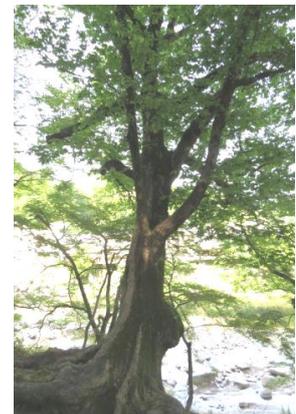


写真 V-123 アサダ

返る。そのため不規則な割れ目ができる。

なかなか背の低い木には出合えないが葉はクマシデやサワシバと似ているが、アサダの若枝には毛と腺毛がある。

材は堅くて緻密であるため、建築材、床板等の建築内装材、家具材船舶材等に用いられる。北海道（中部以南）、本州、四国、九州、沖縄に分布する落葉高木。

足助地区のテンナンショウ属はウラシマソウ、ミクニテンナンショウ、スルガテンナンショウ、カントウマムシグサ、ヤマザトマムシグサの5種類が見られる。

ヤマザトマムシグサ（サトイモ科テンナンショウ属）（山里蝮草）

仏炎苞基部は紫褐色で三角状になりドーム状に盛り上がり、先は長くとがって前方へのびる。筒口部をおおっているため、花序付属体は隠れ目立たない。その花序付属体は紫褐色をしていて有柄で棍棒状になっている。仏炎苞を上げて基部の内側を見ると紫褐色の中にうっすら緑がかった筋が入っている。

雌雄偽異株で雄株から雌株へ完全に転換する。背丈が80cmか偽茎の周りが6cmくらいになると雄株から雌株へ転換するようだ。

スルガテンナンショウと同じような場所に生えているが、こちらは一日中日の当たるような場所でも見ることができる。しかし標高でいうと旧いこいの村愛知より低いところ（780m）に生えていて、それ以上の高い場所ではまだ見つけていない。

関東地方北部～中部地方（愛知県・岐阜県・静岡県・長野県）に分布している。



写真 V-124 ヤマザトマムシグサ-1



写真 V-125  
ヤマザトマムシグサ-2  
仏縁苞を上げて見た姿

カシワバハグマ（キク科コウヤボウキ属）（柏葉白熊）

香嵐溪ではカタクリのある場所と同じ斜面に生えている。山地のやや明るい林内に生える植物である。花は秋に咲くので春にはその姿を見ることはできない。

属が同じだけあって花を見るとコウヤボウキそっくりである。その花は茎の上の方に穂状につけ3～8個程度の小花が集まっていて、全てが筒状花である。



写真 V-126 カシワバハグマ

茎は分枝せずかなりまっすぐにのびる。葉には柄があり、縁に粗い鋸歯がある。日本特産種で、本州、四国、九州に分布する多年草。

キンブチゴケ（カブトゴケ科キンブチゴケ属）（金縁木毛）

地衣類の一種で葉縁は黄金色の粉芽で縁取られて、地衣類の中ではひととき美しい。香積寺の境内で見られる。

愛知県では鳳来寺で1株見られる。地衣類自体の調査は全国的には少なく、愛知県においても今後全県的に調査をすることが必要であろう。

本州（宮城県以南）～九州に至る温帯の岩上や樹皮上に生育する。香嵐溪ではサルオガセ属は見つかっていない。



写真 V-127 キンブチゴケ

ホタルカズラ（ムラサキ科ムラサキ属）（蛍葛）

青色の花というとツユクサ、オオイヌノフグリ、タチイヌノフグリ等を思い浮かべるが、このホタルカズラは茎の上部の葉脈から短い花柄を出して1～3個の青紫色の鮮やかな花をつける。見つけるとその美しさに気をとられ目がなかなか離せない。

花冠の先端は5裂し、各裂片の中央には縦に白色の隆起がある。この星形に見える白い隆起が蛍の光を連想させることから名がつけられた。別名はホタルソウ（蛍草）。

花後に走出茎を出して途中で根を出すつる性多年草で、冬葉は互生し狭楕円形をしていて両面に粗い毛があり冬でも枯れない。

北海道、本州、四国、九州の山地、日当たりの良い乾いた土手、野原の斜面等に生える。

足助地区では1か所で見られ、草刈りをされているので今は生育できているが、その場所はイノシシが荒らしていることと将来草刈りが行われなくなったら周りの草に負けてしまうことが気にかかることである。

環境省：絶滅危惧 II 類（VU） 愛知県：絶滅危惧 IB 類（EN）



写真 V-128 ホタルカズラ

ジュウニヒトエ（シソ科キランソウ属）（十二単）

春に、1本の茎をほぼ直立させ、円錐塔状の花穂を立て、淡紫色の花を花穂の周囲に多くつける。明るい二次林や丘陵地等に生える。本州、四国に分布し、日本固有種である。

花が重なって咲く姿を平安時代の女官の衣装「十二単」にたとえたものであるといわれている。葉や茎に毛が多く、そのせいで葉は緑白色に見える。

足助地区では1株だけ確認されていたが、別の場所で竹やぶの竹を切ったところ数株生えていることが分かった。どちらも増えていく様子がなく絶滅が心配されている。

近年観賞用に庭や花壇に持ち込まれ、時に半野生化している外来種のセイヨウジュウニヒトエがあるが、花色が濃



写真 V-129 ジュウニヒトエ

い青紫色で、葉の表面に照りがあることで区別できる。

また、この時期に咲くキランソウは、茎を地面に張りつけるようにのびして葉腋に花をつけるので区別できる。

愛知県：絶滅危惧 II 類 (VU)

ウツギと名のつく植物には卯の花とよばれるウツギ、ウツギの中では最初に咲くヒメウツギ、葉の裏が白いウラジロウツギ (ともにユキノシタ科ウツギ属)、深紅の花をたくさんつけるヤブウツギ、ピンクの花をたくさんつけるタニウツギ (ともにスイカズラ科タニウツギ属)、小さな花をたくさんつけるコゴメウツギ (バラ科コゴメウツギ属) がある。ツクバネウツギ、コツクバネウツギ (ともにスイカズラ科ツクバネウツギ属) もある。湿地等で飾り花とともに花を咲かせるノリウツギ (アジサイ科アジサイ属)、ウツギほどたくさんの花を咲かせないが、花は少し大きめのバイカウツギ (アジサイ科バイカウツギ属)、ミツバウツギ (ミツバウツギ科)、フジウツギ (フジウツギ科) がある。

ヒメウツギ (アジサイ科ウツギ属) (姫空木)

ウツギにしては咲くのが早いと思っていたので葉をさわってみたらざらざらしていない。わずかに毛が生えている。裏はほとんど無毛なためすべすべしている。ウツギならば星状毛がたくさん生えているのでざらつく。ウツギより花や葉が小型なため「ヒメ (姫)」と名がついた。

4月下旬に円錐花序を出し、白い花を多数つける。花糸の上の方の両側には狭い翼があり、上部は広がって、先端は歯状に鋭くなっている。雄しべは10個で、長短交互に円を描くように並んでいる。株立ちで高さは1~2mになる。日本固有種。本州の関東地方以西~九州に分布し、岩壁等の急傾斜地に生育する。

愛知県では旧豊田市、東三河の山間部で見られる。盆栽として利用され、石の上に植えられ自然の姿より小ぶりで花を咲かせている。



写真 V-130 ヒメウツギ

### (3) 寧比曾岳と周辺の山地性植物

寧比曾岳 (1,120.6m) は足助地区の一番高い山で、このあたりは温帯性植物が見られる。ウダイカンバ、オヒョウ、アサノハカエデ、ヒトツバカエデ、ヒナウチワカエデ、ウスゲクロモジ等が見られる。登山道は頂上付近をのぞいてほとんどヒノキの植林地の中を歩くことになるがその中でギンリョウソウ、フクオウソウ、ウスギヨウラク等が見られ、頂上付近ではワチガイソウ、ジンバイソウ、アケボノスミレが見られ、秋には紅葉のきれいなウリハダカエデが多く見られる。



写真 V-131 寧比曾岳から西方の眺め

寧比曾岳の保健保安林にはブナ、キハダ、ミズナラ、ミズメ、オオウラジロノキ、バイケイソウ、カワチブシ、シコクスミレ、ユリワサビ、ミヤマエンレイソウ、ツクバネソウ、ツルネコノメソウ、テバコモミジガサ等が生えている。尾根付近にはベニドウダンが見られる。

大多賀の池ノ平湿地は以前、大きな湿地であったが現在はスギが大きく育ち湿地としての様相は見られなくなった。その中にカワチブシ、オタカラコウ、クロウメモドキ、レンゲツツジ、ミヤマタニソバ、サワギキョウ、アケボノソウ、ツルリンドウ、カナクギノキ、ウワミズザクラ、ヤブデマリ、ヤマドリゼンマイが見られる。

大多賀には谷が幾つかあり、植林が進んでいるが一部には手つかずの場所も残っている。そういった所にはキバナノヤマオダマキ、ツクバネソウ、ヒメウワバミソウ、キツリフネ、フジカンゾウ、オオルリソウ、イワセントウソウ、ナツツバキ、コハクウンボク、ハクウンボク、コチャルメルソウ等が見られる。

足助地区で見られるカエデの仲間にはイロハモミジ、オオモミジ、エンコウカエデ、ウラゲエンコウカエデ、コハウチワカエデ、オオイタヤメイゲツ、オニイタヤ、イタヤカエデ、ヒトツバカエデ、ウリカエデ、ミツデカエデ、ウリハダカエデ、チドリノキ、アサノハカエデ等がある。

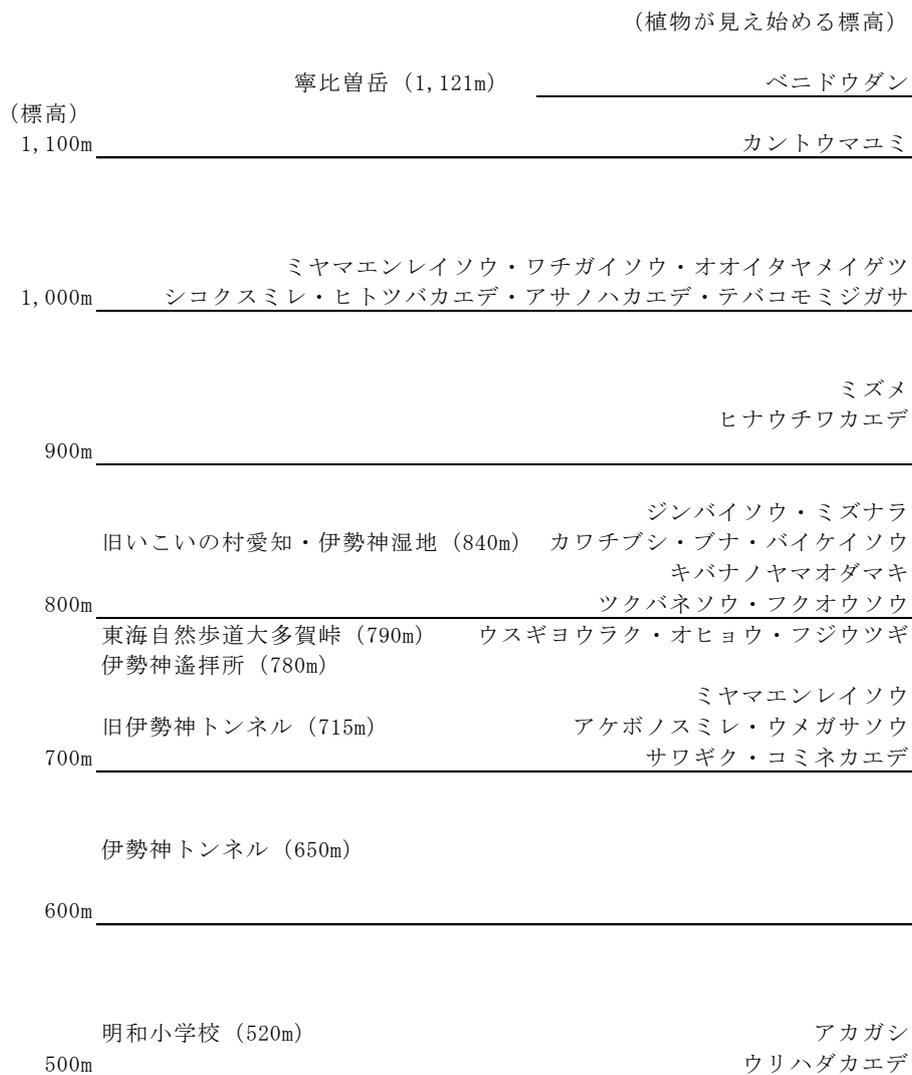


図 V-23 寧比曾岳の植物の垂直分布

寧比曾岳は植林が進んでいるので、限られた場所では自然の姿が見られずほかの場所との違いがあるが標高差で植物の違いを調べた範囲でまとめた。

オオイタヤメイゲツ（ムクロジ科カエデ属）（大板屋名月）

よく似た葉をつけるハウチワカエデがあり、寧比曾岳にはほかにコハウチワカエデとヒナウチワカエデがある。区別の仕方としては、ハウチワカエデ、コハウチワカエデは、葉柄が有毛であるのに対し、オオイタヤメイゲツは葉柄が無毛であることで区別できる。ヒナウチワカエデの葉柄は有毛だが、葉が小さいので簡単に区別がつく。

葉柄の長さからでも区別をつけることができ、ハウチワカエデは葉柄の長さが葉身の2分の1以下で、オオイタヤメイゲツは葉柄の長さが葉身と同長または3分の2以上である。

このオオイタヤメイゲツは福島県以南の本州・四国に分布する落葉高木で、足助地区では寧比曾岳の頂上付近で見られる。コハウチワカエデは足助地区全域で見られる。

トウゴクミツバツツジ（ツツジ科ツツジ属）（東国三葉躑躅）

愛知県では奥三河地方で見られる。足助地区では御内町の市有林や金沢段戸国有林にあり、そこは設楽町との境にあたり、標高が800mに近い場所である。

同じ仲間にミツバツツジ、コバノミツバツツジがあり、葉が枝先に3枚ずつ輪生するのが特徴である。花も葉もともによく似ていて間違えることがある。ミツバツツジは雄しべが5個である。コバノミツバツツジは雄しべが10個で花柱は無毛。トウゴクミツバツツジの雄しべはコバノミツバツツジと同じ10個である。しかし雌しべの花柱の下部には腺毛（粘着物質を出す毛）が生えるのが特徴である。

本州（宮城、山形県東部以南～近畿地方の太平洋岸）の山地の林内、林縁（標高の高いところ）に生える落葉低木。



写真 V-132  
トウゴクミツバツツジ

アオフタバラン（ラン科フタバラン属）（青双葉蘭）

寧比曾岳へ登る途中で見られる。以前はほかの場所にもあったようだが、その場所に砂防ダムが作られたり植林された木が大きくなったりして見られなくなった。

葉が茎の下部の地上付近に2枚が向かい合ってつき、全体に青緑色で表面には不鮮明な白斑が入っている。このような葉の色と特徴からこの名がつけられた。

分布は本州、四国、九州で山地の林床等に生える多年草。



写真 V-133 アオフタバラン

ワチガイソウ（ナデシコ科ワチガイソウ属）（輪違草）

花の咲いた姿を見ても名にある「ワチガイ」という言葉がうかんでこない。そもそも姿とは関係ない所からきている。

足助地区では寧比曾岳の頂上付近、段戸川支流の河原で見ることができる。ブナ帯に生える植物である。茎頂や葉腋の長い花柄の先に白色の5弁花を1個ずつつける。ナデシコ科だけあってかわいげな花である。一株ずつ生えているのではなく、数株が集まって小さな群落を作っている。茎の下方の葉腋には閉鎖花をつける。

福島県以南の本州，四国，九州に分布する小型の多年草。落葉樹林下に生育する。

#### レンゲツツジ（ツツジ科ツツジ属）（蓮華躑躅）

日当たりの良い湿原，山地，原野等に生え，高さ 1~2m の落葉低木で幹はよく枝分かれする。下山地区や足助地区では標高の高い所にある湿地や県有林内で見ることができる。

つぼみの形が蓮華に似ていることからつけられ，花の色は朱赤色をしている。ツツジの中では大きい花をつける方なので庭木としても利用される。きれいな花をつけるが有毒植物なので牛や馬は食べないので，レンゲツツジの群生地となっている場所もある。霧ヶ峰・車山高原，鉢伏山・高ボッチ，美ヶ原等が有名である。

足助地区では怒田沢の県有林や寧比曾岳，田之士里湿原等で見られる。

北海道から九州まで分布している。



写真 V-134 ワチガイソウ



写真 V-135 レンゲツツジ

#### ハクウンボク（エゴノキ科エゴノキ属）（白雲木）

足助川に沿って大多賀へ行く途中に 1 本だけ見られる。エゴノキと同じ仲間で，エゴノキの花を大きくしてたくさんついたように見える。枝先に垂れ下がった総状花序をだし，白色の花を 20 個ほど下向きにつける。

高さは 10 数 m になるので見上げないと気付かないことが多い。種の発芽率が悪いようで幼木を見つけることは難しい。

北海道，本州，四国，九州に分布し，山地の落葉樹林に生育する。



写真 V-136 ハクウンボク

#### ブナ（ブナ科ブナ属）（榎）

足助地区では神越溪谷のマス釣り場（標高 530m），旧いこいの村愛知付近（標高 850m）あたりから高い所に見られるようになる。

落葉広葉樹で高木になり，日本の温帯林を代表する樹木である。日本にはブナ属にブナとイヌブナがある。後者は葉の側脈が多く，裏面には生長後も伏した毛がある。ブナとイヌブナの葉の特徴は，側脈の終端が鋸歯の凹部に入ることである。落葉からでも判断できるので分かりやすい。



写真 V-137 ブナ

ブナは側脈が7~11対ありイヌブナはブナより多く10~14対ある。

ブナの果実(堅果)はタンパク質や脂肪分が多く、カロリーが高いためリスやクマ等山の動物たちの大切な餌である。人間も食べることができる。しかし何年に一度程度しか実をつけることがなく、次の世代の芽生えを見つけることは難しくなっている。

材は腐りやすく狂いも大きいため、建築用材としては使われなかった。そのことから漢字は木に無いと書かれた。

動物の餌だけではなく、ブナ林は保水力が大きくほかの植物たちの生育に関わっている。春には新緑、秋に黄変し四季の変化にも富んだブナ林は観光資源としても利用されている地域がある。北海道南部、本州、四国、九州に分布する日本固有種である。

#### アケボノスマレ (スミレ科スミレ属) (曙堇)

花は直径2~2.5cmと大きく紅紫色をしている。花弁は厚く、距は太くて短い。葉が開き切る前に花が咲き始めるのが特徴。葉は三角状のハート型で大きく厚い。花の時期には葉が内側に巻きこむのが特徴でもある。

北海道(南部)、本州(太平洋側)~九州に分布し、林の縁や山地の明るい林内等に生える。足助地区では伊勢神遥拝所辺り、大多賀にある林道沿い、寧比曾岳の頂上近く等わりと標高の高い方で見られる。



写真 V-138 アケボノスマレ

#### エンコウソウ (キンポウゲ科リュウキンカ属) (猿猴草)

湿地や水辺等に生える多年草で足助地区では1か所で見られる。花茎は地面を這いその先に花をつける。5個ある花弁のように見えるものは萼片である。雄しべはたくさんある。キンポウゲ科の仲間だけあって、ウマノアシガタの花によく似ている。

北海道・本州に分布する高さ30~50cmになる多年草。

愛知県：絶滅危惧種 IA 類 (CR)



写真 V-139 エンコウソウ

#### コヤブデマリ (レンプクソウ科ヤブデマリ属) (小藪手毬)

ヤブデマリの葉の小さい姿から、田之士里の人たちは「チャボヤブデマリ」とよんでいる。これはヤブデマリの変種で葉身長がおおむね6cm以下のものをコヤブデマリとよんでいる。

花序の中心部には黄色っぽい両性花が多数つき、その周りを5つに裂けた白い飾り花(装飾花)が取り巻く。両性花の花冠は深く5裂してそりかえる。装飾花は深く5裂して平開する。飾り花の裂片のうちの1~2枚は極端に小さい。この飾り花は花冠が変化したものである。

足助地区では標高の高い所で、ヤブデマリと一緒に見られる。落葉小高木。



写真 V-140 コヤブデマリ

### イヌザクラ（バラ科モモ属）（犬桜）

この木もありそうだがなかなか出合えない仲間の一つである。その花はウワミズザクラによく似ているが、総状花序には葉がつかないのが特徴でしかも咲く時期が半月以上遅いので区別することができる。ただ樹高は10～15mになるので下から見上げたのでは花が咲いているのかはよく分からない。

幹は青臭い匂いがする。これはほかのサクラにはない特徴の一つである。

豊田市では旧豊田市・旧小原村・旧東加茂郡で記録されている。愛知県では低山地～山地に見られるがそれほど多くない。海岸地方では見られないようだ。本州、四国、九州に分布し、山地に生育する落葉高木。



写真 V-141 イヌザクラ-1



写真 V-142 イヌザクラ-2

足助地区に「ムグラ」と名のつく植物はヤエムグラ、ヨツバムグラ、ヒメヨツバムグラ、ホソバノヨツバムグラ、ヤマムグラ、クルマムグラ、オククルマムグラ、ミヤマムグラ等がある。

### ミヤマムグラ（アカネ科ヤエムグラ属）（深山葎）

寧比曾岳の頂上近くを通っている林道の行き止まり近くで見つけたもので、何年前にも見つけたことを思い出した。今のところここでもか出会っていない。

葉は4個輪生するが2個が小さく、ほかの2個が大きい。茎頂の短い花序に少数の花をつけ花冠は白色で4裂する。直径は2mmほど。

ミヤマムグラは明らかな葉柄があるので、オオバノヨツバムグラと区別ができる。

北海道、本州、四国、九州に分布する高さ10～25cmになる多年草。



写真 V-143 ミヤマムグラ

### カワチブシ（キンポウゲ科トリカブト属）（河内附子）

全草有毒であることが知られていて、特に塊根に有毒物質が集まっている。寧比曾岳から富士見峠へ、あるいは金蔵連峠に向かう東海自然歩道歩道沿いでも見られる。大多賀町の奥の方にもある。

帽子のように見える萼片の中に花弁が2個入っている。

本州（関東地方～近畿地方の太平洋岸）、四国に分布し、林縁、草原に生え、高さ50～180cmになる。ただ周りに頼る植物がないと頭が重くなって傾いている。

ユモトマユミ (ニシキギ科ニシキギ属)

寧比曾岳から富士見峠に行く東海自然歩道歩道沿いで見られる。マユミに似ているのだが葉裏の脈上に毛があることで区別できる。これも比較的標高の高いところで見られる。

北海道、本州に分布する落葉小高木で雌雄異株である。



写真 V-144 カワチブシ



写真 V-145 ユモトマユミ

シコクスミレ (スミレ科スミレ属) (四国菫)

ブナ林に生えるスミレといわれていて、ブナは旧いこいの村愛知近くから見られるが、このスミレが見られるようになるのは寧比曾岳の頂上付近である。

地下茎をのぼして広がるため、群生している姿を見かける。葉がハート形で先がとがり、表面の主脈と側脈がへこんでいる。花が終わると葉が少し大きくなってくる。

花期は4月下旬～5月上旬。

関東～四国、九州の主に太平洋側の温帯林に見られる多年草。



写真 V-146 シコクスミレ

オニイタヤ (ムクロジ科カエデ属) (鬼板屋)

高さ10～20mになる落葉高木で金沢段戸国有林内等、標高の高いところに生育している。葉は掌状に5～7裂する。表面は無毛で光沢がない。特徴としては裏面全体に細毛が密生しビロード状の手触りがすることである。

豊田市では旧足助町、旧旭町、旧稲武町に記録が残されている。愛知県では東三河山間部に多く見られる。北海道(日高地方)、本州、四国、九州の湿り気のある場所に生える。



写真 V-147 オニイタヤ

ヒトツバカエデ (ムクロジ科カエデ属) (一葉楓)

寧比曾岳へ登っていく東海自然歩道の途中で見られるが、木が大きくなっていてその葉を見ることができないので気づかずに通り過ぎてしまう。寧比曾岳から筈ヶ岳へ向かう東海自然歩道沿いでは背が低いので見ることができる。葉はオオカメノキの葉に似ていて、同じような場所に生えているのでどちらか迷うことが多い。

カエデ属は一般に手のひら状の葉(掌状葉)に切れ込みがある種類が多く、また3出複葉にな

る種類があるが（ミツデカエデ等）、本種の葉は卵状の心円形で切れ込みはなく、基部は心臟形をしていて一見カエデの仲間にはみえないが、ほかのカエデ属同様、葉は2枚対になってついている。このように葉に切れ込みのないことから別名をマルバカエデともいう。

同じ株に雄花と両性花が出る雄性同株で、高さは12mほどになる。日本固有種。

豊田市では旧東加茂郡（旧足助町、旧下山村、旧旭町、旧稲武町）に記録が残されている。

愛知県では奥三河の標高の高い山で見られる。本州の秋田県・岩手県以南から近畿地方以北に分布する。



写真 V-148 ヒトツバカエデ

#### ウリハダカエデ（ムクロジ科カエデ属）（瓜膚楓）

独特の3浅裂する葉と緑色の幹はウリカエデに似ているが、それよりもずっと大きい。樹皮は暗い青緑色の縦縞の模様があり、この模様の色が、マクワウリの未熟な実の色に似ていることからウリハダカエデの名がある。ただ幹が太くなるにつれて地の緑色は淡褐色に変わり、やがてコルク質が少し発達して淡灰褐色となって若い頃のウリとは全く異なった質感になる。

本種によく似たホソエカエデがある。そちらは葉裏の脈脇に薄膜があるから区別できる。ただどちらも落葉高木で樹高8~12mあるため、どちらなのかを確認するには落ち葉を調べることが一番てっとり早い。

豊田市では旧西加茂郡（旧三好町を除く）、旧東加茂郡（旧下山村を除く）に記録が残されている。足助地区では標高500m辺りから見られるようになり、寧比曾岳や金沢段戸国有林では数多く見られる。

愛知県では主に山地に生育し、谷筋や緩やかな斜面に生える。雌雄異株まれに同株。本州、四国、九州の丘陵帯から山地帯に普通に見られる日本固有種。秋の紅葉は鮮やかである。



写真 V-149 ウリハダカエデ

植生調査表

No. 見物家 1 凡例名 (群落名) ハウチノエツ・バクサイソウ  
 調査地 摩多 郡 豊田 町 見物 寧比曾岳  
 (地形) 山頂:尾根:① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺  
 (土壌) 赤土性・褐森・赤・黄・黄褐森・アズノ・クライ・擬クライ・ (日当) ① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺  
 沼沢・神植・高湿草・非固岩層 (固岩層)・水面下・その他 ( ) (土湿) 乾・適・過湿  
 階層 葉占種 高さm (積被率%) (径径cm) (種数)  
 T1 高木層 ハウチノエツ 10~15 80 7~40 1  
 T2 亜高木層  
 S 草本層  
 H 草層 バクサイソウ 9  
 M 一年草 ミヤマエンレイソウ

X-ツシ 53-65  
 12.5 寧比曾岳  
 海拔 1100 m  
 方位 S 45° E  
 傾斜 34°  
 面積 10 × 10 m<sup>2</sup>  
 出現種数 10  
 ① 気温 14.5°C (14:20)

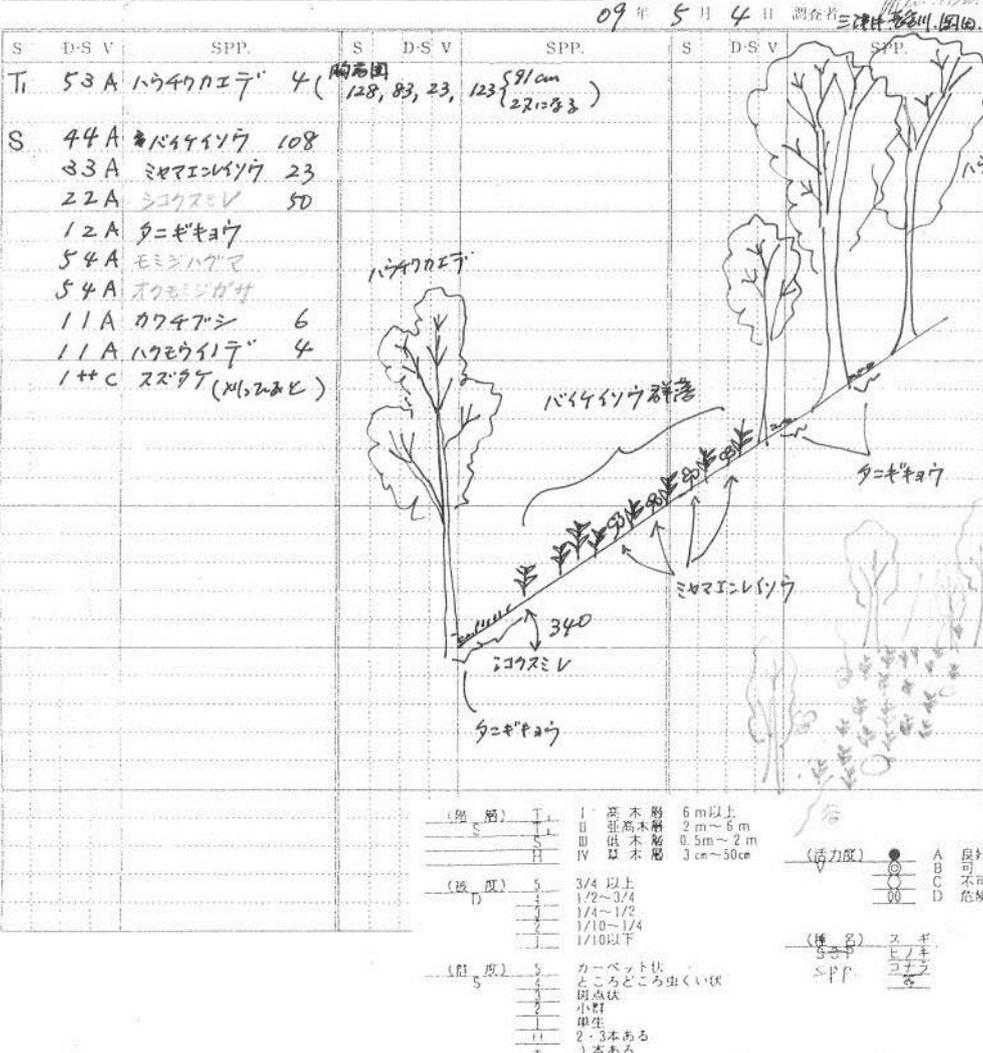


図 V-24 寧比曾岳の保健保安林のコドラート-1  
 高木の下にはミヤマエンレイソウ、タニギキョウ、シコクスミレ等の草本類が見られる

植 生 調 査 表

X-72253-65

No. 見取草3 凡例名(群落名) イサカエツ、バイケイソウ、コクスミ、ミヤマタニソバ

調査地 愛知 都府 豊田 見取 寧比曾岳 10:00 寧比曾岳 20°C

(地形) 山頂:尾根:上:中:下:凸:凹:平地 (風害) 強:弱 (日照) 陽:陰 (土壌) ホド性:赤:黄:黄褐:アト:グライ:擬グライ (湿度) 陽:陰 (沼沢・沖積・高湿草・非固岩層:固岩層:水而下:その他) (土湿) 乾:湿:過湿

(階層) 葉高種: 高さm (植被率%) (樹径cm) (種数)

T <sub>1</sub> 高木層	イサカエツ	30	40	36	1	(備考)
T <sub>2</sub> 亜高木層	スギ	10	10	8~89	1	
S 低木層	コクサギ ヤマアジサイ ニワトコ	12	20	89	345	
H 草本層	バイケイソウ コクスミ ミヤマタニソバ クニキク	1	20~90		198 420	
M	-	-	-	-	-	-

(出現種数) 2425  
2627

H21年 6月 20日 調査者 三浦 隆明、岡田 洋一郎

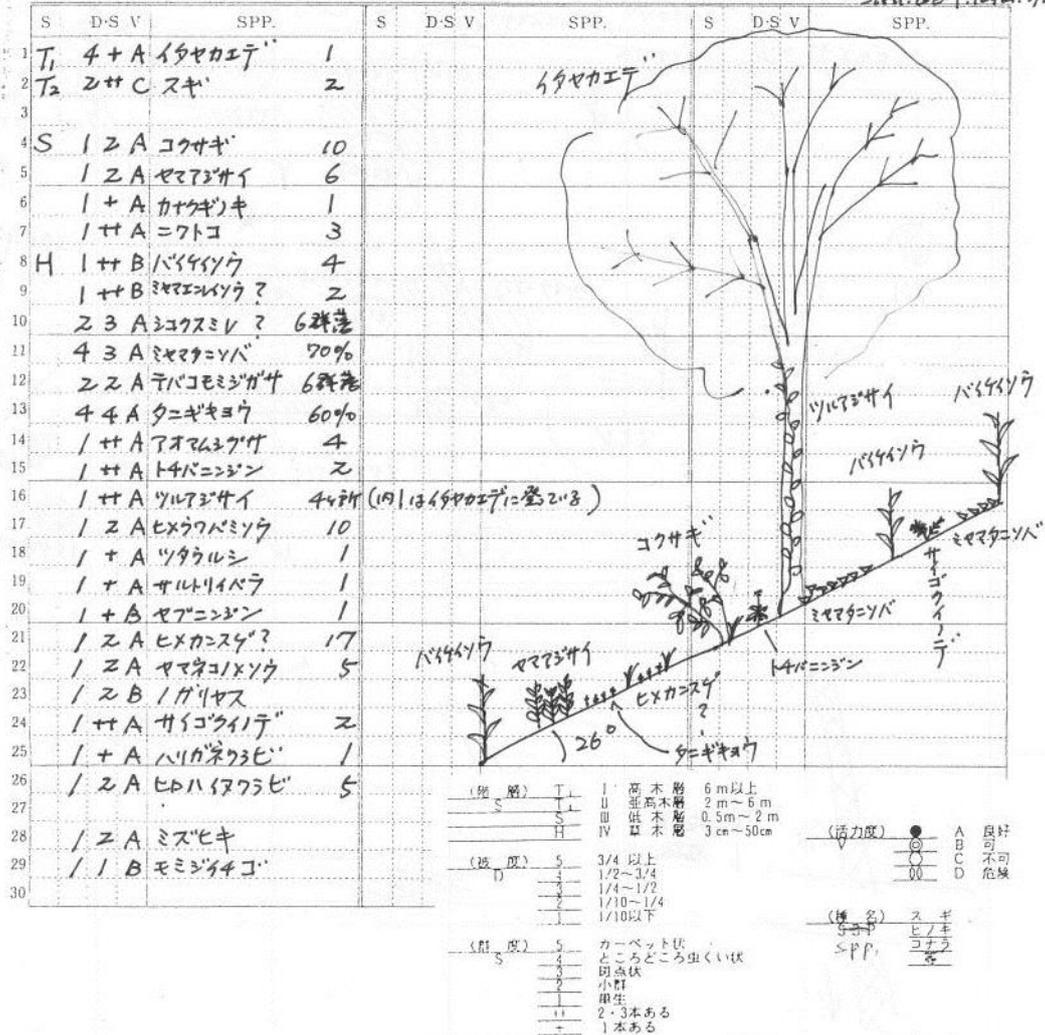


図 V-25 寧比曾岳保健保安林のコードラート-2

高木の下には低木層のヤマアジサイ、コクサギが見られ、ミヤマタニソバやバイケイソウ等の草本類が見られる。

#### コミネカエデ（ムクロジ科カエデ属）（小峰楓）

葉はイロハカエデに似ていなくもないが、それよりも大きくて掌状に5裂する。中央の3つは先端が長く伸びて尾状となり、縁は荒い重鋸歯がある。ミネカエデに似ているが、それより小さいので「コ」がついている。ミネカエデは愛知県にはないので見間違えることはない。

秋には真っ赤に紅葉する姿が見られる。樹高は6~10mであまり高くはならない。雌雄異株または同株。

豊田市では旧東加茂郡に記録が残されている。足助地区では標高700m辺りから見られるようになる。愛知県では奥三河の標高800m以上にややまれに見られる。本州、四国、九州に見られる。日本固有種。

#### アサノハカエデ（ムクロジ科カエデ属）（麻の葉楓）

愛知県内では標高1,000m以上の山地に点在し、個体数は少なくなかなか見ることができない。亜高山帯に生育するオガラバナの葉に似ている。葉が麻の葉に似ていることからこの名がある。樹高は5~10mの落葉小高木。雌雄異株で日本固有種。

豊田市では旧足助町と旧稲武町に記録が残されている。足助地区では寧比曾岳の頂上付近の急な斜面で見られる。愛知県では奥三河の山地にまれに見られる。本州の東北地方南部から四国にかけて分布する。

#### ウダイカンバ（カバノキ科カバノキ属）（鶉松明樺）

落葉高木で樹高は10~20mになる。雌雄同株の風媒花である。肥沃な場所を好み、山の谷に近い中腹斜面に生える。

豊田市では旧足助町と旧稲武町に記録が残されている。分布の南限に近いいため見つけることは難しい。奥三河の山地に点在する。北海道、本州（中部以北の山地）に分布する。

愛知県：絶滅危惧 II 類 (VU)

#### オヒョウ（ニレ科ニレ属）（於瓢）

足助地区の大多賀町の沢の奥に1本あるのを見つけた。標高は850mほどである。愛知県の南限であろうか。

葉の上方は大きく3裂か5裂に浅く分かれるが、多くは3裂である。切れ込みのない葉もある。このように葉の形に違いがあって、全てが同じパターンの葉ではない樹木にはヒメコウゾ、ヤマグワ等がある。

豊田市では旧東加茂郡（旧下山村を除く）に記録が残されている。愛知県では奥三河の山地にややまれに見られる。北海道、本州、四国、九州にかけて分布し、樹高20~25mに達する高木の落葉広葉樹で、雌雄同株の両性花で風媒花のため葉の開葉に先立って開花する。



写真 V-150 オヒョウ

#### (4) 伊勢神・連谷の植物

段戸川の大多賀から連谷にかけての地域は温帯性植物の宝庫で、深い谷間という地形条件のために興味があるシダ植物が見られる。フジシダ、ミヤマクマワラビ、ハクモウイノデ等がある。

草本では寒地系のミヤマエンレイソウ、ヤワタソウ、セリバオウレン、オクモミジハグマ等が見られる。樹木ではサワシバ、バイカウツギ、ミツバウツギ、ウリハダカエデ、イヌシデ、クマシデ、イタヤカエデ等が見られる。そのほかにはシロバナイナモリソウ、オドリコソウ、ザイフリボク、チドリノキ、ミツバカエデ、オオキツネノカミソリ、ウメガサソウ、クルマバハグマ、キツリフネ、ヒロハコンロンソウ、ミヤマイボタ、ウラジロウツギ、タムシバ、ミツモトソウ、ニリンソウ、ヒトツボクロ、スギ林の下にはフタバアオイの群落が見られる。

段戸川沿いにコチャルメルソウ、ハルトラノオ、オオハンゴンソウ（特定外来生物）、サツキ、キバナハナネコノメ、ヤシャゼンマイが見られる。道沿いにはヤマエンゴサク、シデシャジン、フシグロセンノウ、ヤマミズ、キバナハナネコノメ、ニッコウネコノメソウ等特有な植物が見られる。

足助川に沿ってはコチャルメルソウ、ハクウンボク、サワシバ、アケボノスミレ、バイカウツギ、ヒロハコンロンソウ、シロモジ、アブラチャン等が見られる。

伊勢神湿地はアカマツやブナの高木があり、その中にはコシアブラやタカノツメ、低木にはアセビ、シロモジがある。湿地の周りにはイソノキ、ズミ、オトコヨウゾメ、ノリウツギ、ウメモドキが見られ、湿地の中にはカキラン、サワギキョウ、ドクゼリ、ムカゴニンジン、コバノトンボソウ、ミズチドリ、アギスミレ、水の流れの中にはフトヒルムシロがある。谷筋にはバイケイソウがある。旧伊勢神トンネル辺りから上部にかけてサワギクが見られるようになり、キツリフネやミカワチャルメルソウも見られる。この辺りの林の中にはマルバノイチヤクソウ、ウメガサソウ、フモトスミレがある。

旧伊勢神トンネルと連谷町の神社には54種類（仮称を含む）の地衣類が確認されている。

#### フジシダ（コバノイシカグマ科オオフジシダ属）（富士シダ）

山の斜面に崩れてきた石がごろごろしているところに生育していて、1か所だけ確認している。そこは一面に広がっているの見ごたえがある。

葉身は薄い草質で単羽状葉、のびた葉先によく無性芽を形成し、地面に接すると発根して定着する。本州（福島県・関東地方以西）、四国、九州（南部を除く）に分布する。

#### ラショウモンカズラ（シソ科ラショウモンカズラ属）（羅生門蔓）

緑の葉が風に揺れる4月の終わり頃から花を咲かせる。花は一方向を向いていて、段々に咲く。茎は全体に毛があり四角形で地上を這い花とともに匍枝を出す。飯盛山でも生えているが登山道から離れた場所にあるので簡単には見ることができない。そこでは山の斜面に点々と生えていて、見ごたえのある花をたくさんつける。

本州から九州まで分布していて山地の林の中や林の縁等に生える多年草。

#### ハルトラノオ（タデ科イブキトラノオ属）（春虎の尾）

白い花弁のように見えるのは萼で、5つに裂けている。雄しべは萼から出ていて、咲き始めの葯は小豆色で、その後黒っぽくなっていく。

別名はイロハソウといい、春早く咲くので47文字の始まりのイロハにたとえたもの。

足助地区では河原の日当たりのよい場所で、標高のやや高い所から見られるようになる。

日本固有種の多年草本で、本州、四国、九州に分布する。



写真 V-151 ラショウモンカズラ



写真 V-152 ハルトラノオ

マルバノイチヤクソウ（ツツジ科イチヤクソウ属）（丸葉の一葉草）

大多賀峠から東海自然歩道を寧比曾岳に向かって歩くと中腹辺り、そこは自然歩道から離れていて数株ずつまとまって見られる。そして頂上から富士見峠に向かう自然歩道沿いでも見ることができる。旧いこいの村愛知の展望台付近でも見られる。

葉は2, 3枚出しロゼット状につく。葉には長い柄があり、葉は厚い。葉柄の元から20cm内外の花茎を出し、花冠は深く5裂、雄しべは10個、雌しべはこれより飛び出して湾曲する。

花が小さいだけあって種子はとても小さい。そのため風に乗って飛ばされるよさがあるが、種子が小さいことを考えると花を咲かせるまで生長するのに何年かかるのだろうかと思える。

イチヤクソウに似ているが少し標高の高い場所に多い。

北海道、本州、四国、九州に分布する多年草。「一葉草」と名がつくが、薬効としてはもっと何種類もあるようだ。



写真 V-153  
マルバノイチヤクソウ-1



写真 V-154  
マルバノイチヤクソウ-2

ウラジロウツギ（ユキノシタ科ウツギ属）（裏白空木）

花は枝先の円錐花序に下向きに多数つく。花弁は5個、外側には星状毛が密生する。ウツギやヒメウツギと同じように花糸の両側に狭い翼がある。

若枝は茶褐色で、星状毛が密生する。萼は白い星状毛が密生し雄しべは10個。葉柄は短く0.2~0.5cmで、星状毛が密生する。落葉低木で樹高1~2mになる。



写真 V-155 ウラジロウツギ

愛知県では長野県・岐阜県境の県北部一帯にややまれに見られる。豊田市では旧豊田市・小原・旭・稲武に記録が残されているが、今回足助でも見つかった。  
北海道，本州，四国，九州に分布し，林の縁等に生育する。

植 生 調 査 表

X-2263-14

No. 脚連谷 I	凡例名 (群落名)	岡幅 125m	川谷 100			
調査地 愛知 豊田 豊田 豊田 豊田	段戸川群	(海拔) 550 m	(方位) S 80° W			
(地形) 山 頂: 尾 根: 斜面: 上・中・下 谷: 平地	(風向) 強・中・弱	(傾斜) 46°	(面積) 10×10 m <sup>2</sup>			
(土壌) ホク性・褐森・赤・黄・黄褐森・アソド・クワイ・擬クワイ	(日当) 陽・半陰・陰	(土湿) 乾・適・過湿	(出現種数) 25			
沼沢・沖積・高湿草・非固岩層・固岩層・水底下・その他						
(階 層)	優占種	高さ m	積被率%	胸径 cm	種数	備 考
T <sub>1</sub> 高木層	カマゲキ, エコキ	10-30	60	6~25cm	4	12:30
T <sub>2</sub> 亜高木層	ミヤコザサ, シロササ	3-8	60	2~3.5cm	2	7°C
S 低木層	イヌハゼ, ツバキ	-1	30	-	7	
H 草本層	アザミ, アザミ	-	60	-	13	
M	-	-	-	-	-	

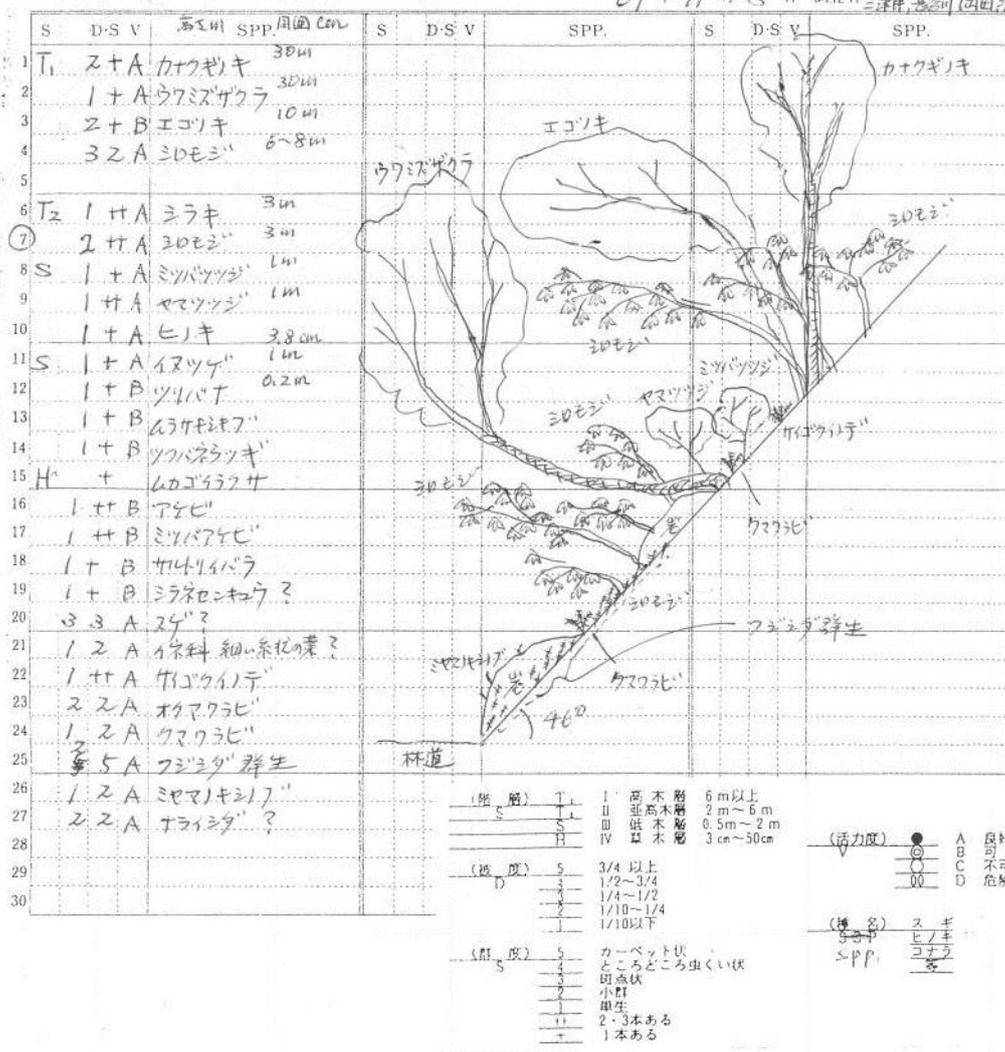


図 V-26 連谷のコドラート  
斜面を小石がおおっている場所で，地表面はフジシダやクマワラビ等シダ植物が多い。

シロバナイナモリソウ（アカネ科イナモリソウ属）（白花稲森草）

根茎から地上茎を立ち上げ 10~20cm になり，名のとおり真っ白な花をつける．花冠は長さ 8~10 mm，先が 5 裂する．雄しべの長さはイナモリソウは短く，シロバナイナモリソウは長く花の外まで突き出ている．イナモリソウの白花版のように思われがちだが，属は同じでも別物である．イナモリソウと同じように山地の木陰に生えるが，群落を作らずひっそりと咲く．

花期は 7 月下旬で足助地区では山ノ中立，連谷で見られる．関東地方から近畿地方の太平洋側に分布している．



写真 V-156  
シロバナイナモリソウ

スルガテンナンショウ（サトイモ科テンナンショウ属）（駿河天南星）

足助地区では寧比曾岳の頂上付近まで幅広く分布する種である．この種も完全に性転換をする．花までの背丈と偽茎の太さを図ると背丈が 60cm，偽茎が 6cm を超えるようになると雄株から雌株に転換するようだ．

雌株になるとやせて小さくなるようだ．そうすると次の年には雄株に戻りエネルギーを貯えてまた雌株になるようだ．雌株の大きいものは 1m を超している．

連谷町と寧比曾岳で調べたところ雄株が 56 雌株が 45 あり，雌株が 45% もあれば結構増えていくことが考えられ，また環境に適応しやすいことも足助地区全般で見られる一因であろう．

全国での分布は愛知県の岐阜県・長野県境，岐阜県・長野県の南部，静岡県の中中部・西部で，東海地方特産のようにも思える．



写真 V-157  
スルガテンナンショウ  
仏炎苞をあげて見た姿

バイカウツギ（アジサイ科バイカウツギ属）（梅花空木）

白いウツギの花の中では，花が大きいので一つ一つの花の見栄えが良い．花の感じが，梅の花に似ているためにつけられた名であるが，花弁の個数が 4 であり，ウメの 5 個とは異なっている．

愛知県では山間地でややまれに見られ，旧足助町，旧藤岡町，旧旭町，旧稲武町にあることが記録されている．足助地区では連谷，大多賀といった標高の高い方でまれに見られる．ウツギとほぼ同じ頃に花をつける．

本州の岩手県から四国・九州に分布している，高さ 2m ほどの落葉低木．



写真 V-158 バイカウツギ

アカサルオガセ（ウメノキゴケ科サルオガセ属）（赤猿尾枷）

地位体中央に中実の軸があり，表面が所々赤く，粉芽がある．香嵐溪にはサルオガセ属は見られない．旧伊勢神トンネル東側の杉の樹皮上で見られる．

北海道~九州に至る暖温帯（一部冷温帯）の樹皮上に生育する．

シデシャジン（キキョウ科シデシャジン属）（四手沙参）

「シデ」と名のつく植物は東海丘陵要素として有名な「シデコブシ」（旧東加茂郡にはない）、「シデザクラ」（正式名はザイフリボク）、「シデノキ」（正式名はアカシデ）がある。これらは樹木であるが、シデシャジンは多年草である。

花の特徴からほかの植物と見間違えることはない。花冠は長さ2cmくらいで、細く5つに裂けて反り返る。

近縁種のツリガネニンジンに似て、根はニンジンのようにになっている。「沙参」はツリガネニンジンの中国名である。葉の姿は全く異なるのでツリガネニンジン属ではない。

茎葉は互生してつく。茎下部の葉には柄があるが、上方のものには柄がない。全体にまばらに毛が生え、切ると白い乳液が出る。

本州及び九州に分布し、日当りのよい山地の林縁、草原に生え、高さは50～100cmになる。



写真 V-159 アカサルオガセ



写真 V-160 シデシャジン

ウメガサソウ（ツツジ科ウメガサソウ属）（梅笠草）

たまに見られる植物でまとまって生えていることは少ない。古いこいの村愛知近くでは数m続いてばらばらと生えていた。

開花時には傘を開いたように下を向いて咲き、花は徐々に横向きになり、果実の頃には上向きになり種子を実らせる。

花冠は深く5つに裂ける。花の後ろには5個の細長い萼片がある。雄しべは10個、雌しべは1個である。高さ5～10cmの常緑の草状の小低木なので、ほかの草等が生えてくると絶えてしまう。

北海道から九州までに分布し、林の縁等に生育する。

ヤワタソウ（ユキノシタ科ヤワタソウ属）（八幡草）

足助地区では1か所で見られ、草刈りの時一緒に刈られてしまうので、なかなか増えていかない。

葉は直径が30cmほどの円形になり、茎先に集散花序を出し、黄白色の小さな花を幾つかつける。花弁は5個で腺毛が密生し、先に鋸歯がある。萼の先は5裂し、裂片の先が尖る。雄しべは10個。

東北～中部の山地の沢沿い等のやや湿った場所に生える多年草。太い地下茎を持つ。



写真 V-161 ウメガサソウ



写真 V-162 ヤワタソウ

#### ミツデカエデ (ムクロジ科カエデ属) (三手楓)

葉を見るとヤマウルシかと一瞬思ってしまうが、よく見ると三出複葉の葉で対生することからカエデ属であることが分かる。葉柄は細長くて赤味を帯びる。小葉には荒い鋸歯があり、鋸歯の大きさには変異がある。葉は3~5小葉からなる。このか弱そうな姿を見ていると樹高が10~15mになるとは思えない。ただ見つけた木は背丈が1mほどで高木になるにはあと何十年も必要であろう。

豊田市では旧足助町, 旧旭町, 旧稲武町に記録が残されている。愛知県では奥三河の山地にややまれに見られる。日本固有種。北海道南部, 本州, 四国及び九州に分布する。



写真 V-163 ミツデカエデ

#### チドリノキ (ムクロジ科カエデ属) (千鳥の木)

葉は掌状になっておらずクマシデやサワシバに似ているといわれるが、それよりもアワブキの葉に似ていると思う。アワブキの葉は互生、縁には低い鋸歯がある。本種は葉は対生で縁には鋭い重鋸歯があり、翼のある果実(翼果)をつけることで容易にカエデの仲間であることが分かる。雌雄異株で高さ4~10mになる落葉小高木。山地の沢沿いに生育する。

豊田市では旧東西加茂郡(旧三好町, 旧下山村, 旧小原村を除く)に記録が残されてる。愛知県では山地にやや多く分布し本州, 四国, 九州に分布する。



写真 V-164 チドリノキ

#### (5) 神越川とその上流の溪谷の植物

下山地区に接する地区で、特に田之土里湿原ではノハナショウブの群落が見られる。ハンゴンソウ, オタカラコウ, スイラン, レンゲツツジ, キセルアザミ, コバノトンボソウ, カキラン, コオニユリ, ヌマガヤ, ニッポンイヌノヒゲ, イヌノヒゲ, イヌノハナヒゲ, アギナシ, ゴウソ, コマツカサススキ, ヌマトラノオ, ミソハギ, サワギキョウ, ムカゴニンジン, ヒメシロネ, チダケサシ, ゴマナ, サワヒヨドリ, ウメバチソウ, モウセンゴケ等がある。樹木ではクロウメモ

ドキ、ノリウツギ、ウメモドキ等がある。谷筋に以前たくさんあったクサレダマ、ヤマトキシソウが見られなくなった。

神越溪谷にはダイモンジソウ、ミヤマトウキ、コチャルメルソウ、サツキ、ヤシャゼンマイ、カツラ、フサザクラ、ヤブウツギが見られ、ミヤマトウキは足助地区ではここだけに見られる。樹木として特徴的なものはミヤマトサミズキ（別名コウヤミズキ）で、溪谷沿いの道路を当地区の「みずきの里づくり推進委員会」はミズキロードと名づけて保護にあたっている。このほかに特記すべき樹木はタムシバ、タンナサワフタギ、ユクノキ、マンサク、ケグワであり、特にマンサクは高木が多い。



写真 V-165 田之土里湿原-1



写真 V-166 田之土里湿原-2

#### アオネカズラ（ウラボシ科エゾデング属）（青根蔓）

低山～山地の樹幹や岩壁に着生する冬緑性シダで、根茎は岩や樹木を長く這い肉質である。

葉質は厚く、柔らかい草質で、表面にまばらに、裏面にはやや密に短い開出毛があり、淡緑色をしている。葉身は広披針形～卵状長楕円形で羽状に深裂する。側裂片は15～25対あり、水平に開出し、全縁である。葉脈ははっきり見えず大きな網目となり、裂片の中肋に沿って1列の網目をつくる。ソーラスは中肋近くにつき、円形で大きい。

本州（富山県、関東西部以西）、四国、九州に分布し、足助地区では1か所岩上に広がって生育している。



写真 V-167 アオネカズラ

#### ハグロソウ（キツネノマゴ科ハグロソウ属）（葉黒草）

香嵐溪の飯盛山では8月頃のキツネノカミソリの花に交じって花を咲かせている。林の中の日陰にあり、また、周りの植物も同じくらいの背たけになっているので気づかないことが多い。その花は2個の苞（花のつけ根につく葉の変形したもの）の間から淡い紅紫色をした唇形の花を開いている。東地から九州にかけて分布し、広葉樹林内や、やや湿った林縁等の半日陰に生育する多年草。



写真 V-168 ハグロソウ

#### ユクノキ（マメ科フジキ属）（雪の木）

この木もありそうだがなかなか出会えない仲間の一つである。山ノ中立に1本ある。背が高く

20m 近くにもなる。花が咲いても下から見上げるしかない。

本州（関東以西）、四国、九州にまれに見られるマメ科の落葉高木で、フジのような複葉に、マメ科特有の白い花を咲かせる。

豊田市では旧足助町・旧旭町・旧稲武町で記録されていて、愛知県では三河山間部で見られるがそれほど多くないようだ。



写真 V-169 ユクノキ-1



写真 V-170 ユクノキ-2

#### サツキ（ツツジ科ツツジ属）（皐月）

溪流沿いの岩場に生え、大雨が降って増水したときには埋もれてしまうくらい川面に近いところに見られる。なぜこのような場所を選んで生育しているのだろうか。ほかとの競争を避けているとも考えられる。同じような場所に生える植物としてはヤシャゼンマイがある。

ほかのツツジと比べると1か月ほど遅く、6月から咲き始める。これをもとにして多くの園芸品種が作られている。

旧豊田市、旧東西加茂郡に生育している記録がある。

足助地区では巴川、神越川、段戸川沿いで見られる。関東以西から九州まで分布する。常緑低木で高さは0.5mほど。



写真 V-171 サツキ

#### ケグワ（クワ科クワ属）（毛桑）

カジノキに似ているが葉の表面は開出毛が生え、裏面には短毛が密生しビロード状の手触りがする。特に脈上には多い。葉の切れ込みはないものから、5裂するものまで多様である。

足助地区ではまれに見られるが、高さが20m近くになった大木もある。雌雄異株で本州（和歌山県・中国地方）、四国、九州に分布する。



写真 V-172 ケグワ

#### ムカゴイラクサ（イラクサ科ムカゴイラクサ属）（珠芽刺草）

葉は互生し刺毛を散生し、茎は緑色で刺毛があり、この棘にはアセチルコリンとヒスタミンが含まれているので触ると痛い。

イラクサのイラクとは刺のことで、葉腋に球芽をつける。よく似たイラクサは葉が対生している。山地の湿り気のある木陰に生え、草丈は30~60cmになる。

北海道~九州に分布し雌雄同株で多年草。



写真 V-173 ムカゴイラクサ-1



写真 V-174  
ムカゴイラクサ-2

#### (6) 中立町と周辺の丘陵地の植物

中立町の栗園付近にはシライトソウ、キソキバナアキギリ、ヤブレガサ、イナモリソウ、モウセンゴケ、カキノハグサ、樹木ではコナラ、アベマキ、クリ、ヤマザクラ、ヤマヒョウタンボク、オオカメノキ、コバノミツバツツジ、ヤマツツジ、モチツツジ、ネジキ、オオウラジロノキ等がある。尾根はよく乾燥していてナツハゼやネジキがよく見られる。

黍生 (374m) にはヒキヨモギ、サイハイラン、クモキリソウ、ツルアリドオシ、オオバノトンボソウ、ミヤマウズラ、オケラ、ヤマボウシ、ヒメハギ、ツチアケビ、タブノキ、ゴンズイ、ツクバネ、ササユリ、クチナシグサ、ヤマヒョウタンボク、カナメモチ、ソヨゴ等が見られ、持ち込まれたシラユキゲシがかなり増殖している。

麓の谷間にはユウスゲ、カワラマツバ、クララが見られ、水田にはアゼムシロ、オカオグルマ、ムラサキサギゴケ、ミズオオバコ、コナギ、シャジクモ等が見られる。

#### キソキバナアキギリ (シソ科アキギリ属) (木曾黄花秋桐)

キバナアキギリの変種である。この名の中には「キソ」と「キバナ」と「アキギリ」の3種の言葉が入っている。「アキギリ」(キリの花に似て秋に花をつける)に似て黄色の花を咲かせるから「キバナアキギリ」(夏に花を咲かせる)。そして木曾地方で発見されたから「キソキバナアキギリ」。

日本固有種で長野県、岐阜県、愛知県に分布し湿り気味の山地の木陰に生える多年草で、足助では限られた場所しか見られず、今のところ安定しているが広がる様子はないので、将来は心配である。

#### シライトソウ (シュロソウ科シライトソウ属) (白糸草)

特徴ある花の姿なので見て名前を聞くと覚えやすい植物の一つである。全体で一つの花ではなく、6個の花被片、6個の雄しべ、1個の雌しべがあり、4個の花被片は長いがほかは小さく花茎に密着していて、それらが数多くついている。外見的には個々の花は見分けられず、花茎から多数の細長く白い花被片が立っているように見えよく目立つ。

開花初期の花序は短く、花被片は下向きに垂れている。開花は花序の下方からはじまり、開花しながら花序も伸びていく。いくなればどンドン上に幾つもの傘を開いていくという言い方があてはまるだろうか。

根生葉はロゼット状をしておりショウジョウバカマに似ているが、つやがない。根生葉は濃い紫色をして越冬する。

林内の谷沿いや日当たりのよい沢沿いの草地等に生える。周りの草がのびてしまう所で草刈りがされない場所では絶えてしまう。

足助地区では葛，井ノ口，月原で見られる。本州（秋田県以南），四国，九州に分布する多年草。



写真 V-175  
キソキバナアキギリ



写真 V-176  
シライトソウ

イナモリソウ（アカネ科イナモリソウ属）（稲森草）

花の咲き始めはとても清楚で淡い紅紫色の花を咲かせる。草丈3～10cm，萼は鐘形で先は5裂し縁が波打っている。葉は対生して長さ3～6cmで間隔を狭めて大きさが異なった2対がつく。花期は6月上旬。

生えている場所はヒノキが間伐される前は薄暗くひっそりと植物たちは生えていたのだろう。日当たりが良くなったため生き生きとしてきて、これからもっと多くの植物たちが見られるようになるだろう。

本州（関東地方以西）～九州に分布する多年草。日本固有種。湿った山地の樹林下に生える。



写真 V-177 イナモリソウ-1



写真 V-178 イナモリソウ-2

カキノハグサ（ヒメハギ科ヒメハギ属）（柿の葉草）

あの辺りにあるからといわれて花が咲く6月に通ったがついに見つけることはできなかった。小原地区では何回も出会っているのだが、足助地区では2か所しかないようだ。

「カキノハ」というのは葉が柿の葉に似ているからこの名がある。ヒメハギ科ヒメハギ属なのだが、ヒメハギの花に似ているとはあまり思えない。

近畿～東海地方の比較的限られた地域でしか見られない多年草。

#### メハジキ（シソ科メハジキ属）（目弾き）

日当たりのよい野原や道ばたに生える多年草。シソ科なので茎は4稜があり、葉の脇に淡い紅紫色の唇形の花をつける。上下で全く様相の異なる葉をつける。

名は「目弾き」からきたもので、子どもが茎を短く切ってまぶたにはめ、目を開かせて遊ぶことからという説と、まぶたをつぶって遠くに飛ばすという説がある。

「養命酒」の成分の中に「益母草（やくもそう）」が入っている。地上部を刈り取り日干しをして乾燥させたものが生薬の「益母草」である。字から分かるように「母に益をもたらす草」で、古くから中国で婦人薬として利用されてきたようだ。

本州，九州，四国に生える多年草。



写真 V-179 メハジキ

#### (7) 大河原・月原の矢作川流域の植物

矢作川沿いにわずかある砂地は竹林となっているが、その下にはレンプクソウ、ヒメウズ、カテンソウ、ミカワチャルメルソウ、ウラシマソウ、イチリンソウ、ニリンソウ、ソクズ、コクサギ等があり、ヒカゲスマレ、トウゴクサバノオ、コガネネコノメソウ等が見られ、付近の山にはキハギ、ツノハシバミ、ハシバミ、ヤマイバラ、ヒメバライチゴ、オオバノハチジョウシダ等足助地区で珍しい植物も数多くある。

川沿いの樹木としてはマンサク、キブシ、ウグイスカグラ、イイギリ、カワヤナギ、カラスザンショウ、ケケンポナシ、バイカツツジ、オオカメノキ、ツルグミ、カワラハンノキ等が見られる。林床にはエビネ、ホトトギス、ヤマキツネノボタン等が見られる。

本城山国有林や市有林は植林がされているがその林床はまだ手入れがされていない。そんな中にリンボク、フユザンショウ、エビガライチゴ、ウラジロノキ、オオカメノキ、ツクバネガシ、カナクギノキ、クスノキ等の樹木が見られる。林床や道沿いにはイチヤクソウ、マツカゼソウ、ハエドクソウ、ツルアリドオシ、オカトラノオ、フタリシズカ、オトコエシ、カラスノゴマ、アキチョウジ、トウゴクシダ、イヌガンソク、ヒメワラビ等が見られる。

#### ヒカゲスマレ（スマレ科スマレ属）（日陰堇）

足助地区では川沿いで湿度が高く、半日陰になる竹やぶの中に生息している。根をのばして増えていくので群生することがある。約2cmの白色の花をつける。一株につける花の数は1つ2つが多く、大きな株になっているのに花をつけていないものも多く見られる。

葉は長卵形～長三角形で、先がとがり、やわらかく、両面に毛が多い。花柄や葉柄にも毛が多い。

日陰に生えることからこの名がついているが、日の当たらない日陰ではない。北海道，本州，四国，九州に分布する。



写真 V-180 ヒカゲスマレ

今のところは竹やぶの中で見られるが、大水等が出て土をかぶってしまうと絶えてしまう心配がある。

#### ツクバキンモンソウ（シソ科キラソウ属）（筑波金紋草）

キラソウは茎を地面に張りつけるように伸ばして葉腋に花をつける。花冠の上唇より雄しべ雌しべが長い。タチキラソウの葉の鋸歯は少なく、葉表には毛がほとんどなく、光沢があり花は濃紫色をしていることと、花冠の上唇が大きく2裂することが特徴である。ニシキゴロの葉の表は光沢はなく葉脈が紫色になっていて、花は淡紅紫色で、上唇は2裂し長さ2.5～3mmである。



写真 V-181 ツクバキンモンソウ

この花の茎は立っていて葉表には光沢はなく、葉脈が鮮やかに紫色になり裏面は紫色をしている。花冠の上唇が2裂し長さは1mm以下と短い。こうして姿をよく見るとキラソウでも、タチキラソウでもニシキゴロモでもない。とするとニシキゴロモの変種のツクバキンモンソウか。しかし花の色はるり色で、図鑑に出てくる白色や淡紫色ではない。

本州（主に太平洋岸）、四国に分布し、日本固有種である。花期は4月。

#### ウラシマソウ（サトイモ科テンナンショウ属）（浦島草）

肉穂花序の先端の紫黒色の付属体はひも状に長くのび40～60cmほどになり、途中から釣り糸のように垂れる。この姿から浦島太郎が釣り糸を垂らしているように見えて名がつけられたのだろう。うまく言い当てているように思える。このひも状のものの役割は分かっていないようだ。



写真 V-182 ウラシマソウ

テンナンショウ属の植物は性転換をすることが知られており、本種でも同様である。比較的小型の個体では雄性となり、仏炎苞内部の肉穂花序に雄花群を形成し、球茎に養分が多く蓄積すると雄株から雌株に性転換する。そのことから大型の個体では雌性となり、肉穂花序には雌花群を形成する。

種子でも増えるが、地下に偏球形の球茎を形成し周囲に子球をつけ、栄養繁殖を行うことの方が多そうだ。ほかのマムシグサも同様に球茎は有毒である。

山地の林床・林縁や湿り気のある草原等に自生している。宿根草の多年草で耐陰性が強く乾燥を嫌う。足助地区では飯盛山や矢作川沿いで見られる。寿命は5年程度といわれている。

北海道南部、本州、四国東部、九州（佐賀県）に分布している。

#### マルバノキ（マンサク科マルバノキ属）（丸葉の木）

足助地区では2か所で見られる。高さは3mほどで、傾いて生長している。秋には紅葉し、その葉が落ちると葉の脇から出る短い枝先に紅紫色をした2輪が背中合わせにつく。花びらは5個で、線形をしていて先が細長く尖る。いふなればマンサクの花そっくりである。和名のとおり葉が丸い。別名のベニマンサクは花が赤いことからきている。

花、果実、紅葉が秋と一緒に見られる。紅葉の美しさと花のかわいらしさが好まれ、庭木として栽培されている姿を見ることがある。

日本固有の植物で、豊田市では小原地区、藤岡地区でも見られる。本州の中部地方と岡山県、広島県、高知県に分布する。日当たり良好な山地に自生する落葉低木で2~4mの高さになる。

バラ属で見られるのはノイバラ、テリハノイバラ、ミヤコイバラ、ヤマイバラである。バラ名のつくサルトリイバラはサルトリイバラ科（もしくはユリ科）に分けられている。

#### ヤマイバラ（バラ科バラ属）（山茨・山薔薇）

野山に生えているバラの中では最も大きく、葉は小葉が2, 3対ある奇数羽状複葉で、長さが10~15cmあり枝には下向きの鉤形の強い刺をもち、ほかの高木等に這い登っていく。そのため大きくなるとやっかいものとして切られてしまうことがある。

托葉は幅が狭く、ふちには腺毛がまばらにある。花柄には短い腺毛や軟毛があり、萼にも腺毛と軟毛がある。

旧豊田市、旧足助町、旧小原村に記録がある。現在足助地区では月原で見られる。

愛知県以西~九州の山地にまれに生える半つる性落葉低木。



写真 V-183 ヤマイバラ

#### (8) その他の地域の植物

##### ア 怒田沢県有林（怒田沢町）

県有林の中にはコセリバオウレン、セリバオウレン、ウメガサソウ、ハクウンボク、フシグロセンノウ、オオミズゴケ、タニギキョウ、ツルリンドウ、ニッコウネコノメソウ、バイカツツジ、ノギラン、オオバノトンボソウ、マンネンスギ、ヤマヤブソテツ、コケのタマゴケ等が見られる。

湿地群内にはヒメシロネ、サワギキョウ、オオミズゴケ等が見られ、林道沿いの湿気ったところにはモウセンゴケが多数見られる。



写真 V-184  
県有林内湿地-1



写真 V-185  
県有林内湿地-2

##### イ 大鷲院（新盛町）

この寺の周辺には足助地区としては珍しいコショウノキの群落が見られ、ここには足助地区唯一の産であるヒメサジランが見られる。そのほかにはタラヨウ、クモキリソウ、シロダモ、イヌガヤ、サジラン、シュンラン、ツヅラフジ、シキミ、ミヤマシキミ等が見られる。

ここは植林されたスギが大きくなって見晴らしはよくない。

この地は愛知高原国定公園の飛地である。

コショウノキ（ジンチョウゲ科ジンチョウゲ属）（胡椒の木）

足助地区では新盛町にある大鷲院の山に多く見られる。このほかに久木町や黍生山(374m)でもまれに見られる。

植林された林内の縁に近く多少湿気ったような場所に生える。芳香のある白い花を枝先に数個つける。花卉がなく、萼は筒状で先は4裂する。雄しべは8個あり花糸の長短が交互に並んでいる。雌しべは1個。花期は4月上～中旬。実は6月に赤く熟し有毒である。

豊田市では旧西加茂郡（旧三好町を除く）、旧東加茂郡（旧下山村を除く）に記録が残されている。

本州（関東地方以西の太平洋側）、四国、九州、沖縄に分布する常緑小低木で高さは1m以下。



写真 V-186 コショウノキ  
幹は直立し、よく枝分かれする

#### (9) その他特徴的な植物

オシャグジデンダ（ウラボシ科エゾデンダ属）（御社貢寺デンダ）

葉は夏に落葉し、秋から新葉がのびる冬緑性シダで山地の樹幹や岩壁に着生する。乾くと葉の軸がくると巻いてゼンマイ状になる特性がある。

葉は光沢のない緑色の薄い紙質で、裏面には柔らかな毛が生える。葉脈は羽状に分岐し、遊離、先端は裂片の辺縁に達しない。葉身は狭い卵形から広披針形、基部はやや狭くなり、羽状深裂する。側裂片は15～25対あり、ごく浅い鋸歯がある。ソーラスは裂片の辺縁と中肋の中間か、やや中肋寄りにつく。

北海道、本州、四国、九州に分布し、足助地区では木に着生している姿が見られる。

オキナグサ（キンポウゲ科オキナグサ属）（翁草）

春、花茎を出し、その先に1個の花を咲かせる。その花は鐘状でうつ向いて咲き、花卉のように見えるのは萼片で6個、平開せず外面は白い絹様毛を生じ、内面は暗赤紫色をしている。中にはたくさんの雄しべと雌しべがある。根際から生える葉や茎にも長くて白い毛が密に生える。花が終わると茎は直立し、瘦果は多数が球状に集まり白い毛が密生する。

以前は水田のあぜ等によく見られたというが、足助地区では2か所で見られるがともに数が減り2株3株になっていて絶滅寸前である。

環境省：絶滅危惧 IB 類 (EN) 愛知県：絶滅危惧 IA 類 (CR)



写真 V-187 オシャグジデンダ



写真 V-188 オキナグサ

### アリドオシ（アカネ科アリドオシ属）（蟻通し）

主茎はまっすぐに伸びるが、側枝はよく二叉分枝しながら横に広がり、特徴ある樹形となる。日当たりの良いところは好まず、薄暗い林下で乾いたような所に生える。高さは50cmほどになる。また短枝の変化した鋭い刺があり、刺は長さ8~20mmあり、葉と同長またはそれ以上に長い。この特徴から仲間のジュズネノキと区別できる。

花冠は漏斗形、白色で長さ1.5cmほどで、先が4つに裂ける。果実は球形で冬に赤く熟す。栽培されることもあり、関西地方ではセンリョウ（千両）、マンリョウ（万両）とともに植え、「千両万両有り通し（蟻通し）」の洒落から正月飾りにする。このため別名を一両（イチリョウ）ともいう。

愛知県では丘陵地~山地に生育し、旧豊田市でも記録がある。本州（関東地方以西）、四国、九州、沖縄に分布し常緑小低木である。



写真 V-189 アリドオシ

### マツバラシ（マツバラシ科マツバラシ属）（松葉蘭）

大きな岩の割れ目に生えていて、ほかの植物が生えないような厳しい環境に生きているように見える。葉と見えるものは茎で根のように見えるのは地下茎で、褐色の毛状の仮根が密生する葉も根もないシダ植物である。

緑色をしているから光合成をしているかと思えばそうではないらしく、菌類と共生して栄養素をもらって成長し、一種の腐生植物として生活する。

巴川中流域の巨岩のすき間に見られ、昔は豊田市役所足助支所の前のイチョウの古木でも生育していた。「ラン」と名がつくが見ても分かるようにシダ植物である。

足助地区では2か所で見られる。本州中部から四国、九州、沖縄、小笠原以南に分布する。多年草で高さ10~40cmになる。

環境省：準絶滅危惧（NT） 愛知県：絶滅危惧種 II 類（VU）



写真 V-190 マツバラシ

### （10）まとめ

足助地区に於いてもスギ・ヒノキの植林後、手入れをされていない山々そして休耕田・放棄水田や畑があちらこちらでよく見られるようになってきた。コナラやアベマキが炭や薪に使われなくなって久しく、ナラ枯れが見られるようになってきた。このように田畑や山に手入れをしなくなり、特定外来生物に代表されているように外来種が山の奥まで入ってきている。このような事を見ると自然環境は大きく変わろうとしている。

今、そしてこれから私たちが考えられる事をしていかないと、絶滅が心配されている植物が見られなくなり、指定されていなくても見られなくなってしまいう植物が増えてくるだろう。

## 6 下山地区の植物

### (1) 下山地区の概要

下山地区は、東北端の足助地区、北設楽郡設楽町との標高 1,100m ほどの三角境が最高峰で、阿蔵峠 (1,028m)、NTT 下山無線中継所跡 (945.8m) が続き、足助地区境の平瀬町巴川河原が最低標高の 287m である。名をなす山は、松平地区境の炮烙山 (683.5m)、六所山 (616m で頂上は松平地区) の 2 か所のみで、これらの山地は愛知高原国定公園に指定されている場所である。山地はスギ・ヒノキの植林地が多くを占めているが、間伐の遅れで林内は暗く、地面が剥き出しになっている場所もある。

周囲の山岳地帯を除いては、300~700m の高原状、丘陵状をなすゆるやかな山地が展開する隆起準平原の三河高原に位置している。そのため足助地区、松平地区、岡崎市から入るには高低差の大きい坂道を登らなければならない。

東北部から流れた川は西に流れるが、主要な河川は、巴川で南設楽郡作手村から流入し羽布ダムでできた三河湖でいったん貯められ、中央部の三河高原を削り深い谷をつくり、西部の炮烙山に阻まれ愛知高原国定公園の指定域「下山溪」をつくり北流し足助地区に流れる。また郡界川は地区の南部を西流し、同じく六所山に阻まれ南西部へと流れ岡崎市へ入る。梨野川は北部の谷をつくり足助地区の大見川へと合流する。

西部には盆地状の標高 400m の場所にロイヤルゴルフ場、北部の 600m の場所には加茂ゴルフ場や愛知県畜産総合センター大林牧場が占めている。東南部の 600m 台の山地には県営農地開発事業下山地区が設定されているが、茶畑にしか利用されていない。岡崎市との境にはトヨタ自動車のテストコースを造成中である。



写真 V-191 大林牧場

黒坂町の 301 号線沿いや黒坂川沿い、梨野町の谷間、栃立町の巴川沿いには分譲別荘地がある。下山地区の面積は 114.18km<sup>2</sup> である。

三河湖周辺や東部の北設楽郡、北部の足助地区境は愛知国定公園に指定されている。

下山地区は暖帯中部から上部に含まれ、標高 1,028m の阿蔵峠付近がわずかに温帯下部的な要素を持つものと考えられる。

巴川水系の大部分は高木層にシラカシ、アカガシ、アラカシ等の常緑カシ類を主として、低木層にサカキ、シキミ、ヤブツバキ、ヒイラギ、アセビ等の常緑低木によって特徴づけられる。ヤブツバキ-シラカシ群落に属する植生域である。しかしヒノキ、スギの植林が大部分を占めている。一部にはアカマツ、コナラが混じっているが、薪炭材として利用されてきたために極相に達することなく二次林にとどまっている。

### (2) 三河高原の植物

三河高原の特徴の一つとして、地下水位が高く、凹地に湿性草原ができやすいことがあげられる。

朝霧池周辺の湿地は現在下山地区に残っている代表的なもので、池で釣りをする人たちのためにミヤコイバラ、イヌツゲ等の低木が刈り取られているので結果的に理想的な湿地として保存されている。ここにはヤマツツジの 2m



写真 V-192 朝霧池-1

以上の立派な株が数多くみられ、下山地区としてはきわだつた存在である。

この湿地には木本としてはハンノキ、ノリウツギ、レンゲツツジ、ウメモドキ等の侵入が見られる。草本としては、池にはジュンサイのほか園芸種のスイレンが植栽されているものの、カキツバタ、ノハナショウブ以外にクサレダマ、カキラン、ヌマトラノオ、サワシロギク、ミズギボウシ、オオバギボウシ、オオミズゴケ、モウセンゴケ、ホザキノミミカキグサ、ミズギク、ウメバチソウ、サギソウ、ミズトンボ、ミズオトギリ、エゾシロネ等が見られる。この池の南にあるため池にはノタヌキモ、フトヒルムシロ等が見られる。



写真 V-193 朝霧池-2  
朝霧池はルアー・フライ専用の釣り場になっている。池の周りは湿地になっていて、数多くの湿地特有の植物が見られる。

クサレダマ（サクラソウ科オカトラノオ属）（草連玉）

名から「腐れ玉」を連想するのだが、実は「草連玉」である。地中海原産のレダマ（マメ科レダマ属 落葉低木）に似て草本であることに由来している。しかし似ているとはいえない。別名は葉の色からイオウソウ（硫黄草）といわれる。

葉は2～4枚が輪生するが、見たところ3、4枚であることが多いようだ。

花冠の先端は5つに分かれ、萼の縁は赤褐色をしている。裏面の葉肉内に黒色の腺点があり葉は点々と黒色を帯びる。草丈は大きくなると1m以上もある株となり、なかなか見応えがある。またノハナショウブとともに生えていることがあり、そのコントラストも美しい。

北海道、本州、九州に分布し、山中の湿地に生育する。下山地区では朝霧池周辺で見られる。足助地区では田之士里湿原では見られず、近くの湿地のようになったところに生えている。



写真 V-194 クサレダマ-1



写真 V-195 クサレダマ-2

サワシロギク（キク科シオン属）（沢白菊）

貧栄養な湿地やため池畔等に見られる多年草で、点々と生育する。湿地とともに生きているので、湿地が埋め立てられてなくなると絶えてしまう。

晩夏から秋の湿地を彩る花で、長くのびた花茎上に直径2～3cmほどの頭花を一つつける。花の周辺は舌状花で中心部は筒状花になっていて、咲き始めの舌状花は白色であるが開花も終わり近くなってくると次第に紅色を帯びて



写真 V-196 サワシロギク

くる。

日本固有種で本州～九州に分布する。

湿地のような場所には食虫植物のモウセンゴケ、ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ムラサキミミカキグサが見られる。

食虫植物は小さな虫をとらえて食べていると思われがちだが、植物として光合成を行っている。しかし栄養分の少ない湿地等に生育するため、昆虫等を捕らえて消化吸収し、生育に必要な栄養分（リンや窒素）を取り入れるという生活をしている。昆虫の捕え方として葉の表面の腺毛から粘液を出して捕らえる「粘着式」（モウセンゴケ）、水とともに袋に吸い込んで捕らえる「吸い込み式」（ミミカキグサ、ホザキノミミカキグサ、ムラサキミミカキグサ）がある。これらの捕虫機能はいずれも葉が変化して現在の姿になったといわれている。

#### ミミカキグサ（タヌキモ科タヌキモ属）（耳搔き草）

数本の茎を泥の表面近くにのぼし、地表にはりついた小さなへら型の葉を幾つもつける。のぼした匍匐茎から泥の中に地下茎をのぼし、それには補虫囊が数個ついていて、ミジンコ等のプランクトンを水とともに吸い込んでとらえ、消化吸収をする。この補虫囊はとても小さく、肉眼でその姿を見ることはできても動きを確認することは難しい。

食虫植物の中では割と生活範囲が広く湿原だけでなく、池の岸・湿った岩上等でも見られる。日当たりが良くて周りに背の高い草がないという条件も生育に関わり、湿地では水がよどんでいる縁に見られる。

本州～沖縄に分布する多年草。



写真 V-197 ミミカキグサ



写真 V-198  
ミミカキグサの葉と補虫囊

#### ホザキノミミカキグサ（タヌキモ科タヌキモ属）（穂咲きの耳搔草）

1つの花茎に幾つかの花を次々と咲かせ、長いものでは花茎は30cm近くになる。その花茎に数個の鱗片葉を楕状につける。ミミカキグサやムラサキミミカキグサは周りに草のない水の近くに生育しているが、本種は多少背の低い草の中でも見られる。泥の表面近くにのぼした茎から地表面に2～3mmの小さなへら型の葉を出す。

花冠は4mm前後で、距は下唇の2倍あって前方へ突き出



写真 V-199 ホザキノミミカキグサ

る特徴のある姿をしている。果実は丸く，耳かき状にはならない。日本全国に分布する多年草。

ムラサキミミカキグサ（タヌキモ科タヌキモ属）（紫耳搔草）

高さ 10cm 程度までの花茎を形成し，上部に直径 3～4mm の紫色をした花を数個つける。その花茎には数個の鱗片葉がある。

花茎の花は淡青色～淡紫色をしていて濃色の条線がある。上唇と下唇が上に向き，距は下方へ突き出る。果実は萼が大きくなり，耳搔きのような形になる。

地下の根茎は糸状にのびて分枝し 2 形の葉をつける。水深により沈水葉と気水葉をつけ気水葉はへら形～倒披針形，深い水深の沈水葉は線形で大きい。根茎にはまばらに捕虫囊をつける。ミミカキグサと比べると根茎の数も捕虫囊の数も少ない。萼は花よりも濃い色をしている。

北海道から九州に分布する多年草。

環境省，愛知県ともに準絶滅危惧（NT）



写真 V-200 ムラサキミミカキグサ



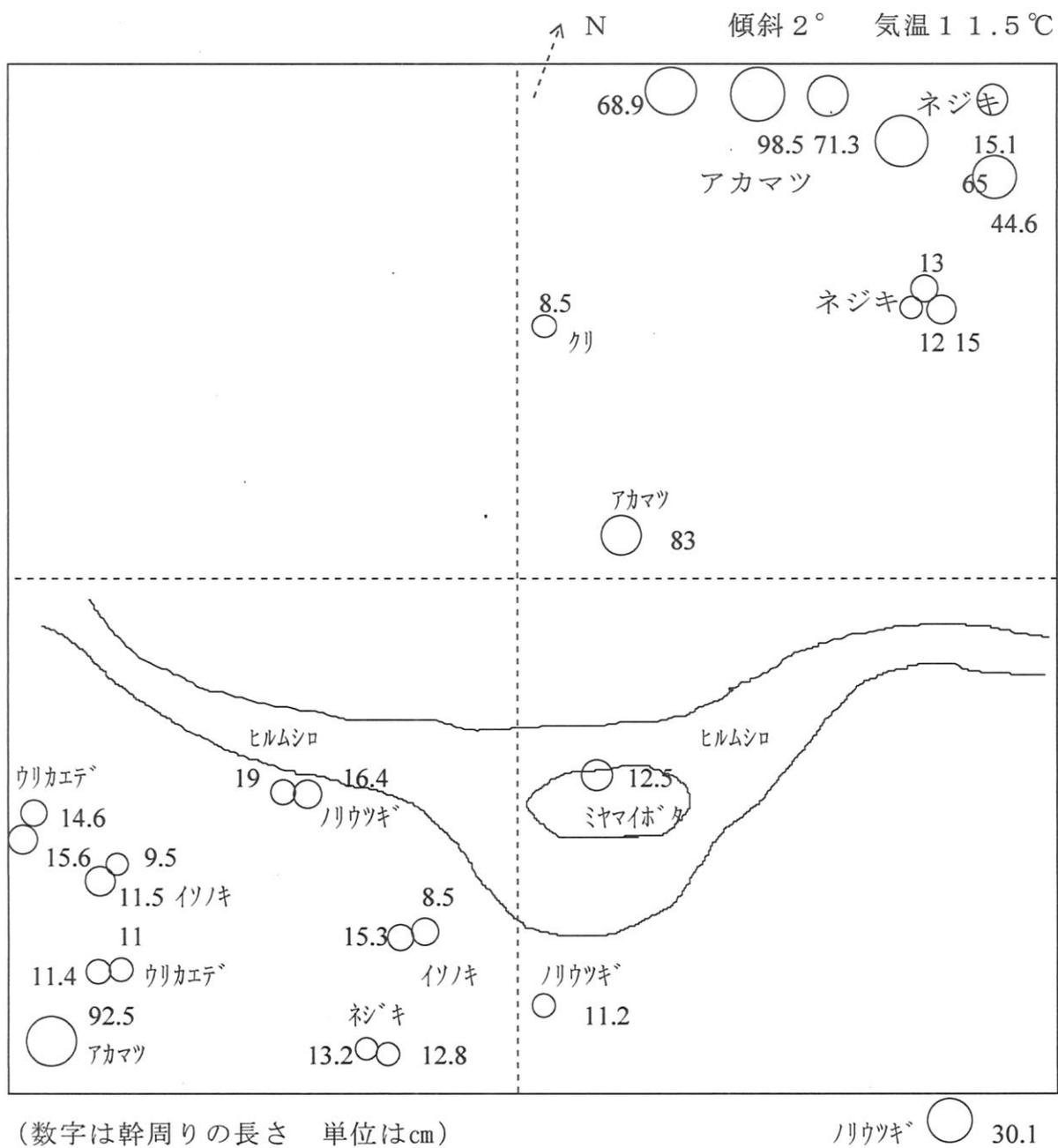
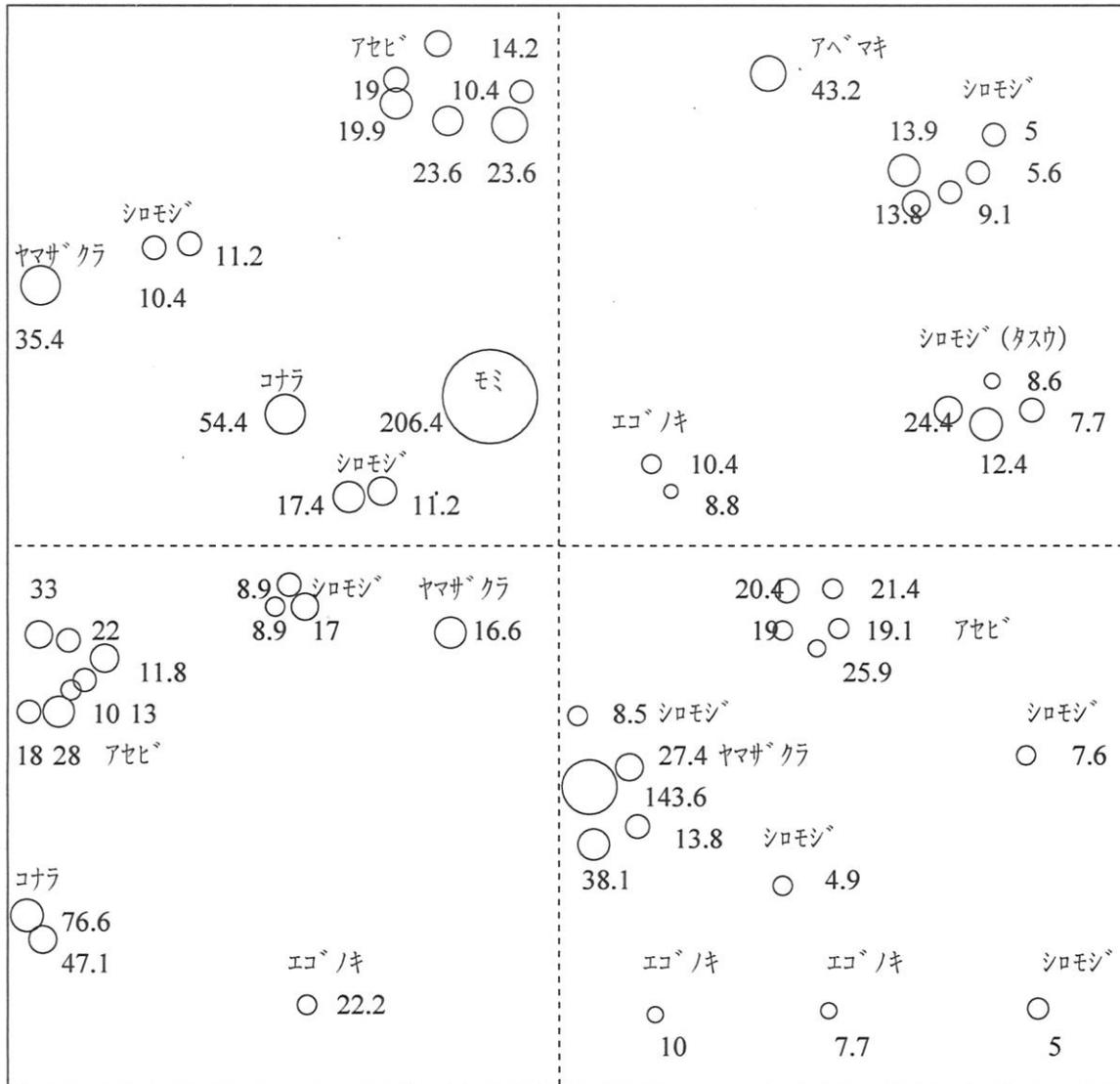


図 V-28 三河高原 市道の横を流れる沢の湿地にある樹木の幹周り  
 調査場所内の植物・オオミズゴケ, バイカツツジ, イヌツゲ, ソヨゴ, ツルリンドウ,  
 スイカズラ, ウメモドキ, クズ, カサスゲ, アギスミレ, アケボノソウ, テリハノイバ  
 ラ, アオツツラフジ, モチツツジ, スズカアザミ

N ←----- 斜度 26° 気温 12℃



(数字は幹周りの長さ 単位はcm)

図 V-29 三河高原 湿地からあがった尾根にある樹木の幹周り  
 調査場所内のほかの植物・・・ニガイチゴ, イヌツゲ, ソヨゴ, ヤマツツジ, シラカシ  
 調査場所外の植物・・・コシアブラ, ホオノキ, クロマツ, リョウブ, ツガ (幹周り 123cm),  
 タムシバ (18.9cm), タカノツメ, アセビ (幹周り 43.2cm), モミ (幹周り 158.8cm)  
 尾根の南側にはモミが多くあり, 北側にはツガが幾つかあった.

モウセンゴケ（モウセンゴケ科モウセンゴケ属）（毛氈苔）

湿地のような所に生えるのだが、背が低いためほかの植物におおいかぶされると枯れてしまうのではほかの植物が生えないような場所に生育している。

崩壊地斜面の湿った場所や岩上にしみ出た水がありそこにわずかに堆積した場所に生える等、結構厳しい場所に生育している姿を見ることがある。

茎はあるかないかぐらいごく短く、地面から葉を放射状に出す。葉にははっきりした柄があり、葉身はほぼ円形で、一面に長い毛があり、その先端葉から甘い香りのする粘液を出す。香りに誘われる等してやってきた虫がくっつくと、粘毛と葉がそれを包むように曲がり、虫を消化吸収する。根も葉もあり、光合成をしているので虫を捕まえなくても生育が可能である。ただ根はほとんど発達しない。

花は白い花弁が5個。茎の中心から花柄をのぼし、花柄は先端が渦巻のように丸まり、その巻きの外側に花をつけ、咲かせる花がちょうど上を向くようにのびてくる。雄しべは5個、雌しべは3個で基部から2深裂するため、6個あるように見える。日が当たると花を開く。

葉柄と葉は緑色をしていて、葉の裏側には粘毛はない。そのため虫を捕まえた葉は内側に挟むような形になるので緑色が目立つ。

コケという名前がついているが、花も咲き種子もでき、コケとは全くの別種である。北海道から九州まで分布する。



写真 V-201  
モウセンゴケ-1



写真 V-202 モウセンゴケ-2  
一つずつ咲かせる



写真 V-203 モウセンゴケ-3  
虫を捕まえた葉

ノカンゾウ（ワスレグサ科ワスレグサ属）（野萱草）

ヤブカンゾウはよく見かけるのだが、このノカンゾウを見かけることがなく、探しているとき三河高原牧場（愛知県畜産総合センター大林牧野）の牧草地で見つけた。

花は1日だけ咲いて夜にはしぼんでしまい、花の寿命は短い。ヤブカンゾウとノカンゾウの葉はとてもよく似ていて、花が咲くまで区別することはできない。

科名や属名のワスレグサは、花の姿を見ていると憂いを忘れるからという意味でつけられた。万葉集や古今集に「わすれぐさ」として登場している。

日当たりのよい草地や田畑の土手等に生える多年草。冬には地上部は枯れる。本州～沖縄に分布する在来種。ニッコウキスゲもこの仲間。



写真 V-204 ノカンゾウ-1



写真 V-205 ノカンゾウ-2

### (3) 平瀬・栃立とその周辺の植物

平瀬のやな付近から水田の用水路の取り入れ口までに見られる植物はアオツツラフジ, アレチウリ, アワブキ, アマチャヅル, アマナ, アカネ, アオキ, アゼムシロ, アカガシ, アキノタムラソウ, アケビ, アセビ, アブラススキ, アブラチャン, アキカラマツ, アキノウナギツカミ, アメリカセンダングサ, アメリカイヌホオズキ, アカソ, イヌビエ, イヌショウマ, イヌトウバナ, イタドリ, イヌガラシ, イヌタデ, イボタノキ, イヌガヤ, イヌツゲ, イノコズチ, ウワバミソウ, ウマノミツバ, ウルシ, ウツギ, ウバユリ, エゴノキ, エノキ, エノキグサ, オッタチカタバミ, オオバコ, オオバギボウシ, オオハンゴンソウ, オカメザサ, オニグルミ, カキドオシ, カタバミ, カナムグラ, カラマツソウ, カンスゲ, キクザキイチゲ, キツタ, キバナハナネコノメ, ギンミズヒキ, キツリフネ, キブシ, キツネノマゴ, キツネノボタン, キンエノコロ, クマノミズキ, クサアジサイ, クサイチゴ, クズ, クマヤナギ, クラマゴケ, クロマツ, クロモジ, ケイヌビエ, ケチヂミザサ, ケヤキ, ゲンノショウコ, コゴメウツギ, コナギ, コブナグサ, コマツナギ, コマユミ, コウヤワラビ, コガネネコノメ, サネカズラ, シキミ, シシウド, ジャノヒゲ, シラカシ, シロダモ, ジロボウエンゴサク, ジュウモンジシダ, ショウジョウバカマ, スズメノヒエ, スギナ, セキショウ, セイタカアワダチソウ, スイバ, ススキ, セントウソウ, ダイコンソウ, タマアジサイ, タカサブロウ, タガネソウ, タケニグサ, チャ, チャルメルソウ, チカラシバ, タニギキョウ, ツユクサ, ツルニガクサ, ツルボ, ツルヨシ, ツリガネニンジン, ツリフネソウ, ツルウメモドキ, ドクダミ, トコロ, ナンテンハギ, ニガイチゴ, ニリンソウ (群落), ヌルデ, ヌカキビ, ヌスビトハギ, ネザサ, ネムノキ, ノイバラ, ノキシノブ, ノササゲ, ノハラアザミ, ノブドウ, ハエドクソウ, ハチク, ハシカグサ, ハコベ, ヒガンバナ, ヒサカキ, ヒメキンミズヒキ, ヒメジソ, ヒメカンアオイ, ヒロハコンロンソウ, ヒメカンスゲ, フキ, フジ, ヘクソカズラ, ヘビイチゴ, ホウチャクソウ, ボタンヅル, ポントクタデ, マタタビ, ママコノシリヌグイ, マメヅタ, マンリョウ, ミズタマソウ, ミズヒキ, ミゾソバ, ミツバ, ミツバウツギ, ミミナグサ, ミョウガ, ミヤマノキシノブ, ミヤマヨメナ, ムラサキシキブ, メダケ, メヒシバ, メナモミ, モウソウチク, モミジガサ, ヤブカンゾウ, ヤブコウジ, ヤブツバキ, ヤブマオ, ヤブマメ, ヤブラン, ヤマツツジ, ヤマグワ, ヤマジノホトトギス, ヤマネコノメソウ, ヤマノイモ, ヤマブキ, ヤマフジ (幹周り 29cm), ヤマルリソウ, ユウガギク, ユキノシタ, ヨツバムグラ, ヨメナ, ワラビ, ワサビ, レンプクソウ等である。

これらの中でアレチウリ, オオハンゴンソウは特定外来生物に指定されている。アレチウリとセイタカアワダチソウは日本生態学会によって日本の侵略的外来種ワースト 100 に選定されているので, これまで以上にこれらが繁殖しないようにする必要がある。

ヤマドリソウ（ムラサキ科ルリソウ属）（山瑠璃草）

3月の下旬から咲き始めるが、ロゼット状になった根性葉にひつつくように花をつけ、暖かくなるにつれて花茎をのぼし幾つもの花をつけるようになる。花は咲き始めは薄桃色だが薄青色へ変化し、花が終わる頃は白っぽくなる。

花冠は5つに深く裂けて開く。雄しべは5個、雌しべは1個あるが、花筒内にあって見えない。

福島県以西の本州、四国、九州に分布する日本の固有種。山間の林縁、半日陰～日陰の道端等に生える多年草。



写真 V-206 ヤマドリソウ-1



写真 V-207 ヤマドリソウ-2

オオハンゴンソウ（キク科キヌガサギク属）（大反魂草）

北米原産の外来種で明治中期に観賞用として導入され、1955年に野外で確認された。道端、荒地、河原、湿原等様々な環境の場所に生育している。在来植物の生態系に影響を及ぼす恐れがあるため、外来生物法により特定外来生物に指定されており、許可なく栽培・保管・運搬・輸入・譲渡を行うことは禁止されている。種子とともに地下茎で繁殖するので簡単には絶やすことは難しく、全国各地で除去作業が行われている。

葉は互生し下部では長柄があって羽状に5～7裂し、上部では無柄で3～5裂もしくは単葉となっている。舌状花は黄色で細長く、やや垂れ下がっていて10～14個あり、筒状花は緑黄色をしている。

高さは1～2mで大きな群落を作ることがある。北海道～沖縄に分布する多年草である。



写真 V-208  
オオハンゴンソウ-1  
特定外来生物



写真 V-209  
オオハンゴンソウ-2



写真 V-210 オオハンゴンソウ-3

この周辺の巴川流域ではアマナ、チャルメルソウ、セントウソウ、ハシカグサ、ミズタマソウ、ミツバウツギ、ユウガギク、ツリフネソウ、モミジガサ、コマユミ、イヌショウマ、ウマノミツバ、ツルニガクサ、アキノウナギツカミ、アカガシ、ヒメジソが見られる。平瀬から県道作手菅

沼平瀬線に沿って立岩町，東大林町まで見られる植物はアマナ，アオキ，アキカラマツ，アケビ，アブラチャン，イタドリ，イボタノキ，イヌガヤ，イヌツゲ，イノデ，ウバユリ，ウツギ，ウラジロ，エゾノギシギシ，エビネ，オオイヌノフグリ，オオバギボウシ，オオジシバリ，オオバタネツケバナ，オニグルミ，オヘビイチゴ，オモト，オランダミミナグサ，カキドオシ，カビゴケ，カヤ（幹周り 265cm），キツタ，キブシ，キヨスミイトゴケ，キランソウ，クサイチゴ，クマワラビ，ケヤキ，ゲンノショウコ，コウゾリナ，コハコベ，コナラ，コマユミ，コモチマンネングサ，シシガシラ，シラカシ，シロツメクサ，ジロボウエンゴサク，シロモジ，ジャゴケ，ジャノヒゲ，ジュウモンジシダ，スイカズラ，スイバ，スズタケ，セイタカアワダチソウ，セキショウ，スギナ，センニンソウ，ソメイヨシノ，ソヨゴ，タチツボスミレ，タニギキョウ，タネツケバナ，タマゴケ，ダンコウバイ，チャ，ツルボ，ツルマサキ，テリハヤブソテツ，トウカイタンポポ，トラノオシダ，ナツズイセン，ナワシロイチゴ，ナンテン，ニオイタチツボスミレ，ヌカボシソウ，ネムノキ，ノイバラ，ノキシノブ，ハコベ，ハナイカダ，ハルガヤ，ヒカゲノカズラ，ヒガンバナ，ヒサカキ，ヒメカンアオイ，ヒメカンズゲ，ヒメオドリコソウ，ヒロハコンロンソウ，フキ，フユノハナワラビ，ヘビイチゴ，ホソバトウゲシバ，マダケ，マンリョウ，ミツバ，ミミナグサ，ミヤマノキシノブ，ミヤマフユイチゴ，ミヤマヨメナ，メダケ，モミジイチゴ，ヤブコウジ，ヤブソテツ，ヤブツバキ，ヤマザクラ，ヤマコウバシ，ヤマブキ，ヤマルリソウ，ヨモギ，ワラビ等がある。

#### ナツズイセン（ヒガンバナ科ヒガンバナ属）（夏水仙）

早春に球根から帯状の葉を出し，夏前に葉はすべて枯れる．その後，真夏になると花茎を球根から長くのばしてその先端に数輪のピンク色の花をつける．暑い日に見ると，ちょっと涼しげである．結実はしない．有毒植物．

人里近い場所に多いことから，古い時代に中国から渡ってきたと思われる．

日当たりの良い草地に生える多年草で，本州～九州に分布する．



写真 V-211 ナツズイセン  
外来種

#### ヒロハコンロンソウ（アブラナ科タネツケバナ属）（広葉崑崙草）

山地の湿地，溪流沿い等あまり日当たりがよいとは思えないような所に生えている．地下茎があり，群生していることが多い．花は総状花序に十数個つき，白色の4弁花で雄しべ6個．雌しべ1個．葉には長い柄があり羽状複葉で，小葉は同形で5～7個あり粗い鋸歯がある．茎を抱くようにつく．草丈は30～60cmほどになる．

日本固有種で本州の中部地方以北に分布する．



写真 V-212 ヒロハコンロンソウ

山の中腹の旧田平沢小学校付近（田平沢町）まで行くと川に近い場所とは少し違った植物が見られる．アオキ，アオミズ，アカガシ，アカシデ，アカソ，アカネ，アカマツ，アキカラマツ，アキ

ノタムラソウ、アケビ、アズマネザサ、アセビ、アマチャヅル、イタドリ、イヌタデ、イヌツゲ、イノコズチ、イノモトソウ、イロハカエデ、イワガネソウ、ウツギ、オオアレチノギク、オカメザサ、オクマワラビ、オニタビラコ、オニドコロ、カキドオシ、カヤ、カラタチバナ、キジノオシダ、キヅタ、クサイチゴ、クサノオウ、クズ、クマノミズキ、クリ、クロモジ、ゲンノショウコ、コセンダングサ、コナスビ、コナラ、コハコベ、サネカズラ、サルトリイバラ、サンショウ、シキミ、シャガ、ジャノヒゲ、シュロ、シラカシ、シロダモ、シロツメクサ、スイカズラ、スイバ、スギナ、ススキ、スズメウリ、セイタカアワダチソウ、ゼンマイ、タカノツメ、チヂミザサ、チャノキ、ツユクサ、ツルニチニチソウ、テイカカズラ、トウゲシバ、ドクダミ、ナキリスゲ、ナンテン、ナンテンハギ、ネムノキ、ノキシノブ、ノコンギク、ノササゲ、ノブキ、ハコベ、ヒガンバナ、ヒサカキ、ヒメオドリコソウ、フキ、フモトシダ、フユイチゴ、ベニシダ、ベニバナボロギク、ヘビイチゴ、ホタルブクロ、ボタンヅル、マダケ、マタタビ、マンリョウ、ミズヒキ、ミゾソバ、ミツバ、ミツバアケビ、ミヤマノキシノブ、ムラサキシキブ、メリケンカルカヤ、モミ、モミジイチゴ、ヘクソカズラ、ヤブコウジ、ヤブツバキ、ヤブミョウガ、ヤブムラサキ、ヤマアジサイ、ヤマザクラ、ヤマツツジ、ユキノシタ、ヨモギ、リョウメンシダ等が見られる。田平沢町の五十子神社近くにはイロハモミジの大木がある。

#### カラタチバナ（サクラソウ科ヤブコウジ属）（唐橘）

正月に赤い実をつけるセンリョウは飾り付けとして使われるが、「千両、万両、有り通し」として金運に恵まれるようにと縁起物としてこの木も飾りつけられることがある。

千両は、センリョウ科のセンリョウ、万両はヤブコウジ科のマンリョウ、有り通しはアカネ科アリドオシ、百両はこのカラタチバナ、十両はサクラソウ科ヤブコウジをさしている。アリドオシには一両の別名がある。なお、木の大きさを考えてツルアリドオシを一両とする考えもある。

#### （4）三河湖周辺の植物

三河湖の東端のトオリ沢は植物が豊富で、川岸にはダイモンジソウ、ヤマグルマ、チチブドウダンが見られクルマバハクマ、ヤシャゼンマイ、マンサク、ズミがみられ、近くにはイヌゴマ、シバヤナギ、イヌコリヤナギ、シャクジョウソウ、カヤラン等が見られる。

三河湖の南側の山は植林が進んでいる。そこを通過している林道羽布下り沢線には市指定天然記念物の「羽布のブナ」がある。

その辺りの樹木はタムシバ、ハクウンボク、シラキ、ツクバネウツギ、アワブキ、オオカメノキ、バイカツツジ、オオバヤシャブシ、ミヤマシキミ、タカノツメ、ウラジロノキ、コハウチワカエデ、コバノガマズミ、クマイチゴ等が見られる。

その林道沿いにはイナカギク、ヒサカキ、クマイチゴ、イタドリ、ヨウシュヤマゴボウ、ススキ、カモガヤ、チヂミザサ、ヌルデ、サワフタギ、コナラ、イロハカエデ、サンカクヅル、セイヨウタンポポ、ヤマノイモ、ヤマハギ、エゴノキ、マルバハギ、イタチハギ、チガヤ、イワガラミ、アギスミレ、コシアブラ、アカシデ、ホオノキ、アカソ、サルトリイバラ、コハウチワカエデ、コウゾリナ、キツネノボタン、ジシバリ、ヒメヨツバムグラ、ノイバラ、オオカメノキ、オ



写真 V-213  
林道から眺めた新緑の三河湖

ニスゲ、ヒヨドリバナ、ヤマネコヤナギ、サルナシ、ハハコグサ、ハクウンボク、シロモジ、ヤマウルシ、ヌルデ、バイカツツジ、ヒサカキ、コツクバネウツギ、ネジキ、リョウブ、スノキ、ヤクシソウ、ヤマホタルブクロ、ニガイチゴ、サルナシ、オカトラノオ、コアジサイ、アワブキ、コシアブラ、タムシバ、ムラサキシキブ、ススキ、タケニグサ、クリ、オオカメノキ、モチツツジ、アセビ、タラノキ、メリケンカルカヤ、ミヤコザサ、オオバヤシャブシ、ニガイチゴ、モミジイチゴ、コウヤボウキ、フジ、ミヤマシキミ、ヤマツツジ、アカシデ、イヌツゲ、エゴノキ、アカマツ、ヤブウツギ、フジウツギ、セイタカアワダチソウ、センブリ、シシガシラ、ネムノキ、モチツツジ、イチヤクソウ、キレハノブドウ、ナベワリ、ヒメウワバミソウ、モミジガサ、ヤマトウバナ、オカトラノオ、ミヤコザサ等が見られる。

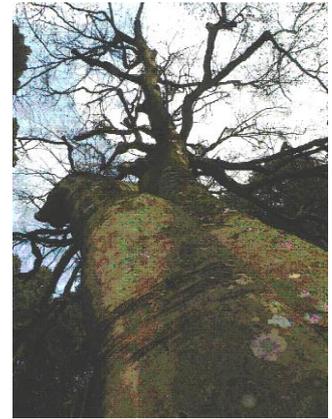


写真 V-214 羽布のブナ

三河湖に流れ込む沢が幾つもありその一つにはアカマツ、クロマツ、ネザサ、タネツケバナ、ゲンノショウコ、モミジイチゴ、キンミズヒキ、ヒサカキ、アセビ、ダイコンソウ、イボタノキ、フキ、クロモジ、ウツギ、シュウブソウ、イヌツゲ、ヤマツツジ、コアジサイ、クリ、サルトリイバラ、アケボノソウ、ウスノキ、ヒメカンアオイ、コウヤボウキ、ホオノキ、タニギキョウ、モチツツジ、シュンラン、シロモジ、アセビ、カヤラン、カンスゲ、ジュウモンジシダ、シシガシラ、リョウメンシダ、ミツデウラボシ、ヒカゲノカズラ、ホソバトウゲシバ、オオバノイノモトソウ、ノキシノブ、キヨスミイトゴケ、オオミズゴケ、コスギゴケ等が見られる。

#### タニギキョウ (キキョウ科タニギキョウ属) (谷桔梗)

キキョウの仲間なのだが、葉も花も似ていない。花は小さいが、密生して多数が咲いているのでそれなりに見応えはある。高さは 5~10cm ほど。上部の葉腋から花柄を立て、白色の鐘形の花をつける。その花は白色で先は 5 深裂し雄しべは 5 個、雌しべの柱頭は 3 つに裂ける。

山林の木陰に生える。どちらかというと乾いたところより湿り気のあるところが好きなようだ。北海道~九州に分布する多年草。



写真 V-215 タニギキョウ-1

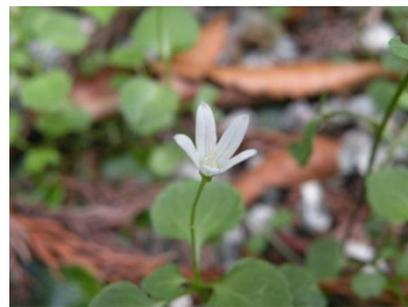


写真 V-216 タニギキョウ-2

#### アケボノソウ (リンドウ科センブリ属) (曙草)

花冠は白色で 5 深裂し先端の方には黒い点がちりばめられその手前には黄緑色をして花を特徴付けるような 2 つの蜜腺がある。花の真ん中にはとっくりのような花柱があり、5 本の雄しべが取り囲む。萼片は 5 個で先は尖る。

2 年草であり、発芽後 1 年目はロゼットのまま過ごす。2 年目には地上茎を出して花を咲かせる。

茎は四角形で高さ 50~100cm ほどになる。

北海道~九州に分布し、湿原や山地の小川のほとり等の湿った場所に生育する。



写真 V-217 アケボノソウ-1



写真 V-218 アケボノソウ-2

シャクジョウソウ（ツツジ科シャクジョウソウ属）（錫杖草）

ギンリョウソウと同じ仲間、自分自身で栄養分を作り出せず菌根が分解する枯れ葉の栄養分の残りを吸収して生活している腐生植物（菌根植物）。葉緑素を持たないため淡黄褐色をしている。茎には鱗片状になった葉を多数つける。

北海道、本州、四国、九州の山地のやや暗い場所に生育する多年草。

愛知県：準絶滅危惧（NT）



写真 V-219 シャクジョウソウ

ヤマグルマ（ヤマグルマ科ヤマグルマ属）（山車）

常緑性の高木であり、高さは 10m ほどである。葉は葉柄が長く枝先に互生し、車状に輪生する。このことから名が来ている。表面は濃緑色で光沢があり、裏面は淡緑色で両面無毛。

5月に、枝先に総状花序を出し、黄緑色の花を多数つける。この花は、花弁や萼が無い。

山形・福島以南の本州、四国、九州の温帯から暖帯にかけて分布し、下山地区では三河湖に流れ込む沢沿いで見ることができる。

針葉樹は特別な水分を運ぶ組織を持たず仮道管で葉へ運んでいる。一方、広葉樹は水を運ぶためだけの道管を持っている。このことから針葉樹よりも広葉樹の方が進化していることが分かる。しかし、ヤマグルマは道管をもたない日本で唯一の広葉樹である。進化しなかった原始的な樹である。



写真 V-220 ヤマグルマ

三河湖の途中から根池に上がっていく道沿いにはヒメジソ、イヌトウバナ、ヘクソカズラ、ミズビキ、アメリカセンダングサ、アオミズ、ゲンノショウコ、ヤブマメ、オニドコロ、ヌカキビ、ヒヨドリバナ、ヤマノイモ、アキノウナギツカミ、ツユクサ、クズ、カゼクサ、ヌスビトハギ、

ヒメムカシヨモギ, オカトラノオ, ガンクビソウ, スズメノヒエ, ツルリンドウ, ノイバラ, オオカメノキ, ウツボグサ, ヒメジョオン, ニガイチゴ, アブラガヤ, ウマノアシガタ, ノコンギク, アカバナ, ホトトギス, ダイコンソウ, モミジイチゴ, ミズタマソウ, ミドリヒメワラビ, ゼンマイ, ゲジゲジシダ, ツリフネソウ, キンミズヒキ, ノコンギク, ポントクタデ, ヒヨドリバナ, ガンクビソウ, ツルリンドウ, スズメノヒエ, アカバナ, ミズタマソウ, ヤクシソウ, ヌカキビ等が見られ, 樹木ではウリハダカエデ, アセビ, コゴメウツギ, エゴノキ, バイカツツジ, アカシデ, モチツツジ, ヤマネコヤナギ, ノリウツギ, アカマツ, エゴノキ, コアジサイ, ネムノキ, ウリカエデ, ネジキ, ヒサカキ, アカマツ, アセビ, クリ, ウツギ, サルトリイバラ, ミツバアケビ, アレチヌスビトハギ, コナラ, クロマツ, シロモジ, ソヨゴ, ツクバネウツギ, ムラサキシキブ, リョウブ, イヌツゲ, アカシデ, アカソ等が見られる.

根池にはジュンサイが池の面をおおい, サワギキョウやキセルアザミ, フトヒルムシロが見られる. 周りにはオオカメノキ, コシアブラ, アカシデ, クロマツ, ウスノキ, ネジキ, タンナサワフタギ, コアジサイ, ツルリンドウ, ノブキ等が見られる.



写真 V-221 根池  
コイが泳ぐ静かな風景

ミズタマソウ (アカバナ科ミズタマソウ属) (水玉草)

花卉は白色で2個, 先が2裂する. 萼片は緑色で2個. 雄しべも2個. 2数性の植物である. 雌しべは1個で柱頭は2裂する. 果実の表面には一面に鈎状の毛が生える.

北海道~九州の山地のやや湿気った日陰に生える多年草.

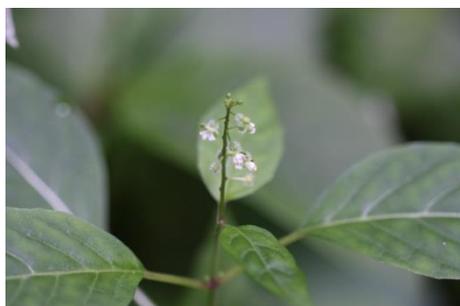


写真 V-222 ミズタマソウ-1



写真 V-223 ミズタマソウ-2

クルマバハグマ (キク科コウヤボウキ属) (車葉白熊)

下山地区では沢沿いの木陰で見られる. 葉には柄はなく, ふちには鋸歯がある. 茎の中ほどに7, 8枚の大きな葉が輪生し, 車輪を思わせる. 白熊とは中国産のヤクの尾の白い毛で搦子 (ほっす) や, 槍・旗等の飾りに用いられ, 花の形がこれに似ていることによる.

円錐花序に十数個の花をつける多年生草本. 本州の近畿以北に分布する.

ハグマと名がつく植物はこのほかにキッコウハグマ, カシワバハグマ, オクモミジハグマがある.



写真 V-224 クルマバハグマ

ジュンサイ（ハゴロモ科ジュンサイ属）（蓴菜）

ジュンサイはスイレンと同じように水面に葉を浮かべる多年生の水生植物である。若芽や若い葉の裏は寒天質の粘液で覆われ、これがツルリとした食感となって食材として栽培している地域もある。

北海道，本州，四国，九州の池や沼に分布していて，普通種ではあるがすでに絶滅した地域や絶滅の心配がされている地域のある種である。環境省・愛知県ともレッドデータには載っていない。

ザイフリボク（バラ科ザイフリボク属）（采振木）

別名をシデザクラという。「シデ」というのは玉串や注連縄等に下げる紙で，白い紙をジグザグして作る。シデシャジンとかシデコブシ等と「シデ」のついた植物がある。

葉の裏と花穂は白い毛がいっぱい生えているので白く見える。木全体を見ると白い点々がいっぱいあるように見える。花が咲くと木全体が白っぽく見える。

果実はほぼ球形で，秋に黒紫色に熟す。果実は結構おいしい。

岩手県以西の本州，四国，九州に生育する落葉小高木。

イヌゴマ（シソ科イヌゴマ属）（犬胡麻）

下山地区で原石山園地で見られる。まばらに群生していて，花の姿からシソ科ということが分かる。茎の断面は四角形で，下向きの棘が生える。

地下茎が正月料理に使うチョロギに似ているところから，チョロギダマシの別名がある。

北海道～九州まで分布する多年草。



写真 V-225 ザイフリボク



写真 V-226 イヌゴマ

ベニドウダン（ツツジ科ドウダンツツジ属）（紅満天星）

近畿地方以西に分布するベニドウダンと近畿地方以東に分布するチチブドウダンと区別する見解もあるが連続的に変化しているようで，今ではベニドウダンとして扱われることが普通ようだ。

樹高は1～3m程度の落葉小低木。花は深紅色で，花冠は釣鐘形でやや小さく5裂片は更に細裂する。秋の紅葉も美しい。ドウダンツツジの花期には木全体が真っ白になること



写真 V-227 ベニドウダン

ことから「満天星」の文字が充てられた。また，「紅灯台」と書くこともあるが，これは枝分かれ

する形が灯明台（神仏に供える火をのせるための台）に似ていることから充てられたものである。  
 下山地区では三河湖の奥にあるトオリ沢で見ることができる。  
 日本固有種で山地の岩尾根、林縁に生育し、本州（関東～近畿地方）、四国、九州に分布する。

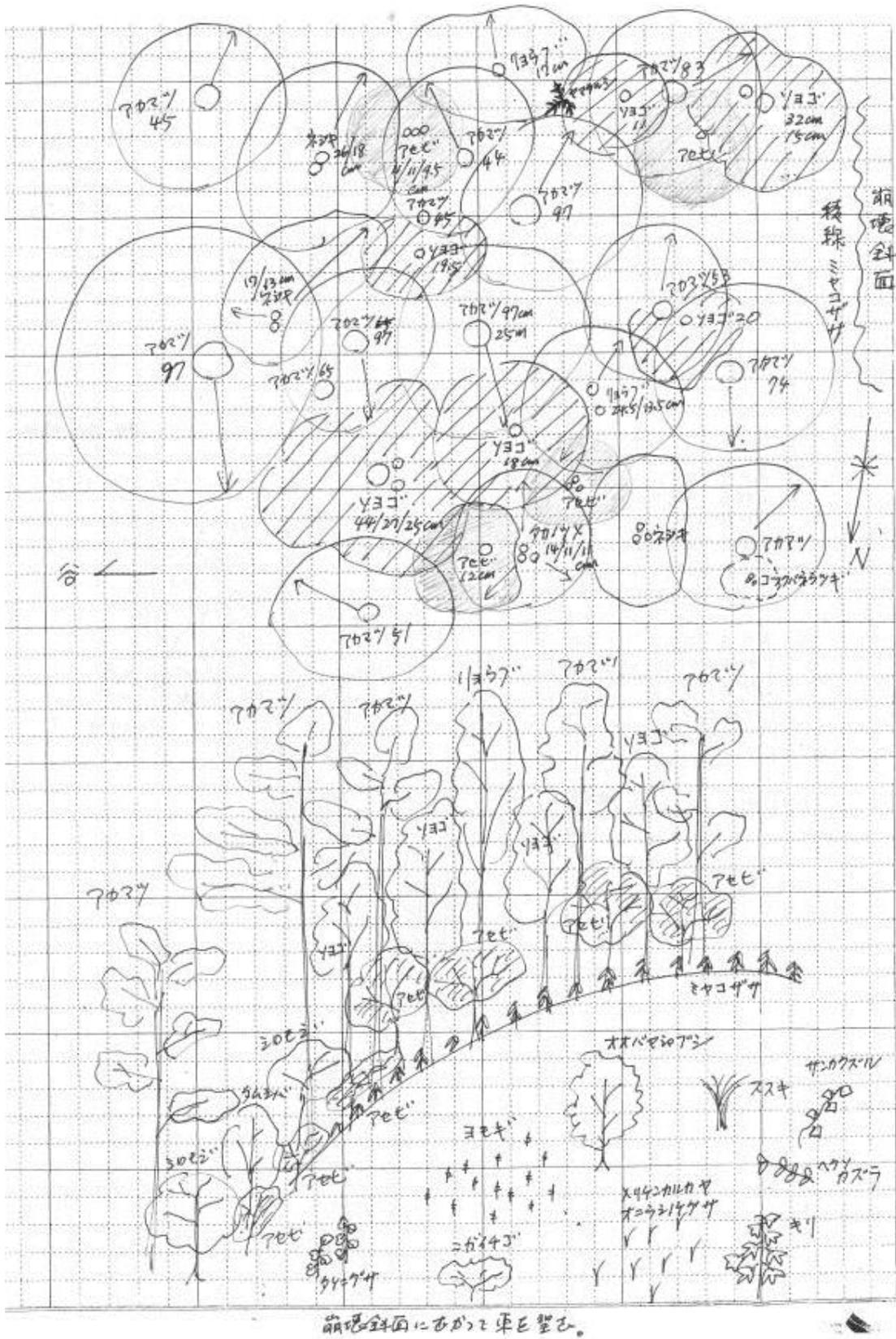


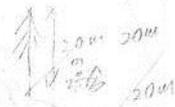
図 V-30 羽布町の山林のコドラー-1  
 アカマツを中心とした雑木林で下層の植物が少ない。

植 生 調 査 表

X77シユ43-12

No. Fh3 三河湖沼林調査隊 羽布町下河原  
 調査地 愛知県豊田郡下山区 羽布  
 (地名) 山頂・尾根: 山頂: ① 中・下・凸・凹: 谷: ② (風向) 強: ① 弱: ②  
 (土壌) 赤・性・褐・赤・(黄) 黄褐・ア・ド・ク・ライ・擬・ク・ライ (日当) ③ 中陰・陰  
 沼沢・沖積・高湿草・非固岩層・固岩層・水面上・その他(この表) (土湿) ④ 適・過・過湿  
 (面積) 10 × 10 m<sup>2</sup>  
 (出現種数) 11

階層	優占種	高さ(m)	植被率%	樹径(cm)	種数	備考
T <sub>1</sub> 高木層	アカマツ	25	75-95	14~30	3	
T <sub>2</sub> 亜高木層	ソヨゴ	15-20	75	3.5~14	3	
S 低木層	アセビ	2	50	~3.5	6	
H 草本層	ミセコザナ	0.3	10		1	
M 一年草						



09年6月27日 調査者 三津井 國田 牙直部

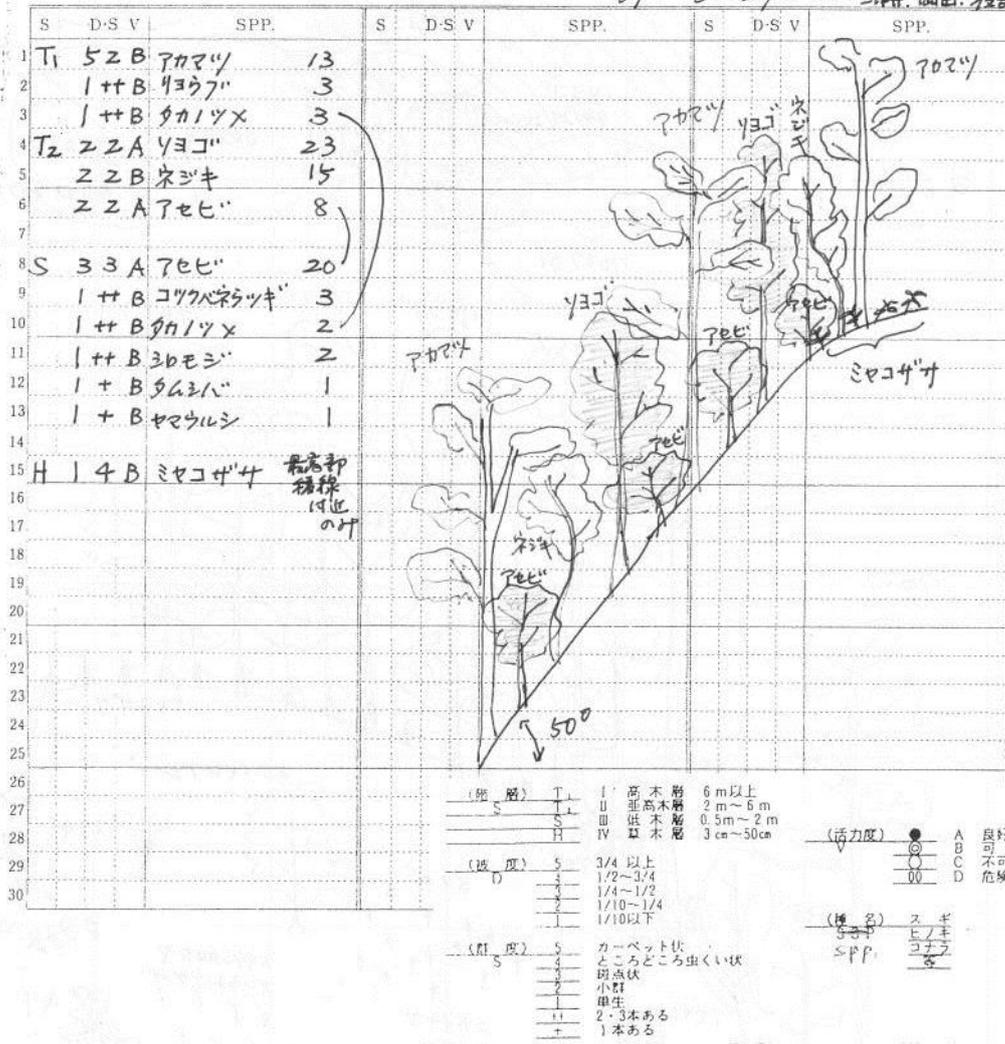


図 V-31 羽布町の山林のコドラート-2  
 アカマツ・ソヨゴ・ネジキ・アセビを中心とした林。

#### (5) 阿蔵・梨野とその周辺の植物

阿蔵峠近くの湿地とその周りにはツボスミレ、コナラ、マアザミ、コシアブラ、フジ、マンサク、ニガイチゴ、アケボノソウ、ヤブデマリ、ゴマナ、アブラガヤ、レンゲツツジ、バイケイソウ、バイカツツジ、リョウブ、アカシデ、シロモジ、カマツカ、ネジキ、カナクギノキ、ホオノキ、ズミ、イヌツゲ、ミヤマシキミ、ツタウルシ、コナラ、ウスギヨウラク、ドクゼリ、イボタノキ、エゴノキ、ヨツバムグラ、ゲンノショウコ、アセビ、コックバネウツギ、タ



写真 V-228 阿蔵峠近くにある湿地

カノツメ、メギ、ウメモドキ、サルトリイバラ、ツリフネソウ、カサスゲ、ミツバアケビ、ミヤコイバラ、ヤマイバラ、スイカズラ、モミジイチゴ、ツタウルシ、タニソバ、トウグミ、コハウチワカエデ、シキミ、オオカメノキ、ツルニガクサ、レンゲツツジ、モウセンゴケ、スギナ、ゼンマイ、シシガシラ、ヒカゲノカズラ、カンムリタケ等が見られる。

阿蔵川に沿って設楽町の境までにはアマナ、ジロボウエンゴサク、ネコノメソウ、ハルガヤ、ヤマネコノメソウ、コウヤミズキ、アカガシ、アカシデ、アキカラマツ、アケビ、アセビ、アブラチャン、イイギリ、イタドリ、イヌザンショウ、イロハカエデ、イワガラミ、ウスギヨウラク、ウスノキ、ウツギ、ウバユリ、ウリカエデ、ウワミズザクラ、エンコウカエデ、オオカメノキ、オランダミミナグサ、カキドオシ、カスミザクラ、カナクギノキ、カマツカ、カワミドリ、キツネノボタン、キバナノヤマオダマキ、キブシ、クマヤナギ、クリ、ゲンノショウコ、アジサイ、コシアブラ、ツクバネウツギ、コハウチワカエデ、コハコベ、コバノミツバツツジ、サルトリイバラ、サワフタギ、シシウド、ショウジョウバカマ、シロモジ、スイカズラ、スイセン、スイバ、ススキ、スズタケ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ダイコンソウ、タカノツメ、タチツボスミレ、タニギキョウ、タネツケバナ、タマアジサイ、タラノキ、ツボスミレ、ツリバナ、ニオイタチツボスミレ、ニガイチゴ、ニッコウネコノメ、ニリンソウ、ニワトコ、ネムノキ、ノイバラ、バイカツツジ、ハコベ、ハチク、ヤマネコヤナギ、ヒヨドリバナ、フキ、フジ、ボタンヅル、ミズキ、ミズメ、ミツバツチグリ、ミヤコイバラ、ミヤマウグイスカグラ、ミヤマシキミ、ムラサキケマン、ムラサキサギゴケ、ムラサキシキブ、メマツヨイグサ、モミジイチゴ、ヤブデマリ、ヤマアジサイ、リョウブ、ワサビ、トウゴクミツバツツジ、コハウチワカエデ、ミズメ、オオカサゴケ、クマワラビ、シシガシラ、ジュウモンジシダ、スギナ、ゼンマイ、ハクモウイノデ、ヒカゲノカズラ、ミヤマノキシノブ、ワラビ等が見られる。

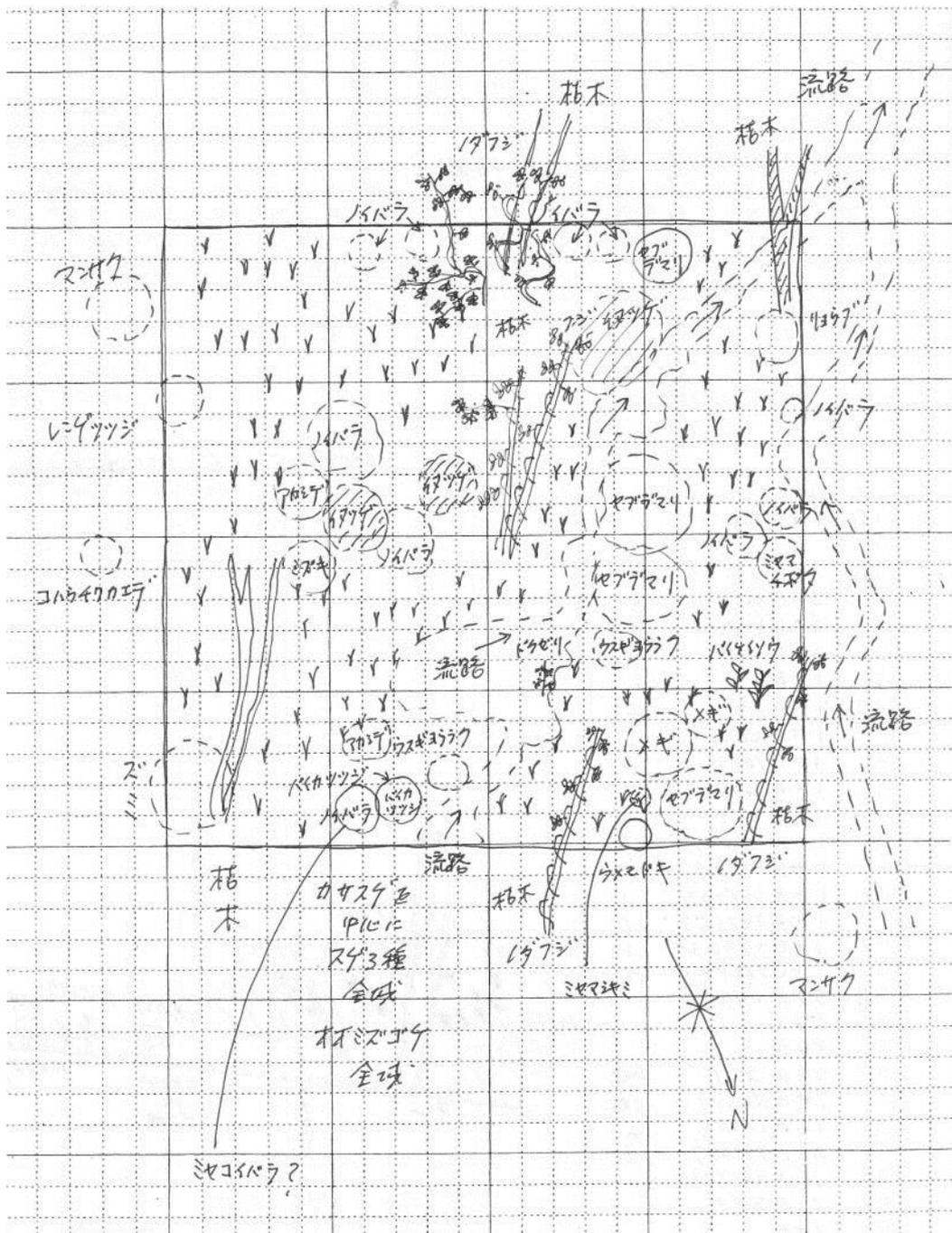


図 V-32 阿蔵峠近くにある湿地のコドラート-1  
 全域にオオミズゴケが生え、その中に低木が生えている。

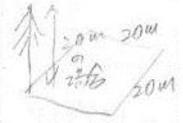
# 植 生 調 査 表

X72253-04

No. T02 異例名 (群落名) \_\_\_\_\_  
 調査地 愛知 豊田 阿蔵 町  
 (地形) 山 頂: 尾 根: 斜 面: 上・中・下・凸・凹: 谷: 平地 (風当) 強・中・弱  
 (土壌) 赤土性・褐森・赤・黄・黄褐森・アンド・クライ・擬グライ (日当) 陽・中陰・陰  
 沼沢・沖積・高湿草・非固岩層・固岩層・水面上・水面下・その他( ) (土湿) 乾・過・湿・過湿  
 (面積) 10 × 10 m<sup>2</sup>

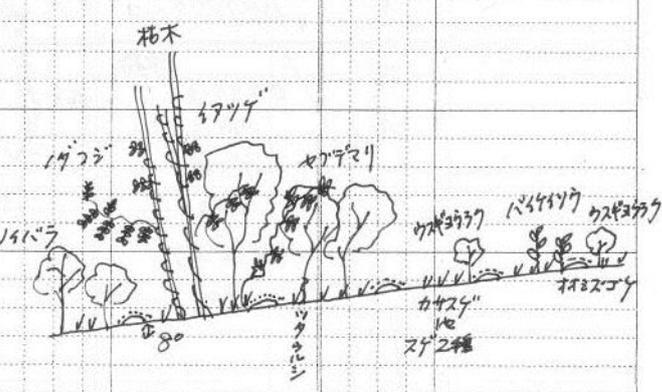
階層	異例種	高さm	植被率%	胸径cm	種数	(備考)
T <sub>1</sub> 高木層	柘木 (123477, 1322, エラ?)					
T <sub>2</sub> 亜高木層	1747, 2777, 721, 157 2		50	2	4	
S 低木層	147777, 277777		30		9	
H 草層	147777, 447777 157777		100		11	
M 二葉層	147777		3株			

河幅 1.25万 豊田 上河  
 (海拔) 830 m  
 (方位) N25°E  
 (傾斜) 8°  
 (出現種数)



2009年5月16日 調査者 三浦 隆利, 岡田 洋一郎

S	D-S V	SPP.	S	D-S V	SPP.	S	D-S V	SPP.
1	T <sub>1</sub>	1+D 柘木						
2								
3	T <sub>2</sub>	33B フジ 50%						
4		22B 1777			3			
5		22B 2777			3			
6		22B 1177			10			
7		1+B 277			1			
8	S	1+B X77			2			
9		1+B 2777?						
10		1+B 7777			2			
11		1+B 1777			1			
12		1+B 277			1			
13		1+B 177777			1			
14		1+B 277777			2			
15		1+B 177777			1			
16		1+B 277777			1			
17		1+B 777777			1			
18		1+B 277777			1			
19	H	55A カサズ						
20		54A 277						
21		54A 277						
22		13A コマナ 20株						
23		14A 177777 3株						
24		12B 777777 4						
25		23B 777777 ?						
26		12B コイスイレ						
27		12B スギナ						
28		14B 777						
29		1+B 277777 1						
30	M	55B オアシゴ						



(階層) T<sub>1</sub> 高木層 6m以上  
 T<sub>2</sub> 亜高木層 2m-6m  
 S 低木層 0.5m-2m  
 H 草層 3cm-50cm

(活力度) ● A 良好  
 ○ B 可  
 ○ C 不可  
 ○ D 危険

(樹名) スギ  
 ヒノキ  
 コナラ  
 等

(貯度) 5 カーベット状  
 4 ところどころ虫くい状  
 3 斑状  
 2 小群  
 1 単生  
 + 2・3本ある  
 + 1本ある

図 V-33 阿蔵峠近くにある湿地のコドラート-2  
 湿地の中にはヤブデマリやウスギヨウラク等の低木が見られる。

阿蔵町から宇連野町に登る沢にはナガバノスミレサイシン、フタリシズカ、ナベワリ、シソバタツナミ、ツヤナシイノデ、メギ、コバノミツバツツジ、シキミ、タラノキ、タカノツメ、ミヤマシキミ、カヤラン、アオキ、アカガシ、アカシデ、アカネ、アケビ、アセビ、イタドリ、イヌツゲ、イロハカエデ、イワガラミ、ウスギヨウラク、ウバユリ、ウリカエデ、ウワミズザクラ、オオイヌノフグリ、オオカメノキ、オタカラコウ、オモト、オランダミミナグサ、カキドオシ、カナクギノキ、カヤ、キッコウハグマ、キツタ、キツネノボタン、キバナノヤマオダマキ、クロマツ、クロモジ、コウゾリナ、コウヤボウキ、コシアブラ、コックバネウツギ、コナラ、コハウチワカエデ、コバノガマズミ、サルトリイバラ、シシウド、ジシバリ、シソバタツナミ、シャガ、ショウジョウバカマ、シロツメクサ、ジロボウエンゴサク、シロモジ、スイバ、スズタケ、スズメノヤリ、スノキ、セイヨウタンポポ、ソヨゴ、ダイコンソウ、タチツボスミレ、タニギキョウ、タネツケバナ、タマアジサイ、ツタ、ツリバナ、ツルアジサイ、ツルニンジン、ツルリンドウ、ヌカボシソウ、ノブキ、バイカツツジ、ハコベ、ハナイカダ、ハルガヤ、ハンショウヅル、ヒサカキ、フモトスミレ、ヘビイチゴ、ホオノキ、マキノスミレ、ミチタネツケバナ、ミツバツチグリ、ミヤコザサ、ミヤマシキミ、ムラサキケマン、モミ、モミジイチゴ、ヤダケ、ヤブデマリ、ヤマキツネノボタン、ヤマツツジ、ヤマネコノメソウ、ヤマハタザオ、リョウブ、クマワラビ、コウヤコケシノブ、ジュウモンジシダ、スギナ、ゼンマイ、トウゲシバ、ヤマイヌワラビ、リョウメンシダ等が見られる。

#### フタリシズカ（センリョウ科チャラン属）（二人静）

葉は対生し、頂上部では節の間が狭いので、4枚の葉が輪生しているように見える。ヒトリシズカに似ているが葉は4枚が輪生状に付き光沢がないので区別できる。

茎の先に1~4本（2本の場合が多い）の穂状花序を出し、小さな白い花をつける。その花には花弁も萼もなく、3個の雄しべが丸く子房を抱いている。内側に葯があって、雌しべも外から見えない。花序は立っているが、果実ができると下に曲がる。開花期が終わった夏~秋にかけては閉鎖花をつける。



写真 V-229 フタリシズカ

北海道、本州、四国、九州に分布し、山林の比較的暗い場所に分布する。高さは30~60cmの多年草。

旧阿蔵小学校の裏にある林道猫田線を登っていくとアオキ、アオツツラフジ、アカガシ、アカシデ、アカソ、アカマツ、アキカラマツ、アギスミレ、アキノタムラソウ、アケビ、アセビ、アブラガヤ、イタドリ、イナカギク、イヌウメモドキ、イヌザンショウ、イヌツゲ、イワガラミ、ウスノキ、ウツボグサ、ウリカエデ、ウワミズザクラ、エゴノキ、オオカメノキ、オオバギボウシ、オオバコ、オオミズゴケ、オカトラノオ、オニドコロ、カキドオシ、カキノキ、カナクギノキ、ガマズミ、カマツカ、カリヤス、ガンクビソウ、キウイ、キブシ、キレハノブドウ、キンミズヒキ、クサアジサイ、クサイチゴ、クズ、クラマゴケ、クリ、クロモジ、ケケンボナシ、ケチヂミザサ、ゲンノショウコ、コアジサイ、コウヤボウキ、コシアブラ、コチヂミザサ、コックバネウツギ、コナラ、コハウチワカエデ、コハコベ、コバノミツバツツジ、ゴマナ、ササガヤ、サネカズラ、サルトリイバラ、サワフタギ、サンカクヅル、サンショウ、シキミ、シャガ、ショウ

ジョウバカマ, シラキ, シロモジ, スイカズラ, スイバ, スズカアザミ, ススキ, スズタケ, スルガテナンショウ, セイタカアワダチソウ, ソヨゴ, ダイコンソウ, タカノツメ, タムシバ, チゴユリ, チャ, ツタウルシ, ツノハシバミ, ツリフネソウ, ツリバナ, ツルリンドウ, トウバナ, ドクダミ, トダシバ, トボシガラ, トリアシショウマ, ナギナタコウジュ, ナキリスゲ, ナンテン, ニガイチゴ, ニシキギ, ヌルデ, ネジキ, ネズミノオ, ネズミモチ, ノガリヤス, ノコンギク, ノササゲ, ノブキ, ノブドウ, ノリウツギ, バイカツツジ, ヒイラギ, ヒサカキ, ヒメコウゾ, ヒメジョオン, ヒメジソ, ヒメノガリヤス, ヒメムカシヨモギ, フキ, フジ, フタリシズカ, ヘクソカズラ, ホオノキ, マダケ, マタタビ, マンサク, ミズキ, ミズヒキ, ミゾソバ, ミツバ, ミツバアケビ, ミヤコイバラ, ミヤコザサ, ミヤマイボタ, ミヤマガマズミ, メリケンカルカヤ, モミ, モミジイチゴ, ヤノネグサ, ヤブコウジ, ヤブタデ, ヤブハギ, ヤブヘビイチゴ, ヤブマオウ, ヤブムラサキ, ヤマアジサイ, ヤマウルシ, ヤマキツネノボタン, ヤマグワ, ヤマツツジ, ヤマトウバナ, ヤマネコヤナギ, ヤマノイモ, ヤマボクチ, ヨツバムグラ, ヨモギ, リンドウ, ウメモドキ, ウスギヨウラク, フカギレオオモミジ, メギ, アケボノソウ, アマドコロ, オタカラコウ, カヤラン, キバナノヤマオダマキ, コウヤミズキ, コバノガマズミ, シロバナニガナ, クモキリソウ, ホタルブクロ, ヤマホタルブクロ, イヌガンソク, ハリガネワラビ, リョウメンシダ, イワガネゼンマイ, ゲシゲジシダ, スギナ, ゼンマイ, トウゲシバ, ワラビ等が見られる。道端にはカキラン等の湿地の植物が見られたが, 林道の舗装工事のため見られなくなった。11月初旬にはきれいに紅葉した木々がスギ・ヒノキの間に見られる。

梨野町にある林道大ブナ線沿いではツリフネソウ, イタドリ, ススキ, クズ, ヤブマメ, ヤハズソウ, ゲンノショウコ, ドクダミ, ノブドウ, スズタケ, ツユクサ, ヒメキンミズヒキ, コヌカグサ, イヌトウバナ, ヒヨドリバナ, タラノキ, ヘクソカズラ, ノリウツギ, ミズヒキ, ヌルデ, ヒメナミキ, クリ, オトギリソウ, ミツバ, ダイコンソウ, チヂミザサ, イヌガラシ, ヤマノイモ, スズメノヒエ, シロモジ, アオミズ, ヤハズソウ, ヒメジソ, オオモミジ, ヒカゲイノコズチ, ミョウガ, ツルマメ, リョウブ, マルバハギ, コブナグサ, アキノウナギツカミ, アカガシ (幹周り 171cm), アカシデ, モミ (幹周り 297.3cm), タカノツメ, コシアブラ, フキ, ミヤコザサ, ゲンノショウコ (ピンク色の花), コヌカグサ, ミズキ, シシウド, アカネ, オトコエシ, アセビ, モミジイチゴ, ツルニンジン, アキノタムラソウ, ニガイチゴ, ムラサキシキブ, ミツバアケビ, ヤマウルシ, オオカメノキ, ノコンギク, タムシバ, オニドコロ, ホトトギス, ムラサキニガナ, ゴマナ, シキミ, セイタカアワダチソウ, アカバナ, アケボノソウ, キウイ, サネカズラ, クサイチゴ, ケケンポナシ, ホオノキ, ソヨゴ, スイカズラ, オオバヤシャブシ, メリケンカルカヤ, サンショウ, ネジキ, アメリカセンダングサ, オオアレチノギク, アカメガシワ, ブナ, アカソ, エゴノキ, コバノガマズミ, ツタ, フジ, イヌザンショウ, ヒサカキ, シュウブソウ, キツネノボタン, モウソウチク, ヤマニガナ, タニソバ, シラキ, スギナ, ゼンマイ, リョウメンシダ, シシガシラ, ヘビノネゴザ, ヒカゲノカズラ, テリハヤブソテツ等が見られる。林道を上って行くにつれて乾燥してくるので見られる植物が変わってくる。

ホトトギス (ユリ科ホトトギス属) (杜鵑草)

茎はふつう枝分かれせず, まっすぐか倒れかかったように斜めにのび, 場所によっては群生している姿をみかける。花被片は6個で, 平開せず斜め上に向かって開く。外花被片3個は内花被片3個より幅が狭い。花被片の内側には6個の雄しべがある。花柱は太く, 柱頭が深く3裂し,

先端が更に2裂して平らに開く。花被片，花柱，柱頭，花糸，葯の上側にも紅紫色～青紫色の斑点がある。茎には上向きの毛が密生する。

ホトトギス属は日本には12種分布しているが，このうちの10種は日本だけに生育する日本固有種である。日陰のやや湿った斜面や崖，岩場に見られ，北海道西南部，本州（関東以西），四国，九州に分布する多年草。



写真 V-230 ホトトギス

ナンカイイワカガミ（イワウメ科イワウチワ属）（南海岩鏡）

ヒメイワカガミの変種で，山地の林の縁で岩場や礫のあるような場所に生える常緑の多年草。本州中部の太平洋側（関東・中部）の山地に分布する。

葉は柄があり卵形で鋸歯は3角形（10～19対）で刺状に伸びる。表面は光沢があり裏面はやや白色を帯びる。冬は紅葉する。

花は総状花序に5～10個の花を付け白色～淡紅色で，花冠の先が細かく裂ける。雄しべ5個。仮雄しべ5個は短い。

雌しべ1個，柱頭は濃いピンク色。萼片は5個。オオナンカイイワカガミと分類する考えもある。

母種のヒメイワカガミは本州（中部地方以北）に分布し，葉の基部に鋸歯がなく，葉の鋸歯が2～5対と少ない。



写真 V-231 ナンカイイワカガミ

イヌブナ（ブナ科ブナ属）（犬撫）

ブナよりも数が少なくまれに見られる程度なので，個体は多くないようだ。

これもイヌがついている。ブナが木に無いという字を書くのに，それにましてイヌをつけるとは。もうこれ以上最低な木は無いという意味だろうか。ブナよりも材木としての品質が劣ることからきている。もしかしたら葉の裏面に毛が生えているのでイヌとつけたのかもしれない。葉の表面の毛は春が過ぎると脱落していく。



写真 V-232 イヌブナ

別名をクロブナとも言うが，これも樹皮の白いブナに対して，樹皮が黒味がかかるためである。本州（岩手県以南の主として太平洋側），四国，九州に分布する落葉高木。

## （6）大桑川流域の植物

大桑川沿いにはキクザキイチゲの美しい姿が見られる。アマナ，ニリンソウ，ジロボウエンゴサク，レンブクソウ，オオバタネツケバナ，ヤマドリソウ，ミミナグサ，ツルボ，キランソウ，セキショウ，ヤマネコノメソウ，ヤブラン，ミヤマヨメナ，樹木ではイヌガヤ，ウグイスカグラ，ヒイラギ，イボタノキ，ニシキギ，ケケンボナシ，ヤマツツジ，タムシバ，ツルマサキ，ツノハシバミ等が見られる。

### アマナ (ユリ科アマナ属) (甘菜)

鱗茎や葉に甘味があり食べられることからこの名がある。この鱗茎にはカタクリに類似した良質のデンプンを含んでいる。鱗茎がクワイに似ているので別名をムギクワイという。

葉は2枚出て、ほぼ同じ大きさのものが向かい合う。この葉の間から花茎を立て、その先端に花を一つだけつける。上向きかやや斜めに向く。晴れた日には花がよく開くが、曇りの日には閉じている。



写真 V-233 アマナ

花被片は6個、披針形で先端がやや尖る。その裏に細い暗紫色の脈がある。雄しべは6個で花被片より少し短く、葯は黄色。花の下部の苞は普通2個(まれに3個)つく。

種子から芽生えて何年かは1枚の葉しか出さずに花をつけない。地下の鱗茎に十分な栄養が蓄えられると2枚の葉を出し、花をつける。これはカタクリの生活史と同じである。葉はほかの草が大きくなり、木々の葉が茂る初夏には地上から姿を消す。いくなればカタクリやニリンソウ等と同様に、いわゆるスプリング・エフェメラル(春の妖精)の一種である。

ツルボの葉とよく似ているし、同じ場所に生えていることがある。葉の色が淡い緑色、葉が1枚もしくは対になって生えていることが特徴である。

河川敷や田の土手等日当たりのよい湿り気の十分なところを好むので、草刈りがされなくなって周りの草が大きく育つような場所になってしまうと絶えてしまう。河原にある場合は大水が出た時に流されたり埋もれたりすることがある。

本州(福島県以南、石川県以西)、四国・九州・奄美大島に分布する。

### キクザキイチゲ (キンボウゲ科イチリンソウ属) (菊咲一華)

早春に芽を出し、春に花をつけ結実させて、6月には地上から姿を消す。いわゆるスプリング・エフェメラル(春の妖精)と呼ばれる植物たちの一つである。

日が当たってくると花を開き始め、日が陰ってくると花を閉じる。花弁のように見えるのは萼片で8~12個ほどあり茎葉は柄のある3小葉で小葉は深く切れ込む。根茎は地中を横に這う。



写真 V-234 キクザキイチゲ

北海道、本州(東北、関東、中部、近畿、岡山)に分布する。日本固有種。

巴川沿いの河原で砂地のある場所で生育している姿を見ることができる。花が純白系とうっすら紫色をした2系統がある。その中で少し青色をした花をつける群落が1か所ある。以前はイノシシに荒らされて絶滅の危機があったが、水田を守るために柵で囲ったためイノシシが入らなくなり、群落が大きくなってきた。

### レンプクソウ (レンプクソウ科レンプクソウ属) (連福草)

おもしろい花である。どこがおもしろいかというと横向きの花を4個つけ、上向きの花を1個つける。このような形の花はほかにない。

側面の花は花弁のように見えるのは花冠で5裂して、萼は3裂している。雄しべは10個あり

葯は1室.

上向きの花は花卉のように見えるのが花冠で4裂している. 萼はそれらの間にあるが, 0~4裂まであり株によって異なる. 花柱は4裂していて, 先は丸い. その周りにある8つの丸は雄しべで8個ある. 中国では5個の花がつくため五福草という.

矢作川とその支流の巴川, 阿摺川等の河原で砂地の所に生える多年草.

北海道, 本州に分布する.



写真 V-235  
レンプクソウ-1



写真 V-236 レンプクソウ-2  
側面の花



写真 V-237 レンプクソウ-3  
上向きの花

#### (7) 花山湿地

道路新設のために山が削られ, 残された斜面に少し湿地がある. ここではアカバナ, ウメバチソウ, ホタルイ, ボントクタデ, サワギキョウ, ヒメシロネ等が見られ周りの草地にはマツムシソウ, オミナエシ, リンドウ, レンゲツツジ, キキョウ, リュウノウギク等が見られる.

#### サワギキョウ (キキョウ科ミゾカクシ属) (沢桔梗)

湿地に生え鮮やかな紫色の花を咲かせて美しいが, 全草に有毒なアルカロイドを持っている. 花は上下2唇に分かれ, 上唇は2つに裂けて横に張り出し, 下唇は3つに裂けて前に突き出る. ほかのキキョウ類とは花形が全く異なる.

雄性先熟で, 雄しべから花粉を出している雄花期と, その後に雌しべの柱頭が出てくる雌花期がある. 雄しべは筒のようになって先が下を向き, 花にやってきた昆虫の背中に花粉が着きやすいようになっている.

茎は枝分かれしない. 太い根茎があり, 冬に地上部は枯れる. 高さは50~100cmになる多年草.

北海道, 本州, 四国, 九州に分布する.



写真 V-238 サワギキョウ

その近くの花山小学校付近の道路沿いではアオキ, アオツヅラフジ, アカマツ, アケビ, アセビ, アラカシ, アレチヌスビトハギ, イヌツゲ, オオイヌノフグリ, オモト, オランダミミナグサ, カキドオシ, キヅタ, クリ, コナラ, コハコベ, コモチマンネングサ, サカキ, サネカズラ, シシガシラ, シヤガ, ジャノヒゲ, シラカシ, シロツメクサ, スイバ, ススキ, セイタカアワダ

チソウ、セリ、センニンソウ、ソヨゴ、タカノツメ、タネツケバナ、タマゴケ、チャノキ、ツルリンドウ、トウゲシバ、トラノオシダ、ナンテン、ハコベ、ハチク、ヒイラギ、ヒメオドリコソウ、フキ、マダケ、マンリョウ、ミチタネツケバナ、ミミナグサ、ミヤマノキシノブ、メリケンカルカヤ、モウソウチク、モチツツジ、モミジイチゴ、ヤブコウジ、ヤブツバキ、ヤマネコノメソウ、ヨモギ、リョウブ、リョウメンシダ、ワラビ等が見られる。

#### ヒイラギ (モクセイ科モクセイ属) (柃)

葉に特徴があり革質で光沢あり、縁には先が鋭い刺となった鋭鋸歯がある。老樹になると葉の刺は次第に少なくなり、無くなって全縁となってしまう。木が若い頃は樹高が低いため草食動物等に食べられてしまう危険性が高いため棘で守っていて、生長して樹高が高くなるとその必要がなくなるため棘の必要がなくなってくると考えられる。

花期は11月で葉腋に白色の小花を密生させる。花冠は4深裂し、雄株の花は2本の雄しべが発達し、雌株の花は花柱が長く発達して結実する。

関東地方以西～沖縄の山地に生える常緑小高木で高さ4～8mになる。雌雄異株。



写真 V-239 ヒイラギ-1



写真 V-240 ヒイラギの実  
熟すと紫黒色になる

#### (8) 上弓沢保全地区

ここではミズオトギリ、ミズオオバコ、ドクゼリ、ヘラオモダカ、サワギキョウ、ホタルイ、コナギ、ヤノネグサ等が見られる。イノシシに荒らされやすい場所ではあるが近くに放棄水田があり近寄るにも草をかき分けて行かなければならず、そのため人が入りにくくなっている。

#### ミズオトギリ (オトギリソウ科 ミズオトギリ属) (水弟切)

花は午後3時から4時に開き夕方にはしぼむといった特徴を持っている。オトギリソウの仲間は黄色の花をつけるが、ピンク色の花をつけるのはミズオトギリだけである。

花は淡い紅色の5弁花で茎の先や葉腋に数個つき、直径約1cm。1日に1個ずつ開花する。花後に果実が赤く色づき、秋には葉が紅葉する。

北海道～九州の池や沼、湿原等に生える多年草。

#### マツムシソウ (スイカズラ科マツムシソウ属) (松虫草)

草丈が高さ50～100cmになり、花は茎の上部で枝分かれして、茎頂に一つ淡青紫色の花をつける。その花は直径4cm前後で多くの花が集まった頭状花を形成する。草原の初秋をいろどる花の一つである。

最近では植林をしたままになった山，草刈りをしなくなった田畑の土手が急激に増えてきてこのマツムシソウも含めて里山の植物たちには住みにくい環境になってきている。

北海道～九州に分布し日本の固有種で山地や丘陵の日当たりの良い草原に生育する2年草。

愛知県：準絶滅危惧（NT）



写真 V-241 ミズオトギリ



写真 V-242 マツムシソウ

#### (9) 和合・黒坂付近の植物

林道和合黒坂線で見られる植物はツリフネソウ，ナキリスゲ，アカネ，チヂミザサ，ハシカグサ，キツネノマゴ，ヤマノイモ，ヘクソカズラ，ヨモギ，ニガイチゴ，オオアレチノギク，ヒョドリバナ，アオミズ，オトコエシ，ウツギ，ゲンノショウコ，ヤブマメ，ススキ，アズマヤマアザミ，サルナシ，ヤマジノホトトギス，クサアジサイ，アキノタムラソウ，ガンクビソウ，ウリカエデ，テイカカズラ，ツタウルシ，アセビ，コシアブラ，クロモジ，アブラチャン，シュウブソウ，ツユクサ，オトギリソウ，クズ，ツルニンジン，ダイコンソウ，ヌスビトハギ，イヌザンショウ，サンショウ，ヘビイチゴ，オッタチカタバミ，カタバミ，ユウガギク，ベニバナボロギク，ニガイチゴ，ヌルデ，ミツバ，ヒサカキ，サルトリイバラ，オオバコ，タケニグサ，イタドリ，ムラサキシキブ，ヤマウルシ，ネムノキ，ホオノキ，コナラ，クリ，コアジサイ，ハリエンジュ，オニドコロ，シラカシ，ナワシロイチゴ，コウゾ，ミズキ，アオツツラフジ，キンミズヒキ，クサイチゴ，フキ，ヤダケ，アカソ，イヌタデ，ミズヒキ，タカノツメ，ソヨゴ，アギスミレ，チゴユリ，ツルアリドオシ，ナンテン，キブシ，シラヤマギク，リョウブ，マルバハギ，ヤマツツジ，アキノキリンソウ，ノギラン，アカシデ，イナカギク，オカトラノオ，コアカソ，キリ，ダンドボロギク，イヌトウバナ，ヤマジソ，サワヒヨドリ，ネコハギ，キレハノブドウ，アレチマツヨイグサ，アキカラマツ，ニガナ，ハルジオン，ゴンズイ，ヤブムラサキ，ツクバネガシ，タラノキ，アケビ，アカマツ，クマイチゴ，イワガラミ，ミツバアケビ，クサギ，ケケンポナシ，ツノハシバミ，モミ，イヌホオズキ，イワガネソウ，ハリガネワラビ，リョウメンシダ，シシガシラ，ヒカゲノカズラ，コウヤワラビ，ゼンマイ，ホソバトウゲシバ，ヤブソテツ等が見られる。

#### オカトラノオ（サクラソウ科オカトラノオ属）（丘虎の尾，岡虎の尾）

茎は枝分かれせずまっすぐのびてその先に 白い小花を密に付けて房状の花穂をつくる。花は茎に近いところから咲き始め，次から次へと咲かせ長期間花を見ることができる。花冠は白色で5，6裂しその先は丸みがある。中央には雄しべは5個と雌しべは1個がある。

北海道～九州に分布し，山野の日当たりのよい草原，道端に生える多年草。普通群生する。地下茎を長くのばして増える。背丈は50～1mほどになる。

仲間にはヌマトラノオ、オカトラノオとヌマトラノオの  
雑種イヌトラノオ等がある。



写真 V-243 オカトラノオ

林道藤巻線沿いではアカソ、アキカラマツ、アキノタムラソウ、アケビ、アズマネザサ、アセビ、アブラガヤ、アリماغミ、イ、イヌウメモドキ、イヌガラシ、イヌガンソク、イヌシダ、イヌツゲ、ウシハコベ、ウスノキ、ウツギ、ウマノアシガタ、ウメモドキ、ウラジロ、ウリカエデ、ウワミズザクラ、エゴノキ、オオイヌノフグリ、オオカメノキ、オオバコ、オオバタネツケバナ、オオバノイノモトソウ、オオミズゴケ、オウツチカタバミ、オニタビラコ、オランダミミナグサ、カキドオシ、カキノキ、カサスゲ、ガマズミ、カマツカ、カラムシ、カワヤナギ、キセルアザミ、キュウリグサ、キランソウ、クリ、クロマツ、クロモジ、ケキツネノボタン、ゲジゲジシダ、ゲンゲ、コアジサイ、ゴウソ、コウゾリナ、コシアブラ、コツクバネウツギ、コナスビ、コナラ、コバノガマズミ、コバノミツバツツジ、コマユミ、コメツブツメクサ、コモチマンネングサ、サギゴケ、サクラバハシノキ、ササユリ、サツキ、サネカズラ、サルトリイバラ、サワフタギ、シシガシラ、ショウジョウバカマ、シロツメクサ、シロモジ、スイカズラ、スイバ、スギナ、スズメノヤリ、ズミ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、センニンソウ、ゼンマイ、ソヨゴ、タカノツメ、タケニグサ、タチイヌノフグリ、タネツケバナ、タムシバ、タラノキ、チゴユリ、ツタウルシ、ツノハシバミ、ツボスミレ、ツメクサ、ツリガネニンジン、ツリバナ、ツルウメモドキ、ツルグミ、ツルニンジン、ツルリンドウ、トウカイタンポポ、トウギボウシ、トウグミ、トウゲシバ、トウバナ、ドクゼリ、ドクダミ、ニガイチゴ、ニガナ、ニシキギ、ニョイスミレ、ニワゼキショウ、ニワフジ、ヌカボシソウ、ヌマトラノオ、ヌルデ、ネコヤナギ、ネジキ、ネムノキ、ノイバラ、ノキシノブ、ノチドメ、ノブドウ、ノミノフスマ、ノリウツギ、バイカウツギ、ハコベ、ハナニガナ、ハハコグサ、ハルガヤ、ハルジオン、ハンショウヅル、ヒカゲノカズラ、ヒサカキ、ヒメカンアオイ、ヒメカンズゲ、ヒメコウゾ、ヒメジョオン、ヒメハギ、フキ、フジ、フトヒルムシロ、フモトスミレ、フランスギク、ベニシダ、ヘビイチゴ、ホオノキ、ボタンヅル、マキノスミレ、マダケ、マムシグサ、マンサク、ミツデウラボシ、ミツバ、ミツバアケビ、ミツバツチグリ、ミミナグサ、ミヤコイバラ、ミヤコザサ、ミヤコツツジ、ミヤマイボタ、ミヤマガマズミ、ミヤマシキミ、ムラサキシキブ、メギ、モチツツジ、モミジイチゴ、ヤエムグラ、ヤシヤゼンマイ、ヤハズエンドウ、ヤブウツギ、ヤブデマリ、ヤマウルシ、ヤマザクラ、ヤマジノホトトギス、ヤマツツジ、ヤマネコヤナギ、ヨツバムグラ、ヨモギ、リュウノウギク、リュウブ、リュウメンシダ等がある。

リュウノウギク（キク科キク属）（竜腦菊）

茎、葉に揮発油が含まれ、葉を手でもむと良い香りがする。その香りが竜腦に似ていることからこの名がある。

地下茎はのびて、まばらに茎を立てて株立ちになり、小さな群落を作る。高さ40～80cmにな

るが、ほとんどが斜めにのびるか、斜面から垂れ下がる。秋の終わりに茎の先端に1~3個の花をつける。この花が終わる頃冬を迎える。

道端の斜面等林縁部の日向に生える。日本固有種の多年草である。

本州（福島県・新潟県以南）・四国・九州（宮崎県）に分布する。



写真 V-244 リュウノウギク

サクラバハンノキ（カバノキ科ハンノキ属）（桜葉榛の木）

湿地や沢等に生育し樹高10~20mになる落葉高木。樹皮はなめらかで割れ目は入らない。雌雄同株で葉の展開前に開花する。雄花序が先端に垂れ下がり、基部に雌花序が立ち上がってつく。

ハンノキの樹皮は縦に割れ目が入る。葉の基部が楔形で、側脈が7~9対ある。本種は葉の基部が心臟形になる、葉の横幅が広く側脈数が9~12対あることで区別ができる。

本州（岩手県、新潟県以南）、九州（宮崎県）に分布する。

環境省：準絶滅危惧（NT）

ツノハシバミ（カバノキ科ハシバミ属）（角榛）

雌雄同株、雌雄異花で葉より先に花が開き、雄花序は葉腋に数個が集まり、秋から徐々に大きくなり始める。開花時にはのびて10cm前後になり下垂する。雌花序は、数個の花が頭状に集まり、赤い柱頭がのびて芽鱗からのぞく。花が終わると葉が広がり始める。

果実は9月下旬~10月上旬頃に熟し1~5個が集まってつく。果実の筒状の総苞は緑色で外面に刺毛を密生し、くちばし状に長くのびた独特の形をしている。この実は生でも食べられるが煎って食べるともっと美味しくなる。

明るい二次林の日当りのよい林床や林縁に生育する落葉低木で高さ4~5mになる。北海道~九州に分布する。



写真 V-245 ツノハシバミ

田螺池にはヒツジグサが浮かび、周りにはザイフリボク、アズキナシ、コナラ、アカマツ等が見られる。



写真 V-246 田螺池  
静かな田螺池にヒツジグサが見られる

ヒツジグサ（スイレン科スイレン属）（未草）

未（ひつじ）の刻（午後2時）頃に花を咲かせることから、ヒツジグサと名付けられたといわれるが、実際はもっと早くから夕方まで咲いている。

地下茎から茎を伸ばし、水面に葉と花を1つ浮かべる。花の大きさは直径3~4cm、萼片は4

枚、緑色で花弁より長く、花弁が10枚ほどの白い花を咲かせる。花弁と雄しべは雌しべの下半部にらせん状につく。雄蕊も多数で、雌蕊は多数の心皮が合生して1つとなる合生心皮である。柱頭基部の付属物が発達して偽柱頭となり、内側に折れ曲がって柱頭を覆い、本来の柱頭は偽柱頭に隠れて見えない。花は夜間は閉じ、数日間開閉を繰り返し、その後、花柄は螺旋状に振れて水中に没し、沈水状態で結実する。花は6月頃から咲き始め、秋まで続いて花期が長い。



写真 V-247 ヒツジグサ

水底の泥中に太い茎があり、先端から葉が束生する。浮葉と沈水葉を持っており、冬の間浮葉は枯れて沈水葉のみとなる。

水位の安定した、貧～中栄養の水質の池に生育する多年草。北海道、本州、四国、九州の池や沼に広く分布している。寒さに強く、山地の沼や亜高山帯の高層湿原にも生えている。

#### (10) 蕪木町の椿沢橋付近の植物

人工林・二次林の中の植物はアカマツ、モミ（幼木）、オキアガリネズ、ヒノキ（植栽）、イヌガヤ、クリ、アベマキ、コナラ、シラカシ、アラカシ、ツクバネガシ、アカガシ、サカキ、ヒサカキ、ヤブツバキ、フジ、ネムノキ、ヤマハギ、シャシャンボ、ヤマツツジ、バイカツツジ、モチツツジ、コバノミツバツツジ、ネジキ、アセビ、ナツハゼ、スノキ、ウスノキ、リョウブ、タカノツメ、コシアブラ、タラノキ、ウド、ヤマウルシ、ヌルデ、ヤマハゼ、キツタ、ノブドウ、コアジサイ、ノリウツギ、ソヨゴ、イヌツゲ、アオハダ、エゴノキ、ヘクソカズラ、ウリカエデ、イロハカエデ、ノイバラ、テリハノイバラ、ニガイチゴ、モミジイチゴ、カマツカ、アズキナシ、ウラジロノキ、カナメモチ、コジキイチゴ、ヤマザクラ、カスミザクラ、ウワミズザクラ、ゴンズイ、スイカズラ、コツクバネウツギ、ツクバネウツギ、ヤマウグイスカグラ、コバノガマズミ、ミヤマガマズミ、ガマズミ、サワフタギ、ヒメヤシャブシ、ケヤマハンノキ、アカシデ、サネカズラ、イソノキ、クロモジ、シロモジ、ヒイラギ、ネズミモチ、アオキ、テイカカズラ、ツルグミ、ウラジロマタタビ、サルトリイバラ、ショウジョウバカマ、ノギラン、タチツボスミレ、フモトスミレ、アマチャヅル、チダケサシ、ミツバツチグリ、ヨツバムグラ、オオバノトンボソウ、シュンラン、セキショウ、イチヤクソウ、シラヤマギク、ニガナ、イヌトウバナ、ウツボグサ、ゲンノショウコ、コナスビ、クサソテツ（植栽）、ヒメワラビ、ヒカゲノカズラ、ゼンマイ、ウラジロ、トウゴクシダ、ヒメシダ、オカトラノオ、ヒヨドリジョウゴ等がある。

湿地となった水田の中にはフトヒルムシロ、ナガエミクリ、ホテイアオイ、サジオモダカ、アギナシ、ミゾソバ、ヤノネグサ、ヌマトラノオ、シカクイ、イ、ヒデリコ、ゴウソ、オニスゲ、チゴザサ等が見られる。

#### ヌマトラノオ（サクラソウ科オカトラノオ属）（沼虎の尾）

池の縁や湿地、田の畦や休耕田、用水路脇等に生育する多年草、オカトラノオと似ているが、花穂がまっすぐ立って葉も小さい。茎の先に総状花序を直立し、白い小さな花を多数つける。花冠は白色で5裂し雄しべは5個。雌しべ1個で柱頭は4岐する。

本州、四国、九州に生える多年草で、地下茎を長くのばして増える。

イチヤクソウ（イチヤクソウ科イチヤクソウ属）（一葉草）

コナラやアベマキ林の縁やその中、マツ林等木もれ日の入るような場所に生えている姿をよく見かける。落ち葉に埋もれそうになっている時が多い。

葉の間から長さ 15～30 cm ほどの花茎をのびし、3～10 個の総状花序をつける。花は下向きに咲き白色で花冠が深く 5 裂し、花柱は細長く、湾曲し、柱頭は小さく 5 裂する。雄しべは 10 個ある。地下茎を出しのびていくため群生することが多い。

北海道～九州に分布する常緑の多年草。



写真 V-248 ニマトラノオ



写真 V-249 イチヤクソウ

ヤマウグイスカグラ（スイカズラ科スイカズラ属）（山鶯神楽）

長い花柄の先に淡紅色の花を 1 個まれに 2 個下向きにつけ、花冠の先は 5 裂する。雄しべは 5 個、雌しべは 1 個あり、雌しべは花冠から少し飛び出す。

葉は対生し全縁で縁には疎毛がある。生育の良い条件のときに、葉柄の基部が耳状に広がり、幹を抱くように、言うなれば刀の鏝（つば）のようになる。

少し透明感のある赤色の液果をつけ、ほんのり甘く食べられる。

冬芽の春の動きは早く、豊田市自然観察の森では 1 月中旬には花が咲き始める。しかし多くの花が咲くようになるのはもう少し先である。

北海道南部～九州の山野の日当たりのよいところ、山地に生える。よく分枝して茂り、高さ 1～2m ほどになる。

葉や葉柄、花等に生える毛があるものをヤマウグイスカグラ、毛がないものをウグイスカグラと分けるが、変化は連続的で分布域も重なることから分ける必要はないという考えもある。



写真 V-250 ヤマウグイスカグラ

(11) その他特徴的な植物

ヤマトキソウ（ラン科トキソウ属）（山朱鷲草）

湿地に生えるトキソウは人気が高いが、こちらはそれほどでもない。花の色は淡いピンクで、花茎の先につき上向きで、3つの萼片がわずかに開いている程度である。高さは 10～20cm 程度。草の中に混じっていると探すことが難しい。

北海道、本州、四国、九州に分布し、日当たりの良い湿った草地や湿地の周縁部に生える多年

草.

愛知県：絶滅危惧 II 類 (VU)

クリンソウ (サクラソウ科サクラソウ属) (九輪草)

葉は根生葉で春に地表に大きく広げ、高い花茎を立ち上げる。花は茎に多数段をなして輪生してつき、花茎の下方から咲き上がる。花弁は5個に見えるが基部がついている合弁花である。個体ごとに短花柱花(花柱が見えない)と長花柱花(花柱が見える)とがあり、自家受粉を防ぐ仕組みになっている。

北海道、本州、四国に分布し、湿地や沢沿いに自生する多年草で日本固有種である。下山地区では1か所で見られる。

小林一茶は、四段しかない九輪草を「九輪草四五りん草で仕廻けり」と詠んでいる。

愛知県：準絶滅危惧 (NT)



写真 V-251 ヤマトキシソウ



写真 V-252 クリンソウ

ナガエミクリ (ミクリ科ミクリ属) (長柄実栗)

湖沼、ため池、河川、水路等に生育する抽水～浮葉植物で、下山地区では放棄水田や水田の脇にある水路や水がたまっている場所で見られる。花序の上部には雄性頭花がつき、部には雌性頭花がつく。果実は紡錘形で、短い柄がつく。根茎は短いですが地下に長い走出枝を出して群生することが多い。

北海道(南西部)、本州、四国、九州に分布する。

環境省：準絶滅危惧 (NT)

サワオグルマ (キク科キオン属) (沢小車)

茎の先に散房花序を出し、頭花をつける。花には柄があり、下部の花ほど柄が長いので、どの花もほぼ平らになっているように見える。

サワオグルマは日当たりのいい山野の湿原、水辺、耕作放棄水田、水田脇等、湿った場所を好む。日当たりのよい水田のあぜ等によく見られるオカオグルマによく似ていて区別しにくい。

茎は直立し、中空。全体にまばらにくも毛がある。瘦果は無毛。オカオグルマはくも毛の量が多くて目立ち、瘦果は有毛。この瘦果を見ることが一番の区別の方法である。

本州、四国、九州、沖縄に生える多年草。日本固有種。

## (12) まとめ

山林はスギ、ヒノキの植林に覆われており、落葉樹の残る自然林や二次林は少ない。植林地も多くは間伐がされておらず暗く貧相な植生になっている。国道、県道、広域農道、林道沿いの整備がされているところでは園芸樹木の植栽とともに、オオキンケイギクやオオハンゴンソウ、アレチウリ等の外来種が侵入してきている。また、東部地区のクリンソウが生育している谷筋湿地が産廃・残土で埋め立てされたり、三河湖周辺の石切り場跡のイヌノハナヒゲの生える湿地が駐車場整備のためか盛り土されて消失しているようなところが見受けられる。

しかしながら、三河高原の朝霧湖や三河湖を囲む山域に点在する根池、田螺池等の湖沼・湿地には、ノハナショウブやカキツバタの混生やクサレダマ、ヤマトキソウ、ジュンサイ、ヒツジグサ等の湿生・水生植物が自生しており未だ自然度が高く残されている。今後、ミズバショウ等他地域の植物を持ち込むことによって荒廃させることがないように慎重な自然保全がなされることが必要である。

また、郡界川流域のように開発の進んでいるところでも、山際の谷内田周辺には、湧水湿地やかつて水田に谷の水を温めて引くための「ぬるめ」等に、サワオグルマ、ナガエミクリ、マツムシソウ等、現在、生育数が少なくなっている貴重な植物が残っている。愛知県の企業用地開発の結果、下山・岡崎市境にまたがるこれらの谷内田周辺の自然度の高さが注目されてきており、今後何らかの保存計画が進められることが期待されている。